



和語
至療

日用指南大成全

ヤ 9
1093



179
1093

91-1875



日用醫療指南大成序

夫人有此身必有所感傷於內
 外而不能無疾也惟所共情者
 醫而已假令以之雖不為業常
 有志效其蹊徑者於卒症或旅
 途無醫之地救急扶危其仁濟
 未必無小補矣故集診脈察證
 大意施治療養綱條而綴以和
 語撰醫書一帙題曰和語醫療

日用指南蓋欲以令知蒙愚
 對症投劑之階隊耳敢望識
 達之觀覽哉因爲之序

昔正德五乙未歲春正月吉且
 洛下隱匿法橋岡本爲竹一抱子



日用醫療指南大成目錄

- 脈採樣 五丁目
- 五臟六腑の事 九丁目
- 五藏乃主りの事 十四丁
- 五藏補浮温涼の藥 十六丁目
- 中風 十七丁目
- 感冒 十八丁目
- 傷寒 十九丁目
- 同舌形二十六種 廿六丁目
- 疫癘 廿七丁目
- 寒 廿八丁目
- 暑 廿九丁目
- 注夏病 卅二丁目
- 濕 卅四丁目

痰 甘 咳 喘 喘 息

五十五目

世浮

五十七目

痢病 付 疫痢

四十一目

瘡

四十二目

水腫脹滿 付 諸病腫

四十六目

黃疽 付 福病

四十八目

疝氣

五十一目

淋病 付 小便閉 小便濁

同丁目

小便血 閉格病

同丁目

食傷 付 腹痛吐逆 霍亂

五十二目

積聚 付 婦人血塊

五十四目

頭痛

五十五目

虛勞 付 勞咳 勞瘵

五十六目

傳屍病

氣病

五十九目

心痛

同丁目

諸痛 付 腰脇背臂

六十目

痛風 付 風毒腫 癰膝風

同丁目

脚氣 付 麻痺 不仁 痿躄

六十一目

消渴

六十二目

膈證 付 噎 翻胃 噦

六十三目

諸血症 付 吐血 衄血 咳血 六十四目

眩暈 付 嘔血 溺血 便血 腸風 瘰癧 瘰癧 瘰癧

六十六目

健忘 付 怔忡 驚悸

同丁目

虛煩 付 心忪 怔忡 驚悸

六十七目

付不寐 補心 七十七目

汗症 六十八目

遺精 遺瀉 同丁目

大便閉 同丁目

癩癩 狂氣 邪祟 同丁目

瘡 六十九目

脱肛 同丁目

眼病 七十一目

口中 付 齒唇 咽喉 七十一目

喉 骨硬 七十一目

耳病 七十一目

鼻病 付 面病 同丁目

虫の症 付 寸白 同丁目

痔 付 漏 七十三目

瘰癧 同丁目

發班 并 丹毒 七十四目

癰疽 付 下疳 便毒 同丁目

膿瘡 楊梅瘡 骨痛 同丁目

疥癬 七十六目

婦人 諸病 經水 產前 同丁目

產後 臨產 帶下 乳病 同丁目

惡阻 同丁目

小兒 諸病 疳瘡 麻疹 七十八目

驚風 疳 疔 瘰癧 變蒸 同丁目

麻疹 八十一目

急慢驚風 同丁目

痺病

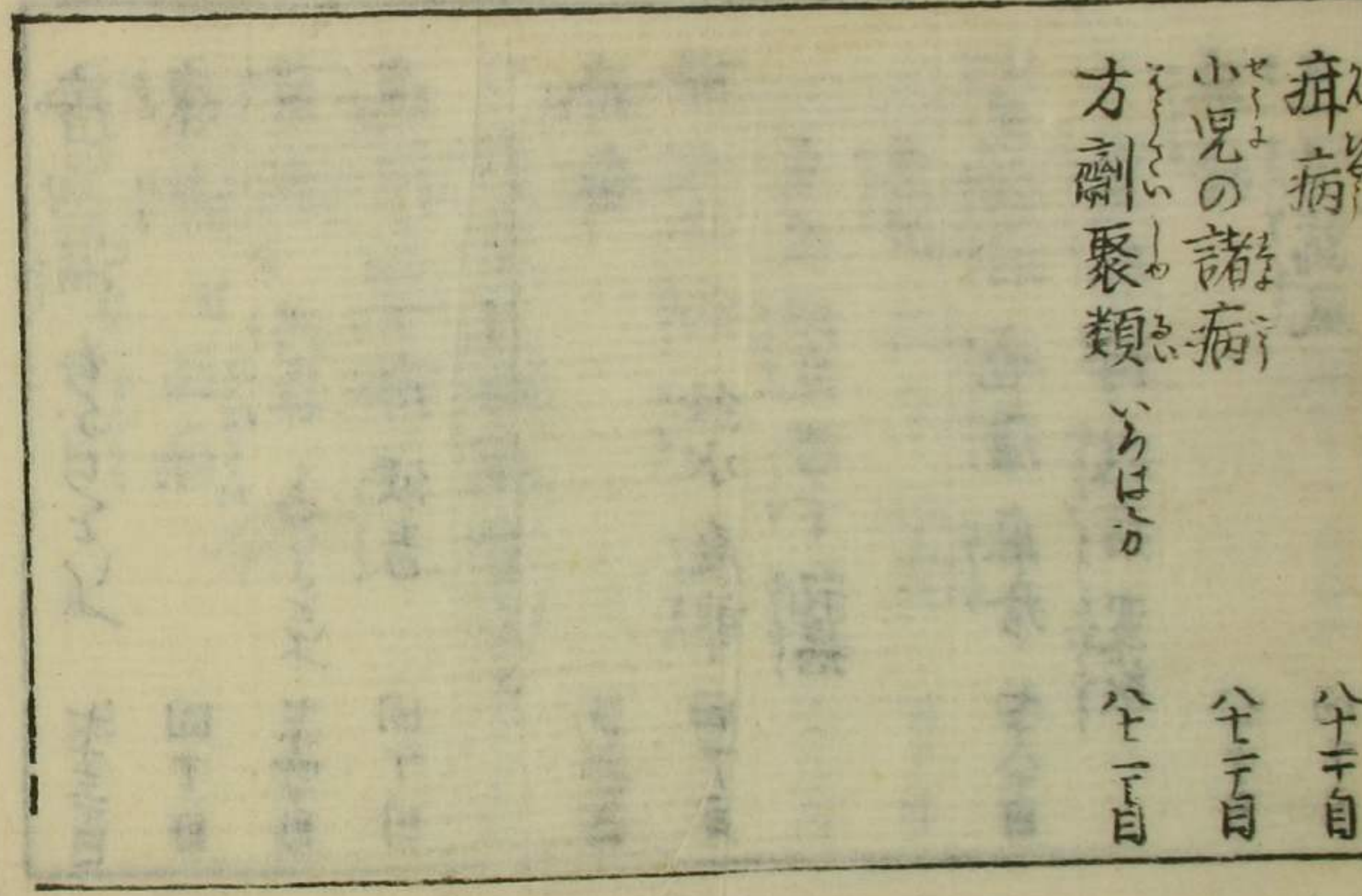
全千頁

小児の諸病

全二百頁

方劑聚類

全二百頁



日用醫療指南大成

洛下法橋岡本為竹一抱子撰

脈取

男へ左へ女へ右へ取れ
 貴人高位かとの脈を取らば少頭
 と伏けて顔を見れば意得
 又手の中へさぐれば小手先
 医者の色に謹み専らつと脈を取
 中へ物語をすまひ以外は非道
 あり脈を取時意と静に収て他
 へ氣と移ると一向一心は意と脈

そのみ後て取つて也扱男女も
よ左心肝腎右肺脾命門と
取つて女右男左取て雖この
五臓の脈乃後々替こと多にあり
脈部は立様腕の横文乃後
高骨ありて此と関骨とを先
医者の中指と其関骨の内の停
中て関部と定り次は食指ととの
前中て寸部と次は無名指と
中指の後ありて尺部と寸関
尺乃三部定る也総して三部乃
長二寸九分あり事なり病人の脈
長生つとありて三の指の間と

疎て取るは又病人の臂短く
生む付ありて三の指乃間のあり
けなきも取つて也扱男女ともた
す心右す肺左関ハ肝右関脾
胃左尺ハ腎右尺ハ命門多先始
て取つては指を軽く浮て見こと
皮膚分肉六府の分と候より次
深く按沈て見これ裏筋骨五藏
の分と候より次は浮ち沈ち指と
中分と置て見此胃の氣と候也
胃氣とい人々の元氣なり病の軽と
も重とを生死と皆胃氣かろ乃沙汰
なり胃氣の薄くと病重く胃氣

うぢけを死とる也惣して一切乃
 脈は和と光ありと胃氣と云也此の
 胃氣と能より覚ゆるは医者肝要
 あり古の明医とせらる生死を明く知
 るは胃氣の脈は能く通達せられ
 る故なり胃氣を教ても習てこと
 知しぬ事なり諸脈の和と光と合点
 て脈を取中よむと工夫して自然に
 取覚ゆる事なり扱又左の脈は風
 寒等の一切外より受する邪氣と
 候事なり右乃脈は食物等乃
 一切肉より得する病と候也夏なり
 総して内より得する病と内傷と

天地の間の風寒暑湿よりと
 得する病と外傷といふ外傷は實なり
 内傷は不足なり大抵脈の浮て大数
 ありて力ありは外邪なり實なり熱
 ありと脈の沈て細数遅く力なしは
 内傷なり虚なり寒なり是又脈法
 は古來より二十四脈と雖つて見よ
 ば浮沈遲數虚實乃六脈なり此は
 兼ふ滑濇弦緊細洪結代の八脈
 なり扱平脈といふ先一息五動ありて
 左右平等と和緩ありて無病なり
 と候ありは然とも又人の生質乃
 持脈の數も有り遲も有りて同く

さると意得(一)あり

浮 わくとと浮くを脈あり風う熱

そと病多(一)表あり浮ありて底力

あり有餘あり底力あり虚と(二)

沈 こし沈むる脈あり寒と病

多(一)裏あり沈ありて力あり虚也

底力あり(一)耐實あり或(一)痰或(一)

瘀血の症なり

遲 遅くして数とくは脈あり

寒と(一)遲ありて力なき虚と(一)総

として(一)遲脈ハ(一)氣血の進まぬ症あり

数 よく数ありは脈あり熱と

数ありて底力なき(一)虚あり底力

あり(一)實あり

實 よく長く底力なきは脈あり脈

實あり病も實あり

虚 よく軟く空なる脈あり脈虚

あり病も虚あり實脈虚脈(一)諸

脈は相兼て見ると(一)率あり

滑 かろくは潤いて滞りぬ脈あり

痰症み此脈多(一)総して脈滑

あり者ハ血液の(一)枯る症と

知る

瀉 滑の反脈ありかろくは滞

り脈あり液ハの枯る症あり又

痰症(一)耐症(一)瘀血(一)食傷(一)あり此脈

と見え久又寒症を抵症と見
瀉脈と見と者なりその中寒症
多く瀉脈と見と者なり

弦張る引乃弦と按り如く強なり
ゆるゆる脈なり肝膽の病は必しと此
脈と見と者なり肝経の引とまり
ゆる脈なり瘧疾は必し弦脈と見と
事なり

紫弦のやを強し脈なり少し緩ま
らんと強く引とまりと脈なり寒症
と見と

細力や細々と糸筋の如く脈
なり虚の極と見と

洪うみて太き脈なり熱と寸病
の重る候ひなり

結代結の数遅く間は一動は
洪して二動は如くなる脈なり痰

症療血寒症食傷鬱症は此脈と見
と代死脈の赤とれなり結脈と死脈

のこれと見らる者なり結は洪切
は二動也死脈の二動は又物て物

と切らる如くは二動と二動也
其上結のこれ或は三動はてと

ありして切の動数は定りか死
脈のこれ三動はと二動はと二
動数は定りて二動と者なり

五藏六府の事

肺 金藏なり其色は白蓮華乃
 開さるるか如くして胸の中より
 中より二十四の竅ありて呼吸氣息を
 従ふて肺藏に張り收りて之を
 其系を肺管とて呼吸の息の
 通らるる筋なり肺に一切の氣の總つ
 りて之を故に氣と使へ肺に必と煩
 也又外に鼻と皮膚と浮毛の竅
 くは主とも也其故に汗の多く出
 るる風と引をよれりとする皆肺
 氣の薄き故なり又肺は金藏ゆへ
 一切の声は肺のつらきなり

心火藏なり其色は赤蓮華のつ

らみの如くして胸の正中より人の
 神氣の藏也所謂して諸藏諸府
 一身の主なり一切の事は此心へ合
 して身の働を成しことなり心は七の
 竅ありて此を心竅とて若し
 心竅は痰や瘀血やなると寒は
 言いこれと心はつらりと成て一切身
 の働を乱して正しとて之を彼い鬼
 の驚風大人の癩癩狂乱は皆痰
 て心竅が乃塞りて故なり又心の源
 めて是は心血なり此心は血の不足と
 して物忘るる或は怔忡かるといす

脾 土藏なり其色黄也其味甘也其形如豆其主心也其主脾也其主胃也又心の言と主とも耳も心腎の言つよありや

脾藏と胃府との壁言へば茶臼の如く形の如く少く屈して底平く少く胃の府は上々重くして有也其色黄なり脾藏と胃府との壁言へば茶臼の如く物、胃府に入り上臼の脾藏の動を磨て食物を消化ことなり脾は手足と主ともなり其故は手足を使働らけし脾胃煩くなり又唇と口中と一身の肌肉とと主ともなり其故は

脾 胃煩る必身乃肉く膝る者也

肝 木藏なり其色青なり其形木の葉の如く腎以強を藏るなり其故は肝煩へく気の張る弱る事なり

又肝血の蔵所なり其故は一切の血を出し洩しある時必と肝煩る事也

腎 水藏なり其色黒なり其形豆の如く少くして脊乃四の推の在

右は両はかり居るなり陰精の蔵れ所なり一身の液乃物つうさなり腎

標る身の根本なりして此は盛なり長命少くして病も愈也若く又腎

長命少くして病も愈也若く又腎

精の弱く枯るる病は重くして本
復たさるるに憂あり惟人聞て腎精を
多きもの瘵生乃第一なり又腎の骨
と耳と齒と大小便の竅とをつらと
そらなり就中小便道は腎のあら
うとあり

大腸 肺の府なり色白うて
帯の如くあり細腸なり小腸は下
に十六あり右あり胃府
少く消化する其穀の糟を此府に受
いして大便を出さるる肛門に直さ
大腸の府乃未口なり

小腸 心の府なり赤うてこれを

帯の如くあり細くして胃乃
府の下に十六あり右あり胃として
あり也胃府に消化する食物も飲
物も皆胃府より此小腸に受けて
小腸の下口より分ちて食物の粕の
かゝ大腸に送り水のかゝ小腸乃
下口より泌り合せて瀾門は溜り腸
腔の府に滲り入るる瀾門と小腸
の下口と膀胱の上口との間を二寸
乃至空所ありと云ふ此所は水の溜
りて下の陽氣の運りて水が滲り
て小便を出るなり

胃 脾の府なり黄うて大さか

る囊の如くして其上に食物のみ
物の入道 さらば胃府は常に温か
る事を好む故に生ずる物寒く
物まて胃の府を損ふは甚なり
この胃府は一身の肝要專一の物也
此を損ては人の身命いもぬ
と知へし人の元氣といふ何物と
かれし此胃府より生ずる所の湯
氣ゆりて若病は相當せぬ茶と
ゆめて胃氣を損少かり胃氣の強
し病人は療治しやむ病の急なり
惣して療治は胃氣一以て相手が
とも薬なり又胃の府より濕る

持論

五二

より然るを濕る過は脾胃損
るも也又燥は過るも脾胃を
損るを知る其故は耳温る
茶の暖胃は宜し也若寒る
と重く湿る茶と脾胃の氣
を損ひやむ

膽 肝の府を青くし形は瓢乃
こく中は胆汁とて苦き汁三合
あり故は口中の苦きと煩ひ又苦
き汁と吐は皆胆乃病なり膽は
藏府の中を一つとて府にして
人の决断決定の氣と此よりこと
事なり其故とやせん角やせんと思

青白

次第はつたは衰意を盡せん先脚
の第一よりふと知へ

膀胱 腎の府なりやると也黒く

て形やらの如く下ま口ありて上ま

口あり只毛の穴乃櫛あり微く穴

ありと有る胃府の水より下ま

門より下まの毛より溜り下部の陽気

の運より上まの毛より膀胱の中へ入り

りて小便より出るなり膀胱の下口は直

に小便道あり惣して小便の通利ハ

皆陽気の温まるとやや気の運とよ

從て也気が滞りる下部は冷るり

かれば小便道は滞りる煩わ

レなり小便の通せぬ時は順気とそ
氣と運らと茶と使へりなりを
熱より小便の滞りるも有生寒より
小便のどとをるる者を知へ

心胞三焦 心と包絡するあり

と心包絡といひ諸の藏府を包する

ありと三焦といふの説あり

心包三焦は名の三ありて形は

藏府なり心包といふ本心の陽気

のこゝろにて働く所なり也三焦といふ

先鳩尾以上を惣て上焦鳩尾より

臍まで中焦臍より以下を惣て

下焦なり惣て一身の陽気の働

五藏の主乃事
○肺ハ辛味と哭声と腥くさくさ
るはり
てあまハ一身ハおのほろろ安全な
るはり
と知るハ此三焦ハ能くそのわり
かり三焦といふ医道ノ一大事ノ義
と成て煩ありこれと相火ノ病と云
若この三焦ハ滞りて火とあり大熱
小便ノ通も皆三焦といふ者也
の出入も飲食物も其消化も大
常子温りてもしも血ノ運ハ呼吸
田ノ海腎間ノ陽気あり一身乃
る三焦といふ其本ハ膈ノ下ノ飛

肺
肝
脾
胃
腎
心
胆
大
小
三
焦

臭と涕もと憂る気と秋とを
つらさる也惣一身の産のあり肺
かり○心ハ苦味と言と笑こを
と焦るる臭と汗又出る汗ハ喜
こふ氣と喜とを主とする也○脾ハ甘
味と歌ハ小聲と香ハ臭と涎
と思氣と土用とを主とするかり
舌上あり○肝ハ酸味と臊と臭
と呼る氣と眼ノ液と怒る氣と春
とを主とする也○腎ハ鹹味と呻く
声ハ詩哥かよと志と感して吟
とる声と唾と陰精と一切とん
患去る志と此氣と怒る氣と

肺
肝
脾
胃
腎
心
胆
大
小
三
焦

冬とつとをさるるなり
 ○肺の燥と火とを悪く一切の外邪
 へ先肺を犯すと○心の寒と悪く火
 熱の心より生じやと○脾胃ハ
 湿と滞りりと寒とを悪く湿
 へ先脾胃を犯すと○肝のく
 くと悪く又風ハ肝より生じ一切の
 風病ハ先肝を犯すと○腎ハ燥と熱
 ととを悪く○又金尅木と肝ハ肝
 勝木尅土と肝ハ脾子勝土尅水
 とを腎ハ腎子から水尅火とを腎
 へ心子つら火尅金とを心ハ肺子から
 金尅木のなり

肺
 肝
 脾
 胃
 心
 腎

五藏補浮温凉の薬の夏

○肺と補ふゆい人參黄芪五味子
 沙参の類あり海子枳殼枳実麻
 黄柴白の類あり温ゆる乾姜肉
 桂胡椒の類あり凉ゆる天門黄苓
 施子玄参のるゆい也茶と肺へ引や
 んと思ふ白芷升麻桔梗酒とるゆい又
 肺を引くるゆい菴子菴穗桑附子
 桔梗の類肺と潤ゆる麥門冬のる
 ゆる心の神ゆる人參遠志のるゆい也
 心血を補ゆる川芎當歸のるゆい心
 の瘀血を去ゆる玄胡索紅花のるゆい也
 心の浮ゆる枳実黄連苦参の類あり

肺
 肝
 脾
 胃
 心
 腎

温ひる人參 霍香木香のるい心を
の爵と散一開くよ石菖沈香のるい
涼よ黄連山梔連翹竹葉のるいひ
菜と心へ引やれよのるい獨活細辛の
るいひの脾胃と補ふよ人參黃
芪蓮肉山茱萸甘草のるい浮よ
大黃枳殼枳實三稜莪朮芒硝の
るいひ消化よの神曲山查麥芽厚朴
の類温りんとよの乾姜肉桂胡椒益
智吳茱萸藿香木香のるいひ胃口と
ゆるよ食と進よの縮砂白豆蔻のた
るいひ胃のきと升提よの升麻柴胡か
るい涼ひるよ石膏黄連芒硝大黃

持牌
持牌

持牌

山梔葛根のるいひ引菜と胃引やれん
るいひ葛根白芷升麻のるいひ肝と
補ふ酸棗仁肝血と補ふよ當歸
川芎白芍薬のるいひ也浮よの青
皮竜胆山のるい温ひるよ木香吳茱
萸涼よのるいよ黄芩柴胡白芍のるい
るい菜と肝引のるいよの柴胡青皮
○腎と補ふ。熟地黄當歸枸杞肉從
蓉山茱杜仲のるい浮よの猪苓沢瀉
木通のるい温ひるよ附子肉桂乾
姜のるい涼よの知母黃栢生地黃地
骨皮鱉甲牡丹皮のるい菜と腎と
引よのるいひ獨活肉桂塩分り

持牌

持牌

持青
持青
持青
持青

以上大柴と挙るのみ兎角其
性の寒熱温涼を能覚て一味子
てと妄に使をかくと又かど酒製
塩製して働き替つとあり又このと
焙ると炒ると生を使とみのり
り有草草と生を使して火を
と灸は胃を補ふ酸味
仁を生まてつくと睡と炒
つとつくと能補ひつとつとひ
あり也

○中風 某方末い巻は悉
く以呂波分りて是を記
と加減の某も其一方く

の後より

中風の症も種々ありと雖大抵八身
之麻も眼口喘と物のひくは烏
某順気散八味順気散は加減とら
かり烏某順気散は順気散とて風
痰を退く方也八味順気散は正気
と補ひて順気散と兼ある方なり又左
半身くふは血虚と瘀血とわけて
四物湯は加減とて也加減潤燥湯
のふり右半身は氣虚
と湿痰とわけて六君子湯二陳導
痰湯は加減とて加減除湿湯
のふり也大法氣虚乃中風なり四

上首

君子湯六君子湯補中益氣湯
加減しる也氣血虚也
八物湯十全大補湯も加減しる也
寒熱を考へて寒多しは肉桂乾姜を
はく強く温りんとし熱多しは使
り若く又熱ありは黄連黄芩を以
て下部の熱多しは黄柏生地黃を便
又肺熱多しは口乾は麥門冬を以て
冷中風手足冷は芍薬を以て
物の難き大秦芫湯又外風を
てれりる症ありは頭痛を熱し
脊強ありは小續命湯を以て專に
分の悩よりかりりる症ありは

打
打
打

七
七
七

氣散も加減し又卒中風牙を
いつり開く時梅子の肉と齒を
換ぬると牙を緩りる者あり是を以
て開くは皂角一変生半夏藜蘆ふ
のく五分細辛苦参のく三分の粉
と少く鼻の孔を吹つると嚏して牙
を開くあり是を以て開くは死症と
し板牙を開くは延齡丹を藜蘆香附を
生姜の末あり汁を以て飲せ疼を以て
て独參湯を用て先を氣とつかり
る事也又食傷を以て卒中風を以て
夏あり能く氣を付て食傷ありは不換
金正氣散八解散から加減しる也

の傷寒門と考へん一又外風寒の邪もりの内食滯をも相兼するは霍香正気散八解散ふとも急活防風のもつと加へらるる也

○傷寒

傷寒ハ諸病の中大病なり療治殊の外大事也初心中中致難事也大抵傷寒ハ初發の頭痛發熱惡寒の時よりよりと發散せしむ能ふ其時發散せしむるは故に熱を裏に令難治の症となる事なり大抵春夏の傷寒はものり熱と涼とを舌秋冬の傷寒はものり汗として吉と云ふ古人

の発散は故傷寒の初發頭痛發熱惡寒の時と表症とを此時より發散の場所也大抵發熱加減して用ゆ又はより發散せんと思ふは神湯に加減を又一向に強汗せんと思ふは麻黄湯也若又春夏の間外風寒の邪より裏より熱盛なり者表邪發散と内熱とを相兼して用ゆは九味羌活湯也又惡寒發熱往來して脇痛と乾嘔とを脈弦とを少陽の症と表半裏とを小柴胡湯に加減して也又小柴胡湯の症をして惡寒と惡熱と大便通せと裏熱はらふ者あり此

表(ち)除(ぞ)く(と)裏(うら)急(いそ)ぐ(と)寸(すん)大
柴(さい)胡(こ)湯(とう)下(した)事(こと)又(また)裏(うら)急(いそ)ぐ(と)寸(すん)
用(もち)ゆ(と)或(ある)曾(そう)熱(ねつ)甚(しん)く(と)咽(のど)渴(かつ)舌(した)黄(わう)
々(々)乾(かん)久(く)白(はく)虎(こ)湯(とう)下(した)凉(りやう)若(わか)大(だい)便(べん)の
浮(う)る(と)小(せう)蒼(そう)木(ぼく)白(はく)虎(こ)湯(とう)用(もち)ゆ(と)症(しやう)咳(がい)の
あ(と)陶(たう)氏(し)白(はく)虎(こ)湯(とう)宜(よろ)し(と)若(わか)又(また)裏(うら)急(いそ)ぐ(と)寸(すん)
盛(せい)め(と)大(だい)便(べん)久(く)く(と)通(つう)せ(と)舌(した)黒(くろ)し(と)馬(ば)
く(と)焦(しょう)る(と)承(じやう)氣(き)湯(とう)用(もち)ゆ(と)大(だい)便(べん)久(く)く(と)
下(した)事(こと)也(なり)凡(たゞ)傷(やう)寒(かん)八(はつ)第(だい)一(いつ)舌(した)の(の)色(いろ)白(しろ)
い(と)見(み)る(と)肝(かん)要(よう)也(なり)舌(した)の(の)見(み)や(と)色(いろ)々(々)あ(と)れ
る(と)大(だい)法(ぽう)舌(した)黄(わう)干(かん)乾(かん)つ(と)裏(うら)急(いそ)ぐ(と)寸(すん)熱(ねつ)盛(せい)
と(と)金(きん)も(と)い(と)ま(と)至(し)極(ごく)多(た)く(と)舌(した)黒(くろ)く(と)下(した)

附(つ)録(ろく)

下(した)事(こと)

つ(と)く(と)下(した)事(こと)干(かん)乾(かん)つ(と)寸(すん)少(せう)も(と)潤(じゆん)る(と)
物(もの)の(の)色(いろ)悪(わる)く(と)裏(うら)急(いそ)ぐ(と)寸(すん)熱(ねつ)の(の)至(し)極(ごく)多(た)く(と)
急(いそ)ぐ(と)黄(わう)連(れん)解(かい)毒(どく)湯(とう)白(はく)虎(こ)湯(とう)用(もち)ゆ(と)
凉(りやう)若(わか)又(また)裏(うら)急(いそ)ぐ(と)寸(すん)熱(ねつ)盛(せい)と(と)金(きん)も(と)い(と)ま(と)
大(だい)黄(わう)芒(ぼう)硝(しょう)下(した)事(こと)中(ちゆう)く(と)初(はつ)心(しん)の(の)特(とく)
子(こ)の(の)成(せい)が(と)一(いつ)心(しん)を(を)ひ(と)さ(と)下(した)事(こと)過(か)る(と)寸(すん)分(ぶん)と(と)
湯(とう)小(せう)承(じやう)氣(き)湯(とう)桃(とう)仁(に)承(じやう)氣(き)湯(とう)調(てう)胃(い)承(じやう)
氣(き)湯(とう)の(の)父(ふ)兄(けい)の(の)下(した)事(こと)記(き)す(と)所(ところ)と(と)
見(み)て(と)療(りやう)治(ち)す(と)下(した)事(こと)大(だい)法(ぽう)小(せう)承(じやう)氣(き)湯(とう)下(した)
事(こと)輕(けい)く(と)大(だい)承(じやう)氣(き)湯(とう)下(した)事(こと)又(また)強(きやう)く(と)
調(てう)胃(い)承(じやう)氣(き)湯(とう)小(せう)承(じやう)氣(き)湯(とう)の(の)強(きやう)く(と)大(だい)
承(じやう)氣(き)湯(とう)の(の)輕(けい)く(と)中(ちゆう)分(ぶん)の(の)劑(ざい)多(た)く(と)桃(とう)仁(に)承(じやう)

附(つ)録(ろく)

下(した)事(こと)

氣ハ熱と膀胱ヲ蓄て下部の癆
 血と成て小便覺へると小便大便つ
 せと自然に通じれば寒は物少く出
 て小腹張痛て謔語して狂人の如く
 目黄と濁とて水とを漱して飲てま
 る者も用ゆる也又大便通せば裏熱の
 清さるゝ其人虚弱ありて尿と氣湯分
 とて下と事も成りては時ハ蜜導
 と指て大便と通してさす事也蜜
 導の法ハ未よて美の部を見たり
 惣して傷寒の療治ハ手早あり
 專要也叔右の通ハ汗とてさす
 下したる後ハ急ハ補中益氣湯ハ

補ハ四君六君ありて補あり
 補ハ芍薬と桂枝の外六ヶ敷然とも
 又補ハ早と死とも補任とて又大
 事也泻と補との續り見んくハハ
 肝要也又勞役の傷寒とて專ら元
 氣の虚より病者あり大方補中益
 氣湯ハ加減とも也此勞役の熱ハ
 寒劑使ハ温く大熱と除とて
 此批ハ人參黄芩ありハ黒炒干姜
 附子肉桂ありて醒る者也輕ハ六
 君子ハ解散ありて加減とも也勞役
 の症ハ兎角參苓の力てなりともあり
 々と意得へとも也又和解とて事あり

表と解裏と和らう、解右の小柴胡湯、和解の主薬なり、其外、升麻湯、根湯右の九味、羌活湯、傷寒陽明の症、芍薬三品、陽明の症、悪寒、発熱、只胃熱盛、咽渇、者、白虎湯也、又陽明の症、大便秘結、腹脹、狂言、痰涎、下也、又陽明の症、目痛、鼻乾、睡を悪寒、発熱、汗、肌、表と去らる者、升麻湯、加減、也、又傷寒、吐、必と寒、劑と使、事、寒、涼、と用、也、

湯の温薬を用、蛇と定、後、小柴胡湯、の冷劑と用、熱と涼と事、又傷寒、胸の強、痛、又、點と結胸の症、云、重、大結胸、の輕、小結胸、也、黄連、黄芩、梔子、熱と涼、桔梗、枳實、芍薬、脚、の、除、裏熱、其、石膏、大便秘結、大黃、硝石、下、事、有也、然、前、通、初、心、時、下、事、何、難、事、知、傷寒、血、出、復、表熱、時、分、

くくと瀉^り出^るハ升^ハ麻^ハ葛^ハ根^ハ湯^ハ又^ハ九
味^ハの^ハ着^ハ活^ハ湯^ハ加^ハ減^ハト又^ハ全^ハ散^ハ茶^ハと
用^ハハ汗^ハ出^る時^ハ刻^ハ々^ハと水^ハの^ハ流^る如^ク
く^ハ出^る表^ハ熱^ハの^ハ清^んと^ハの^ハ候^ハハ
え^ハ苦^ハハ^ハ以^ハ独^ハや^ハ者^ハあり^ハ惣^ハして^ハ傷^ハ
寒^ハの^ハ血^ハ止^ぬ事^ハなり^ハ自然^ハ莫^ハ大^ハ
出^るハ^ハ只^ハ血^ハ熱^ハと^ハ涼^{して}止^すや^ハ
ぬ^ハと^ハ多^ハ直^ハ止^ぬ事^ハと^ハ知^るハ
又^ハ傷^ハ寒^ハ斑^ハの^ハ出^る事^ハ乃^ハ輕^ハ疹^ハ
の^ハ様^ハ出^る出^る錦^ハの^ハ紋^ハの^ハや^ハ
あり^ハ大^ハ方^ハ裏^ハ熱^ハハ^ハ熱^ハ茶^ハと^ハ用^{して}故^ハ
或^ハハ汗^ハと^ハ出^ると^ハ小^ハ汗^ハと^ハ小^ハ因^ハ
て^ハあり^ハ胃^ハ熱^ハと^ハ血^ハ熱^ハと^ハと^ハ涼^{して}と^ハ

度^ハ又^ハ爛^ハと^ハ黒^ハと^ハあ^れる^ハ死^ハ
寸^ハ又^ハ傷^ハ寒^ハハ^ハ手^ハ足^ハ厥^ハ冷^ハし^る事^ハあり^ハ
熱^ハ症^ハ次^ハ糸^ハく^ハ小^ハ重^ハと^ハ平^ハと^ハ手^ハ足^ハの^ハ
厥^ハ冷^ハハ^ハ表^ハ熱^ハの^ハ裏^ハ入^ハの^ハ時^ハハ^ハ必^ハと^ハ
温^ハ熱^ハの^ハ茶^ハと^ハ用^{して}事^ハあり^ハや^ハり^ハ寒^ハ
茶^ハと^ハ表^ハ熱^ハと^ハ涼^{して}却^{して}手^ハ足^ハ温^ハ
まる^ハ者^ハあり^ハ然^ハと^ハ彼^ハ後^ハの^ハ傷^ハ寒^ハ
あり^ハ神^ハ中^ハ益^ハ氣^ハ湯^ハと^ハ用^{して}の^ハ症^ハ
手^ハ足^ハ冷^ハる^ハ寒^ハ茶^ハと^ハ用^{して}此^ハ温^ハ補^ハ
の^ハ劑^ハあり^ハ々^ハ様^ハの^ハ見^ハ分^ハ切^ハ者^ハの^ハ入^ハ事^ハを^ハ
ア^ハ壞^ハ症^ハの^ハ傷^ハ寒^ハと^ハあり^ハ医^ハ者^ハの^ハ療^ハ
治^ハの^ハ志^ハと^ハあり^ハ熱^ハと^ハあり^ハ久^ハく^ハ
檢^ハあり^ハと^ハ愈^ハと^ハあり^ハ大^ハ低^ハ柴^ハ胡^ハ芍^ハ

茶湯驚甲散は加減を又傷寒以
 て後不養生して早く身と働きて
 くるみかきりしむるを勞復といひ食物乃不
 養生してくるみ返りしむるを食復といふ
 早く色欲を行ひてくるみりしむるを
 女勞復といふなり其勞復の症は益
 氣養神湯に加減を食復の症はハ
 加味異功散に加減を女勞復はハ人
 參道遥散に加減を此虛寒せばハ
 當歸白朮湯を用るなり諸勞復の
 中ハ女勞復ハ大事の急症なり
 之れ故湯寒愈後養生と專
 一してしむることあり

○張氏醫通傷寒舌形三十六種



裏黒紅
 舌
 色を黒か、あて中山の如
 く黒乾し硬く刺あるハ
 大腸の熱さへんは堅し急は調胃承
 氣湯をすてこと



白胎淡紅
 舌
 舌の中ハ白胎ありて滑
 外ハ淡紅ありハ邪裏
 に入の初なり膈の下ハ熱あり胸乃
 中ハ寒ありなり半表半裏の症と
 して小柴胡湯を用ゆ



將瘡純紅
 舌
 舌純紅色か、かちハ口熱
 と蓄ある症なり透頂
 清神散をのらゆ

三第

三第

三第

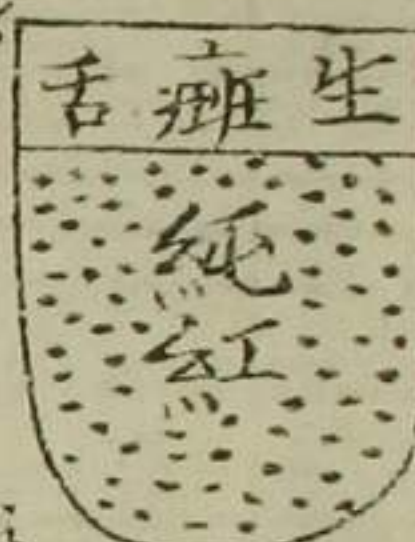
四第



舌の外、いさゝか紅い、
舌の中番の如く、黒い、

邪熱と重く、心と、涼膈散、大柴胡湯、よる。

五第



色、あつ、紅、あつ、黄、
如く、小黒點、あつ、熱、

毒胃、入、斑、出、症、升、麻、葛、
根湯、玄參、加、化、痺湯、あつ、熱、

と解、と、あつ、

六第



淡紅、中、大紅、点、あつ、
脾熱、あつ、身、黄、

色、と、癸、え、と、す、あつ、茵、陳、五、苓、散、と、
あつ、

七第



舌、淡、あつ、火、番、の、こ、と、
く、靑、黒、と、骨、熱、あつ、

作、集、石、膏、湯、よ、あつ、

八第



中、淡、紅、あつ、中、大、紅、の、
紅、色、あつ、て、餘、は、黒、

こ、火、邪、の、殘、は、毒、の、鬱、結、あつ、り、
氣、湯、あつ、

九第



紅、あつ、て、裂、あつ、る、形、人、と、
以、字、の、如、く、熱、毒、の、炎、

上、効、り、涼、膈、散、よ、あつ、

十第



舌、碎、純、紅、あつ、
斑、点、あつ、て、蝕、あつ、る、形、

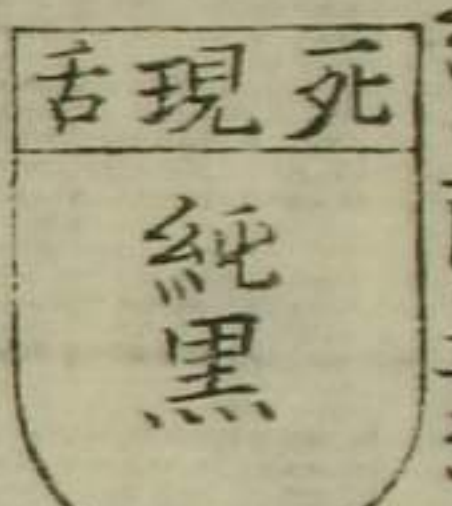
の、如、く、熱、毒、あつ、る、也、小、承、氣、湯、と、用、

一十第



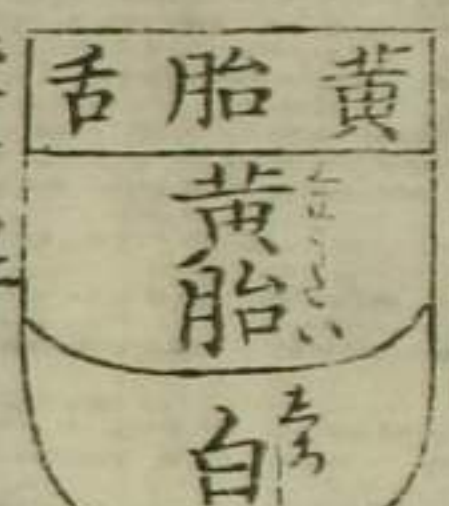
紅 筋と縮ゆる如きは肝

二十第



純黒 舌全腫紙黒多るは心

三十第



黄胎白 舌の根は黄白尖は赤

表と解して後日裏と攻大便結せハ
涼膈散を甚確大黄とて用ひ小
便澀らハ水通を加へて五苓散と益
元散とを合せし姜汁とて白湯とて
服と
外ハ白く心ハ黒く脈沉微多るハ治小

四十第



白 脈沈実下を病つる

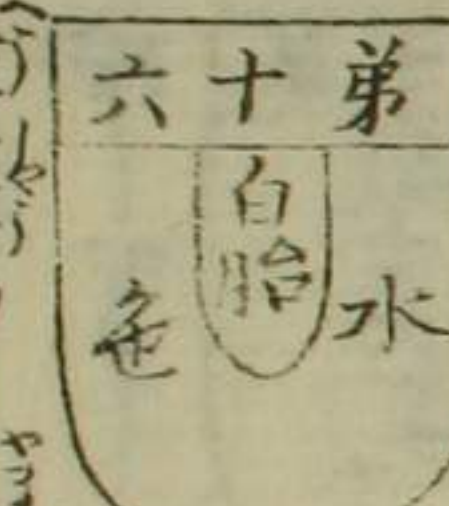
五十第



胎 事一分は身痛悪

寒と水と飲こと甚くは五苓
散自汗と渴せえ白虎湯下痢ハ
解毒湯多り此症も又あり

六十第



白胎と見り中黒

表症あり病來事悪を雖も涼膈
散少少表と解し表退きて後調胃
承氣湯を下と

指病

七

第七十第 共灰色

共灰色の色の如くの中
間黒まろより二條ふたじょうあり

治ち一いかか一い

第八十第 微黄色

微黄色の如くの病びょうつつびびて
狂言きやうげんするハ汗あせせせるるゆゆや

熱裏あつら入いれれとと汗あせ下くだ共とも兼かね用もちてて双ふた散さん
解散げっさん解毒湯どくど湯の合あ方かたと用もち

第九十第 白胎 微黄

中ちゆうハ白胎はくたい外がわ少黄せうわうありハハ黄わう
多おほくく浮うきき解毒湯どくど湯トト

惡寒あくかんセハ五苓散ごれいさん

第十二第 微黄

少黄せうわうありハ表へいいいるる解げせせす
小柴胡湯せうさいこ湯天水散てんすいさんの合あ方かた

より下くだとと三さん者しやうハ大柴胡湯たいさいこ湯

二十第 黄

本ほん黄わう子し成なりりりとと初はつ白胎はくたい
色いろて後のち黄わうとと皆みな表へい衣えトト

已裏いり入いれれとと急いそ下くだとと一い便べんけ
色いろ黒くろ色いろよりより惡症あくしやうとと多おほくくとと多おほくく

子調胃承氣湯しじょういじやうきとう

二十第 白胎 本色

左ひだりの方かた白胎はくたいて自汗じいげんとと
下くだとと人參じんじん白はく

鹿湯かとうよりよりとと

三十二第 白胎 本色

右みぎの方かた白胎はくたいハ疰肉ぶにく
王有半表半裏おうゆうはんべうはんり柴胡湯さいこ湯

四十二第 白胎 本色

尤なほ白胎はくたいて清きよくくハ藏結ざうけつ
の症しやうとと治ちししかかすす

打南

二 白
五 黄
色

中黄めて外のちり皆去
ろき必ひし湯と嘔吐と

二 黄
六 色

黄めて小黒点あるは邪
熱六府より五蔵より人
と急子調胃承気湯を下し次に
和解散とりしふ

二 白
十 黄
七 色

黄めて尖白は表少
か裏多天散一貼
凉膈散二貼合して用脈弦多は防
風通聖散

黄めて前は黄の如くは裂ありふ

二 黄
八 色

熱目よ入て毒深し煩も渴も大承
気湯身黄むは茵陳
湯下血は低當湯水腸

二 微
十 里
九 紅
色

外微あり中央灰黒色
あり下しへこと下さる故
身大承気湯を下し下し事五度
るをては扱ふと治せしむ

三 白
十 色

白くして黒点乱生と
必くして譫語あり
脈実ハ生脈瀯ハ死と衣と循床と
摸ハ治せしむ承気湯

黄めて中黒く尖は通しは熱深

打南

兩感の症は此色に移り十人九ハ

死と悪寒甚すと死

と悪寒やく下痢と

い内調胃承氣湯

外淡紅くと心淡黒く

悪凡とる表も盡

と双解散と解毒湯との合方と用て

少汗と汗やみて後息下とり

心痛と燥と目直視治せと

三十三 灰色 軽 灰色くして尖黄と悪

寒と脈浮下

悪凡悪寒と双解散若下痢と解

毒湯と合方と三四度下してと

大便黒く治せと

三十三 黒 灰色くして黒く紋あり

脈実と急と大承氣

下と脈浮と渴と水と飲と涼

膈散

三十三 微冷 根微黒く中淡紅く尖

黄と脈滑と下と脈

浮と陰と養ひ陽と退くと風寒と

悪凡微汗と双解散若下利と解

毒湯十二七八ととら

三十三 灰 根灰黒く尖黄ありと

隠と見と急と大承氣湯と

紋あり脈実と急と大承氣湯と

下し脈浮は湯に水と飲ハ涼膈散
を解すとす二三と救

已上三十六種の言の形傷寒と候ハ
の肝要なり療治ハ病症よりお乃
く時々了簡子より(三)然そを
初心の時ハいじさと下と事有へ
と能々虚実を考て下と事あり

○瘦癯并大頭痛これとせよ

江戸なるみ箱といふ

疫病も大法右の傷寒の療治と同
事なり大抵惡寒發熱頭痛
身爰かし痛ハ敗毒散を加減と敗
毒散ハ大方通用の薬なり若又夏

の熱うへる不時かしくと寒気がこかハ
おろし因て其年の秋に疫病の天行
ハ先立積散が主方なり又俗に江戸
挾箱とも惡寒發熱頭痛して額の
大腫こと天行あり其より荊防敗毒
散に連翹黃連黃芩かごと加るなり
若重熱甚まると大便も秘結とら
ハ牛房茶を連湯に加減を認して時疫
の療治ハ右の傷寒門の中より尋見へ
こより又疫病のとき時分を療治ハ
行ハ蒼朮を火に焼て其煙を身にとら
鼻も嗅て出へし病家へ敷てい
せし舌女君ハ能く疫病と拂物をし

くかり

寒

或冷^カる物^{モノ}と食^クり又^マ薄^ウ着^キる^ニて
 寒^{サム}氣^キ中^{ナカ}り或^シ冷^シる所^{トコロ}久^ク居^ルて
 寒^{サム}氣^キ急^クに裏^{ウラ}へ攻^ム入^ルて卒^ニ眩^メ暈^ムる^ニ
 乃^チて手足^テ厥^シ冷^シ舌^シとく^ク多^ク腹^ハ痛^ム
 一身^ニ身^ミ冷^シる^ニを四季^ニも中^{ナカ}寒^{サム}と
 乃^チ多^ク先^マ附^ク子^シ理^リ中^{ナカ}湯^ユ板^イ四^シ逆^{サカ}湯^ユ
 又^マ廻^マ陽^{ヤウ}急^ク救^ク湯^ユを^シ用^フゆ殊^ニの^ノ外^ノ急^ク
 乃^チ参^{サン}附^フ湯^ユと^シ用^フ其^レ上^ニ氣^キ海^{カイ}
 丹^ニ田^{テン}二^ニ寸^シ 関^{ケン}元^{ゲン}三^ニ寸^シ 二^ニ灸^シ之^レさ^カり
 又^マ中^{ナカ}寒^{サム}も^シ輕^クなり輕^クさ^カ五^ニ積^シ散^{サン}
 乃^チ加^ヘ減^スる^ニ乃^チ多^ク寒^{サム}の^ノ時^{トキ}分^ハ暑^{ナツ}氣^キ

を^シ防^グぐ^ニそ^レ内^ノ外^ノと^シ冷^シて^マ又^マ中^{ナカ}寒^{サム}と
 病^{ヤミ}事^{コト}多^ク者^{ナリ}乃^チ其^レ尤^{モト}五^ニ積^シ散^{サン}の^ノ加^ヘ
 減^ス能^ク乃^チ多^クなり

○暑 付 夏 瘦

夏^{ナツ}の^ノ暑^{ナツ}氣^キの^ノ時^{トキ}分^ハ煩^{ワザ}る^ニ兩^ニ品^ニありて
 療^{リョウ}治^チも^シ其^レ々^々乃^チ替^ハり^テ有^ル事^{コト}乃^チ直^ニ
 其^レの^ノ炎^{エン}暑^{ナツ}の^ノ氣^キ中^{ナカ}ら^テ手^テ足^ヲ乃^チ
 く^シ重^クく^シ或^シ痛^ムミ^ニ氣^キ高^クて^マ喘^ゼ身^ミ熱^シ
 胸^{ムネ}煩^{ワザ}れ^テ汗^{アセ}出^ル咽^{ノド}渴^ムさ^カ小^チ便^ヲ赤^クく^シ
 大^オ便^ヲ瀉^ス痢^ヲ不^レ食^ス者^{ナリ}者^{ナリ}清^シ者^{ナリ}益^ス
 氣^キ湯^ユ乃^チ加^ヘ減^スと^シ此^レ症^{シヤメ}六^ニ月^ニ土^ニ用^フの^ノ薄^ウ暑^{ナツ}
 の^ノ時^{トキ}節^{セツ}乃^チ多^ク又^マ暑^{ナツ}氣^キ乃^チ入^ルて^マ身^ミ熱^シ
 頭^{カウ}痛^ム心^{ココロ}煩^{ワザ}小^チ便^ヲ赤^クく^シ波^ナり^テ乃^チ多^クなり

前二

七二

吐^{ハク}わ^{ハク}ら^{ハク}し^{ハク}の^{ハク}海^{ハク}と^{ハク}る^{ハク}者^{ハク}五^{ハク}苓^{ハク}散^{ハク}より^{ハク}人^{ハク}
と^{ハク}若^{ハク}熱^{ハク}甚^{ハク}く^{ハク}と^{ハク}し^{ハク}小便^{ハク}通^{ハク}せ^{ハク}ら^{ハク}
益^{ハク}元^{ハク}散^{ハク}を用^{ハク}又^{ハク}胃^{ハク}執^{ハク}甚^{ハク}く^{ハク}して^{ハク}身^{ハク}
ら^{ハク}大^{ハク}熱^{ハク}一^{ハク}舌^{ハク}も^{ハク}燥^{ハク}く^{ハク}舌^{ハク}も^{ハク}白^{ハク}く^{ハク}泡^{ハク}つ^{ハク}
ふ^{ハク}の^{ハク}如^{ハク}く^{ハク}と^{ハク}生^{ハク}ら^{ハク}る^{ハク}父^{ハク}參^{ハク}白^{ハク}虎^{ハク}湯^{ハク}に^{ハク}加^{ハク}
減^{ハク}と^{ハク}惣^{ハク}ち^{ハク}て^{ハク}夏^{ハク}の^{ハク}暑^{ハク}氣^{ハク}で^{ハク}汗^{ハク}の^{ハク}油^{ハク}
元^{ハク}氣^{ハク}の^{ハク}燥^{ハク}く^{ハク}燥^{ハク}く^{ハク}ふ^{ハク}因^{ハク}て^{ハク}人^{ハク}參^{ハク}て^{ハク}元^{ハク}
氣^{ハク}と^{ハク}補^{ハク}ひ^{ハク}黃^{ハク}芪^{ハク}を^{ハク}表^{ハク}と^{ハク}固^{ハク}く^{ハク}一^{ハク}夾^{ハク}文^{ハク}
門^{ハク}冬^{ハク}て^{ハク}潤^{ハク}と^{ハク}様^{ハク}々^{ハク}意^{ハク}得^{ハク}る^{ハク}大^{ハク}法^{ハク}か
と^{ハク}彼^{ハク}孫^{ハク}思^{ハク}顔^{ハク}の^{ハク}生^{ハク}肌^{ハク}散^{ハク}と^{ハク}製^{ハク}て^{ハク}夏^{ハク}三^{ハク}
月^{ハク}湯^{ハク}茶^{ハク}の^{ハク}代^{ハク}に^{ハク}用^{ハク}ふ^{ハク}も^{ハク}此^{ハク}意^{ハク}多^{ハク}り^{ハク}今^{ハク}
以^{ハク}て^{ハク}夏^{ハク}の^{ハク}暑^{ハク}氣^{ハク}の^{ハク}煩^{ハク}く^{ハク}生^{ハク}肌^{ハク}散^{ハク}人^{ハク}參^{ハク}
麥^{ハク}と^{ハク}使^{ハク}こ^{ハク}し^{ハク}多^{ハク}く^{ハク}又^{ハク}身^{ハク}と^{ハク}ん^{ハク}と^{ハク}ん^{ハク}

氣^{ハク}を^{ハク}つ^{ハク}ら^{ハク}い^{ハク}其^{ハク}上^{ハク}夏^{ハク}暑^{ハク}氣^{ハク}に^{ハク}中^{ハク}つ^{ハク}煩^{ハク}の^{ハク}
補^{ハク}中^{ハク}益^{ハク}氣^{ハク}湯^{ハク}に^{ハク}加^{ハク}減^{ハク}と^{ハク}右^{ハク}に^{ハク}白^{ハク}甘^{ハク}夏^{ハク}の^{ハク}
暑^{ハク}氣^{ハク}は^{ハク}直^{ハク}に^{ハク}中^{ハク}ら^{ハク}れ^{ハク}る^{ハク}諸^{ハク}症^{ハク}の^{ハク}療^{ハク}治^{ハク}
又^{ハク}右^{ハク}の^{ハク}外^{ハク}に^{ハク}夏^{ハク}の^{ハク}暑^{ハク}氣^{ハク}と^{ハク}防^{ハク}ぐ^{ハク}ん^{ハク}と
水^{ハク}と^{ハク}浴^{ハク}を^{ハク}り^{ハク}風^{ハク}は^{ハク}吹^{ハク}れ^{ハク}り^{ハク}或^{ハク}は^{ハク}冷^{ハク}く^{ハク}
物^{ハク}と^{ハク}飲^{ハク}食^{ハク}て^{ハク}外^{ハク}に^{ハク}も^{ハク}内^{ハク}に^{ハク}も^{ハク}冷^{ハク}寒^{ハク}
の^{ハク}為^{ハク}に^{ハク}中^{ハク}ら^{ハク}し^{ハク}病^{ハク}と^{ハク}ら^{ハク}り^{ハク}先^{ハク}に^{ハク}夏^{ハク}の^{ハク}煩^{ハク}
は^{ハク}此^{ハク}症^{ハク}多^{ハク}く^{ハク}事^{ハク}多^{ハク}り^{ハク}是^{ハク}を^{ハク}大^{ハク}抵^{ハク}佳^{ハク}香^{ハク}
正^{ハク}氣^{ハク}散^{ハク}八^{ハク}解^{ハク}散^{ハク}二^{ハク}香^{ハク}散^{ハク}十^{ハク}味^{ハク}香^{ハク}薤^{ハク}散^{ハク}
に^{ハク}加^{ハク}減^{ハク}と^{ハク}外^{ハク}寒^{ハク}風^{ハク}の^{ハク}方^{ハク}つ^{ハク}く^{ハク}是^{ハク}活^{ハク}活^{ハク}活^{ハク}
凡^{ハク}を^{ハク}加^{ハク}し^{ハク}内^{ハク}食^{ハク}飲^{ハク}の^{ハク}方^{ハク}強^{ハク}く^{ハク}蒼^{ハク}君^{ハク}木^{ハク}
乾^{ハク}姜^{ハク}肉^{ハク}桂^{ハク}神^{ハク}曲^{ハク}縮^{ハク}砂^{ハク}と^{ハク}加^{ハク}し^{ハク}と^{ハク}
又^{ハク}夏^{ハク}の^{ハク}時^{ハク}に^{ハク}霍^{ハク}亂^{ハク}は^{ハク}二^{ハク}品^{ハク}あり^{ハク}て

乾霍乱湿霍乱と云々乾霍乱は吐
き下りて吐れど涙も涙らざり心腹
悶へ痛みて手足冷脈も絶んとす先
加味理中湯に加減を甚くハ附子
理中湯四逆湯などを用て湿霍乱と
云ハ吐浮一時子発るなり 一なるもの霍
香正気散ハ解散子温劑と加りらふ
或ハ香薷飲或ハ十味香薷飲に加
減する事とあり大法乾霍乱の
症ハ重くして急症なり油断のあり
ぬ症と意得ハ又夏の時分ハ注夏
病と云煩あり俗ハ夏瘧と云春
の末より夏へ向て頭痛眩暈ハ脚

まの手足の内やち形体やせを勞
症の如ハ參朮益元湯に加減し
なり叔夏乃暑氣にやられぬも症を
一藥子熱とのみ意得て一向ハ寒劑
のこ使ことかれ暑氣にて汗出て
元氣ハ燥る故に及て虚寒に及び
て煩こと多し其故ハ夏の暑氣の
療治に及て温劑補劑より
さ者多しと知る

○湿

湿症を種々あり風湿寒湿湿熱
外湿内湿等なり扱一切の湿の療治
亦便より引と云ハ專一なり大抵ハ滲

濕湯陰濕湯羌活湯の通用あり
その中ニ滲濕湯ハ裏ニ深ニ濕と
去羌活湯ハ凡濕の表ニ淺ニ濕
と去又冷濕凡濕めて身痛て痛
凡と多しハ独活寄生湯羌活勝濕
湯ニ加減を其中ニ勝濕湯ハ凡濕と
本として寄生湯ハ第一足膝の痛と
止る多し又食飲の湿かり不換金
正氣散ニ羌活防凡と加し脾胃
ヲ冷つらハ乾姜肉桂とくハ又一四
の寒濕の症ハ五苓散ニ加減と又
濕熱の症ハ四苓散ニ黃連黃
柏かと加し多し惣して濕症

の候ニさうらぬ冷症多し赤くもし
る濕熱多し大ニ濕症ハ候々常
よりを少くさるりと清くも候者也
其上濕症ハ頭重く汗多し者然
るも風濕の強ニ汗の出るもあれ
一既ホムハいづ一又濕症の療治
ハハつよく汗と出さぬ者多し汗強
過ハたかりて湿と生じら事多しとれ
故ニ汗と取てえ微出とといふ
古人の教あり

痰症 並 咳嗽 喘急

痰と云物ハテ率ニ生事ヲ非と
秘之人の身ニ有血と津液ハ或ハ氣或

ハ食物飲物ありハ外凡寒暑濕の
や滞りて痰と成り扱ニ痰
症のハ次第ニ身瘦枯るハ彼血の
津液皆痰と成故アリ其痰ニ熱
より生じ有寒より生じ有て不同
多儒医精要と云医書ハ一切の痰
ハ火煎煉つて成と有とも是ハ限
らざ寒濕より生じ充多事アリ先
大法痰劑といハ二陳湯瓜蒌枳實湯
ク主痰也此三方子加減と云事アリ
其中ニ二陳湯ハ温劑枳實湯ハ冷劑
多又二陳湯ハ湿痰と云打らるハ
多痰アリ常ニ能て出やと云

持書

一五

痰ハ用枳實湯燥痰と云燥と云
痰アリねより切て出難ニ痰ハ
用二陳湯ハ多と云枳實湯ハ様々
意多枳實湯ハ水て流て行やハ意
多又火熱の痰ハ黒ニ湿痰ハ白
クニ痰強ク補ら寒痰ハ多て
清ニ青ク黄カ多脾胃の痰也
白痰多白くツと沫多ハ精
血の虚より生じ重ニ虚勞や勞
咳の症より出さ皆沫多ハ白痰分
多これ當歸地黄の類も血と補
ハ多ら又一切の痰ハ氣と順らと
と脾胃と調一との本ヲ能やと云

持書

一六

脾胃よくそのて痰のほろろ
るなり又寒熱を考て寒痰の乾
姜肉桂かともを温むる熱おれん
黄芩山梔子かともを涼と事なり猶
此奥の二陳湯枳実湯の加減の法と
見合て療治より一扱又咳を種
くあり其中風寒より致る多し又大熱
より生じるとあり痰のものと病より
気の滞りより生じ有食物飲物乃
そよりなり生じると有陰虚より成
りり気虚よりあり有大低風寒の咳ハ
先参蓂飲香薷散を加減と熱あり
寒門桑白黄芩の類を用い寒か

持論

七六

ら乾姜肉桂かともより事なり
寒の甚はよれま三拗湯五拗湯或ハ
敗毒散をよ加減と火動の咳ハ降
火湯のよりの食飲の滞りありハ解
散不換金正気散をよ加減と陰虚
勞咳ハ先油物湯大補湯人参養榮
湯逍遥散をよ加減と気虚脾胃
虚の咳ハ六君子湯異功散の類をよ加
減と又純痰のみ乃咳あり右の二
陳湯枳実湯をよ加減と大法咳の主
宰ハ桔梗五味子杏仁欬冬紫苑なり
されも五味子ハ外邪の初発を補住
し悪し杏仁ハ虚人を使らず紫苑

持論

七六

大便と溼しやせし心降下枯梗ハ惣
して咳の必しういぢる便業多し又喘息
も右の咳の療治と大槩の事也
其中子喘ハ第一痰を開きと下
事要多し大法紫蘆子桔梗香附
枳殼桑白主壅氣又と氣分の鬱滯
より喘咳子心と氣飲は加減と又
虚陽のりせり顔赤く足冷て喘ハ
蘆子降氣湯は加減と事多し又
元氣弱し之痰氣逆上て頭痛りま
ひ喘息上りりめて空居り如こハ
半夏白木天麻湯は加減と事多し

○泄瀉

泄瀉も色あり然れども一切の瀉ハ
水も小便道と思やみぬけぬ故に水も大
便道へもこみて汚事多し故に猪
苓沢瀉の類も小便と通ともハ泄
瀉の療治の第一也又泄瀉ハ大便道
の病と雖も其根本ハ脾胃の弱故
先脾胃を調ゆる肝要と意見得し
大法水下まらんと泄瀉も小便先胃
熱湯を通用多し此茶ハ寒湿と有
少し食滯かとも兼ふも、弥の事ハ
第一病人に問て大便の時小便す
まとも別し小便多し通とも事少
さしより胃熱湯と用る眼多し或ハ

黑豆の煮汁のこもると下し或は血
難と下し腰痛とく脾胃虚の上
凡冷湿と受く者多し田月湯
加減と又とく寒く池浮りて
腰痛し顔色も青く脈と沈滞
多し理中湯を加減と食滞の浮矢
便人行くも腰痛ア浮て跡痛
減て脈弦ありれは八解散子蒼朮
木香香附縮砂とく滞りつと
平胃散子神曲麥芽とく魚をの
滞り多し山查を加力又浮も一陳
腰痛も一とく浮りて流るる有て浮
その赤く小便も白く咽渴と脈数

火熱の浮あり四苓散子蒼朮芍
薬山梔子ふと使すはくあり多く
浮て腰痛多し腹らく鳴く湿浮か
五苓散子加減と痰浮の症或
時多く浮り時浮らとて脈滑
多し二陳湯子白朮蒼朮車前木通
加用食物ふれと浮り食後
まるとて寛浮く腹も多し剛ゆ
急あり脾胃虚多し参苓白朮散補
中益気湯とく加減し用殊外剛
少し急も持たれ乾姜附子とて温
ゆる事多し脾胃浮とく薑の間に
このみ浮しとて只朝曉二三度

やと浮て然る一則行急なりこれハ
十全大補湯子加減し四神丸と兼用
又夏の暑き入て浮は香薷飲子加
減と叔浮を急止す真入養藏
湯の類なり是れを惣して浮を訶子
肉豆蔻嬰粟を急止す留ぬ事
多し急止すはかみり以腹脹腫を
うと者なり然るも久く浮て次第
は脾胃虚しく來時先とらぬなり
と蓋様の所は切者の入こ也又久く
浮も難く脱肛の急を有る百會
の穴を灸し可なり脊中の十二
代椎の左右胃の命は浮より

急那

○痢病 疫痢

惣して痢病大便前は腹痛と是
を裏急といふ大便を不残りや
覺て洗ると後重といふ極一時思
極らりりと下りて切々幾度し廁
へ行かり多く行の昼夜八九十度
百三十三度下者なり極痢病の症
ハ一身の熱と咽の渴と嘔出ると脈の
弦大数とと婦事なり又下物の惡臭
と裏急の如きと屋漏の水のや
水もりのく下て拵けの與と芋の
莖の煮汁の如き陳綿の腐る如

指月

ちて後の血とそとの脾胃と和ら
やふふと大法痢の初発より守
補ひ住ぬ事あり滞り物のぬけぬ
早く補ひ住て休息痢といふ者
ありて一年も半年も挽ちりて中
治し難き也これと虚弱症ハ初
発より補中益気湯やかとて補
少なり先古人の捉まり初発二三月ハ
かきおるるも下下四五日の後調
へ補少下へくはと云と雖このつ
つ小拘られぬ也虚症て初発く
かふかふぬぬも有十七八日過
ても下さぬハぬぬと有兎角脈

補中益気湯
四二

あ病体医者の考ある事あり扱
又白かり寒赤あり熱と沙汰
あれども此説宜しと惣して
痢病皆湿熱多湿熱の気分
ありれ白く血分ありれ赤あり
扱うる痢病止ぬ事と雖二十日
四十日下て次第元氣も挽ち
眞人養藏湯かとて止る脈も殊外
弱ハ補中益気湯ハ訶子肉豆蔻
とを加附子を使て止るあり又世間一
等ハ疫痢の流行ハ敗毒散ハ黄連
陳米を加合煎散と号て用ひ惣して
瓜熱と腸胃引合致所の痢病ハ

四二

倉煎散子加減... 禁口痢と
皆式食... 症あり実熱あり
倉煎散... 蓮肉と... 用虚症あり
八参冬白木散... 黄連蓮肉...
あり大法禁口痢... 黄連蓮肉人參...
本よりちかり若吐て... 煎茶を受ぬ
ら... 黄連蓮肉人參の煎湯... 口中よ
くませて自然と一漏り... 裏へ通
こも... 又痢病赤血を下
を... 四物湯... 阿膠地榆... 加
前... 痢病後... 残て努力
の止... 脾胃の気... 下... 陷...
者と心得て升麻と大よ... ぬ

瘧と源氏物語... 病と有あり
瘧の症も種々ありて... 事
あり先... 欠出... 惡寒...
く振... 戰慄手足... 後... 大
熱出頭痛... 咽乾... 大
法あり... 共... 又熱強... 惡寒...
あり... 有惡寒... 振...
と有... 振... 先... 惡寒... 來
る... あり... 又熱の間... 惡寒... あり...
熱と寒... 雜... 煩... 有...
陰陽... 柴苓湯... 應...
者... 叔瘧の初... 傷寒の表症

はくふ者あり瘧ハ初日は悪寒発熱
頭痛して苦しけ共明日は存の外
さびら者あり然るに瘧症は従ひ
て二三日も指つて居て二三日過て
間日発日と分るも有る大低瘧の
脈ハ浮数なりて弦なり弦といふ瘧の脈
の定てあり瘧よりとも間日と脈
やより数ありとも有ると先間日ハ
脈をのりて只少強ありなり也傷寒
の脈ハ脈の発さるにちこ也初朝より
ハ時分までよ発ハ愈易くハ過より
夜中へ向て発ハ愈なり其故ハ夜ハ
の瘧ハ柴胡湯湯かして昼ハ引

出てや截あり板又瘧ハ間日一日ハ
よて発ク大低あり或ハ二日間を置て
発ハアやう治志うとも也毎日発るハ
とらるを治し易し又発る時刻の次
第ハ早くありと時刻の乱ハ頓落
ると知へ一板瘧と病人ハ熱家中ハ
食せぬ事あり熱のさちち多し時ハ良
とらる吉批の間ハ食とれん腹は塊
と生ると是を瘧ガし名所ハ愈く
後ハ鼓脹を小変しと程ハ病
家ハ能言聞せて熱の間ハ食と止
て一板瘧の療治いさし早截を
さぬ者あり截まう早過れん邪を

と補い住りて壞症の瘧とありて
即ちちりて久しく愈難き事と
かこ大法三灸四灸めて截る事
又截茶々遲過して元氣を疲て
勞瘧と成て大事なり極瘧の初發
傷寒の瘧と見定難き時公孫藤
飲み羌活防風かかと加へて明目の容
体を見一瘧は極なり時頭痛一
其外腰身こり一痛て汗をさか
散邪湯なり麻黄強く汗を出し
茶をれし時の見えかり有る也東
敗毒散に蒼朮葛根草菓根と
くえてと用又汗ありて口中乾る

よ正し湯なり若大便結しありて
弥りての事也又惡寒と熱と同一
事雜て咽渴は柴苓湯なり極瘧
の脈は惣して弦して底力ある者か
と共分て左の関脈を弦みて力あり
て左の米咬み左の脇痛とらるる
ハ肝瘧の症なり小柴胡湯を加減す
右の関脈弦ふして底力ありて腹脹
咽くくハ脾瘧なり九味清脾湯を加
減と又惡寒ハ少く只熱の強も九味
清脾湯に宜し又熱ハとく只惡
寒の強と又食傷より出る瘧とハ
七味清脾湯に加減と又虛弱を入り

暴子強さ瘧子痲つらん人參養食
 湯小加減して四五貼も飲せて人參
 瘧飲もそし落し也截瘧飲一切乃
 せりれ截某あり人參ハ時の見
 らいあり或ハ久き瘧子元氣も疲
 るる補中益氣湯や六君子湯か
 子加減と古人も虚瘧の症子獨參湯
 一錢目子煨ふ生薑五分て愈
 る事有なり氣血と弱ハ大補湯
 加減と二日間と置て発久く愈
 るる大補湯子加減して吉惣して
 登前の発ハ氣分の熱ハ胡湯乃
 類登崎の発ハ度方の熱地骨皮散

の類多り又脚子塊ありて久くをり
 此熱ハ兼ハるハ灸ハ瘧ハ甲飲ハと
 加減と瘧い多て後の養生ハ六
 君子湯補中益氣湯をてとくま
 るる若ハ氣血とと殊ハの外ハ疲ハ
 らん參取ハ養生湯を用ハる

○水腫脹満并諸病腫

水腫ハ身ハ水腫ハの來ハ脹満ハ
 鼓脹ハのハ腹ハ大ハ脹ハて手足
 ハ却テ瘦細ハ者ハ其形ハ蜘蛛ハのや
 う也ハ蜘蛛病ハ也ハ脹満ハ
 煩ハ希ハ事ハ大方ハ水腫ハと脹満
 と相兼ハ手足ハ顔ハ腫ハ氣ハ腹ハも

太_い脹_はて苦_くら_ら者_{しや}ありこ_こを_を水_{すい}腫_{しゆ}
 脹_は満_{まん}兼_{けん}み_み故_{ゆゑ}に_に腫_{しゆ}脹_はの_の症_{しやう}と_とあり
 扱_あ腫_{しゆ}氣_きの_の來_{きた}は_は先_{まづ}く_くを_を目_めの_の下_{した}り_り次_{つぎ}
 弟_{あつち}に_に身_み腹_{はら}へ_へ向_{むか}ひ_ひて_て腫_はる_る者_{しや}あり_り惣_{おん}として_{して}
 水_{すい}腫_{しゆ}は_は脾_ひ胃_い腎_{じん}の_の虚_{きよ}う_う生_なじ_じり_り鼓_こ脹_は
 か_かこ_こに_に弥_み脾_ひ胃_いの_の損_{そん}じ_じり_りか_かこ_こに_に脾_ひ胃_い
 の_の身_みの_の肌_き肉_{にく}と_とつ_つき_きさ_さる_る故_{ゆゑ}に_に脾_ひ胃_いの_の
 損_{そん}じ_じり_りは_は皮_{かわ}と_と肉_{にく}との_の間_まに_に疎_そら_らる_るや_やあり
 て_て其_{その}水_{すい}が_が溜_{りゅう}て_て腫_はる_るあり_り古_こ今_{こん}水_{すい}の_の
 本_{もと}に_に腎_{じん}子_し有_あり_り未_まに_に脈_{みやく}を_を預_あり_りと_とい_い
 て_て腫_は脹_はの_の人_{ひと}必_{かならず}に_に咳_{せき}や_や喘_{ぜん}り_り有_あり_り痰_{たん}り_り
 來_{きた}者_{しや}あり_り水_{すい}が_が上_{かみ}へ_へ厥_{くわつ}る_る故_{ゆゑ}に_に扱_あり_りか
 ら_らと_と小_{せう}便_{べん}り_り通_{つう}じ_じり_り難_{がた}く_く水_{すい}が_が外_{ぐわい}へ_へま_まり_り

る_る故_{ゆゑ}に_に又_{また}小_{せう}便_{べん}り_り通_{つう}じ_じり_り難_{がた}く_く腫_{しゆ}の_の
 増_まし_し甚_{しん}大_{だい}事_じと_と取_とり_りこ_こに_に扱_あり_り腫_{しゆ}脹_はを_を
 色_{いろ}々_々あり_り寒_{かん}より_{より}生_なじ_じり_りあり_り湿_{しつ}熱_{ねつ}より_{より}生_な
 じ_じり_り有_あり_り血_{けつ}虚_{きよ}瘰_{れい}癧_{ぢん}血_{けつ}を_を生_なじ_じり_りあり_り先_{まづ}寒_{かん}より_{より}
 生_なじ_じり_りあり_り多_{おほ}く_く也_{なり}又_{また}陰_{いん}陽_{やう}の_の分_{ぶん}あり_り脈_{みやく}も
 沈_{ちん}遅_ちり_りて_て顔_{がん}色_{しき}青_{せい}白_{はく}く_く温_{うん}を_をと_とり_り
 小_{せう}便_{べん}も_も赤_{せき}や_やと_とし_して_て大_{だい}便_{べん}浮_うり_りか_か陰_{いん}
 症_{しやう}あり_りて_て治_{ちやう}し_し難_{がた}く_く也_{なり}又_{また}脈_{みやく}沈_{ちん}数_{すう}或_{ある}は
 浮_う大_{だい}なり_りて_て顔_{がん}色_{しき}赤_{せき}黄_{わう}子_し咽_{おん}も_も渴_{かつ}き_き
 小_{せう}便_{べん}も_も赤_{せき}く_く大_{だい}便_{べん}結_{けつ}ち_ちり_りか_か陽_{やう}あり_り
 治_{ちやう}し_し易_{やす}く_く扱_あり_り腫_{しゆ}脹_はの_の病_{びやう}人_{ひと}登_{とう}ま_まり_りて_ては
 食_{じき}も_も進_{しん}ま_まり_り病_{びやう}も_も緩_{かん}く_く覺_{かく}へ_へ登_{とう}ま_まり_り
 ら_らの_の食_{じき}も_も少_{せう}く_く病_{びやう}も_も重_{じゆう}く_く覺_{かく}ゆ_ゆる_る血_{けつ}

虚なり又朝ハ悪ク晚於ニ能ハ氣
虚なり扱又腫の強ニハ脹傷て手
足ニハ胸腹をめぐり水の流て出
有なりケ様ある多クハ死する事也
予ハ毎日水ウハ年も出あるを見
る事あり又脇ツリハ股の付根をふ
ら水出てそれは蜂蛆の目見あるを見
し事あり二人とて本復セヨリ
也扱又同一腫の中めを身の常ニ高
ニ所ニ高く早所ハ低ク腫ハ
其高低のころち多く一偏ニ平ク腫
るハ悪症あり前より如ク腫ハ皆脾
胃腎の虚よりなる故何の病も

腫ハ氣の來るハ大事と取たり扱又水
腫ニ急ニ引せぬ事也水て却て元氣
と持て居る者かれ急事と引時ハ
水は引きて元氣ハ散て急ニ死と
る者あり自然ニ毎日くくつくと
引く言也惣して腫脹の症ハ引くハ
ハ大事と意得て前より補劑
をして投て置ると肝要と扱療
治の仕方ハ先大低分消湯一名実
脾飲子加減と或ハ氣の惱り來
る腫より分心氣飲子加減と又熱
脹して塊聚るハ廣茂潰堅湯
加減と然るを此症ハ世ニ希なる

重なり又気血を弱くして補と
浮く相兼て用つことあり行湿
神気養血湯に加減を其外脾
胃虚弱の腫脹をくえ八解散
功散六君子湯神中益氣湯か
乾姜因桂をい少水道通利の禁
と加減して用い極虚寒をくハ海子
理中湯に加味して是物にして水腫や
脹満に実症ハ希に虚症の多
しと心得て妄に攻劑をつひ損
しつと様にして一々此症ハ初心の
時分ハ致つこと病あり

○黄疽 甘福病

身より黄く病ありくめると目
の中より血甲かとり黄くあり事
多し此症ハ脾胃の湿熱より生じて古
人も麴の花乃黄くふ論あり大カ
先茵陳湯四苓散清熱除濕湯に
加減を極此症よを陰陽の分あり小
便より赤く皂莢の者汁の如く身
も熱く咽乾く大便秘結して脈洪
数ありハ陽症なり茵陳大黃湯に加
減を身も熱く咽も渴く大便も
結せし小便しこのみ赤くハ脈微瀽か
るハ陰疽虚症なり八解散六君子湯か
と小蒼朮茵陳青皮の類を加味して又

黒疸として面目一黒也。多量の死症
多し。又黄汗として汗黄す。衣服ま
て黄す。染るも有。又穀疸として食う
ると進まず。吐て食てを跡く。飢る
く成り。是ら皆大事の症。治
難也。又大法黄疸と病て咽渴
治し難く咽く。かき。治し難し
知し。扱又黄疸の病人多く。雀
ごと煩。女者あり。大既。平胃散。山
梔。當歸。川芎。かき。加用。又世間
は福病とす。も黄疸の種類。治
て。医書に黄腫病。黄胖病と有。症也
これ。此と脾胃の湿熱より。い

平胃散。香附子。青皮
神曲。麥芽。鉄粉。加用。効あり
參。白朮。等の補劑。相應せぬ者
とあるなり

○疝氣

疝氣は五藏の疝。子狐疝。癪疝の兩
をて。七症あり。也。惣して一切の諸疝ハ
肝腎の二經へあり。其故は。疝
氣の脉必弦あり。者なり。叔病も多
く。小腹より陰囊へ。して。小腹内膝
腫へ引り。脇腰へ引。あて。痛。腹中
く。と。蛙の。声の。如く。鳴。あり。い。腹
中。塊。あり。も。有。種々。同。し。か。と。又。陰

囊大腫むと癩疔といふ右
偏腫と偏墜といふ諸症皆濕熱
の上と寒氣で閉るより致しと事
多し大抵三和散を加減し或は烏
苓通氣散を加減して用へし若し
寒疝の症かゝる五積散を加減し
冬の寒氣を發する疝氣はいよく
五積散と相應する者あり

○淋病並小便閉小便濁

小便血 関格症

淋病は小便澁ア痛て通し難く陰
莖膿と出ると其症立つるは氣淋ハ
氣分の腦より生じ血淋ハ血と志ふ

いし出を勞淋ハ勞役より生じ膏
淋ハ小便膏の如く濁澁て出石淋
ハ淋病の膿石の如く硬て出ると
ぬ痛て出ると五淋といふ寒熱の
つらあれとも先づ熱症か扱小
便閉と淋病と同一と異なり淋
ハ澁出る也と出さるふれは
と出さるく小便閉とて淋病ハ非と
又小便血出て澁も痛しかるは只
小便血として血淋ハ非と膏淋を
おかし事多し小便白く或は赤く濁て
出さるも痛もかけると只濁症といふ
也澁て痛うあれと膏淋なり扱治法

矢低まる五淋散子加味しるる通用
 たり或小便赤く熱淋血淋
 酒後の色慾の生じしるる八正散
 加減は然る共八正散は地黄ふとり
 入て五淋散ふるとも余程手つぎが
 たり又勞人虚人を陽気下陷し
 気の引立ちの多し淋病を煩ありと
 して補中益氣湯子或は肉桂まじり
 少通葉を加利して愈事も有又ハ
 腎虚の淋病子白濁湯子加味し又
 六味地黄丸と用○淋病は非して
 て惟小便閉あり先猪苓湯虚
 て寒のゆつる通せるとハ附子理中湯

猪苓沢瀉痰火より通せるとハ二
 陳湯子猪苓木通車前山拖黄柏
 老人虚人胃気の下陷を六補中
 益氣湯子肉桂猪苓と用○骨蒸
 ありしとて惟小便濁の症あり先赤
 心蓮子飲子加味し肝火の症ありハ
 加味逍遥散子蒼朮篇蓄湿痰の症
 ありハ二陳湯子蒼朮山拖篇蓄虚人
 の瀉症子益補中益氣湯夜六味地
 黄丸をとり大法多し○又血淋子向
 らしめて只小便血多ハ清腸湯子加
 減し○又上ハ吐逆し食事を下小便
 通せし上下通せしハ関格とわし

枳縮二陳湯子加減也

○食傷甘腹痛吐逆霍乱

大低食傷子ハ半胃散穀食の滞

ア勿クハ神曲麥芽魚肉のそコリ

あつハ山查を加ハシ或ハ香砂平胃

散子加減ト又主チ者冷ト者其

外麩類ふトハ中トハ不換金

正気散子加減又内食傷トハ外

邪氣ト手片トふハ霍香正気

散子加減ト又氣の悩の上ト食

子勿クハ寒邪ト手子行氣

香薷散子加味ト又食のそコ

アト有テ吐ト浮トトト難

義アリハ耳草一時トク煎ト出

テ飲トハ能吐トテ然モ後ト損補

也又ハ生冷ト塩湯ト能吐ト物

勿或ハ酒ト中ラレハ葛花解

醒湯ト枳椇子ト加用ト腹痛ト種

ク有食傷の痛アリ右の食傷の

茶子加味ト用先木香芍薬多

アハ耳草ト腹痛の加茶アリト

一切の腹痛ト蒼木ト相應ト

白木ト相應ト物ナリ故ト古

人ト腹痛ト皆白木ト用ト

アリト一切の腹痛ト先開導

気湯子加味ト用也痛ト

多し痛つちあり、寒痛あり、姜桂湯一陳つ痛強し、熱痛也、散火湯大便前より痛、瀉後より痛減、食積痛多し、香砂平胃散、み所、こぼりて替、ね、瘀血痛あり、活血湯、痛、ころ、ち、右、て、面、ち、け、唇、く、ま、の、成、虫、の、痛、多し、椒梅湯、氣、の、恠、より、痛、て、服、一、二、日、木香、順、氣、散、手、ま、移、る、痛、く、つ、ま、ま、て、腹、軟、ま、る、虚、痛、多し、温中湯、加、減、ま、る、也、物、し、て、腹、痛、し、て、按、て、心、く、腹、や、く、ま、る、虚、あり、按、ハ、り、て、痛、硬、ハ、実、積、多し、又、背、あり、と、按、

て、快、ま、る、虚、寒、あり、背、あり、と、あ、り、心、口、あり、熱、積、多し、又、脾胃、虚、寒、し、と、腹、中、む、く、ま、る、て、痛、む、者、小、建、中、湯、の、必、然、の、薬、多し、吐、逆、も、食、傷、の、吐、逆、あり、右、の、食、傷、の、薬、加、減、と、天、法、霍、香、砂、仁、の、吐、逆、の、加、味、あり、大法、胃、寒、より、吐、て、理、中、湯、四、日、煎、り、吐、ハ、保、中、湯、胸、煩、咽、渴、く、ま、黄、連、竹、葉、湯、冷、水、を、と、多、く、飲、て、吐、ハ、伏、苓、芍、薬、湯、胃、虚、の、吐、逆、あり、香、砂、六、君、子、湯、干、乾、姜、と、加、り、大、方、吐、逆、の、症、ハ、寒、邪、の、方、に、適、中、せ、と、多、く、温、邪、の、相、應、ま、る、者、多し、椒、霍、乱、と、云、

上ハ吐逆一トハ瀉テ吐瀉一時子來
 ると湿霍乱ト云也又吐瀉多ク吐レ
 瀉テ瀉テ瀉テ胸腹多ク苦
 干と乾霍乱ト云乾霍乱ハ急症
 大事なり今世間子夏乃者氣子
 中られしと霍乱ト覺へぬハ誤
 了なり秘霍乱轉筋ト云クク
 多ク添者也轉筋ハ木瓜加味
 散子肉桂加味を加用又乾霍乱
 母ハ回春乃霍乱門の理中湯加
 減一用一

○積聚 甘 婦人血塊

積ハ五藏のりりして五積あり
 聚ハ六府の類して六聚あり惣一
 て塊アの在所さるゆり居て積
 と不在処さるゆり居て積と大法
 心積ハ胸にあり有脾積ハ肺のり
 あり添て有肺積ハ肺の右有肝の
 積ハ小腹にあり大低積聚ハ指迷七
 氣湯小加味と或ハ積塊熱症多
 ハ柴平湯加減と氣積多ハ三和
 散の加味も可婦人癥血の積聚血
 塊ハ化積湯加減と又積聚元
 氣虚し不食し体瘦手足苦し
 さいハ補中益氣湯子裁末三稜青

皮香附栝樓藿香益智肉桂と加
し若婦人の血塊をく四物調經湯
に加減すべし

○頭痛

頭痛と種々あり大抵風寒湿の外邪
より頭痛するは前の寒門湿門感冒
門の薬を加減して愈すと大柴外邪の
頭痛は惡寒を并熱し厚くはるるあり
湿の頭痛は頭重く物の芥むひる
やこも覺えあり叔肥々る人の頭痛
は氣虚湿痰あり二陳湯に人参白
朮川芎白芷細辛羌活栝樓茯苓
とくらの瘦むる人の頭痛は血虚と

効あり二陳湯に生地黃當歸川
芎黃芩細辛羌活栝樓を加り又左
偏痛むる當歸補血湯右一偏むる
黃芪益氣湯頂痛むる二陳湯に麻
柴胡川芎葛根芍藥雙料細辛薄荷
とくゆ血虚の頭痛は加味四物湯上
熱の頭痛は清上瀉火湯又頭痛は
まひ頭少くつらきは子居の如く半夏
白朮天麻湯に加味して又風痰の頭
痛は川芎茶調散より又眉接骨
痛とく眉の骨にむくは疾火を選
奇湯又氣虚の頭痛は補中益氣
湯よりけんこし

○虚勞甘勞咳勞瘵
傳死病

虚勞多種々あり氣弱より始るあり
陰虚より発るあり大方人の小娘小
是子宮仕の女子寡婦叔の庄僧の
此症を病の多いを言ひたり始るあり
夫婦ある人の此症を病の起る過て
陰虚火動より生じ何の道より生
じても此症の治し難しと云ふと病
因を軽く床を付と療治もそこ
くみで捨ちこそ次第は重しと云
ふ医者穿鼻と云ふ故十人の七八人
までも救ふれぬ事あり其くろき時

虚勞の考ふりてつづき灸せしむら
故に害あり事少りしは女人病付し氣
弱のくろきと煩胸痛頭痛不食身
瘦大便結しと云ふ心氣飲し加味を
又此登過く悪寒も有振もあり
経水も不順し手足の心熱あり加味
通散を加減し然らざる瘵症と

見ゆる白木と蒼木を代へるより、
惣して古人の疾と謂症は白木とら
(かしこ)と云然も自ら汗盗汗と
有て胃の気も弱其供白木と用
汗の有は蒼木とつる汗か出る者
多り叔爵症は先六爵湯紫蘇和
気飲かとり可者多り叔次弟も重て
骨蒸の熱多り盗汗出登の八時
方々寒熱あり咳出て白痰ありふ
至て加味逍遥散かき退るる
滋陰至宝湯か加減して若至宝
湯も退るる茯苓補心湯を用て
見へる症は汗かくいよく補心湯

指

五

を用て汗かく補心湯ハ無用多り叔
勞症の熱ハ尋常の熱といりて外
皮膚して活々とやめをいせと惟骨髄
の底より蒸々と熱く只苦しき也
是と勞症骨蒸の熱といりて陰虛の
火を生じて解かき事多り叔陰虛火
動と成し熱盛り進て痰強く口中
干乾つるハ陰虛降火湯多りさ
そと此湯ハ元氣つとさ時多り
元氣は虚して中々此降火湯
はつひくは也叔次弟も重て元氣は
虚してかか之を養榮湯八物湯六味
地黄丸秦芫桂枝湯黃芪散電甲

指

五

潔かとの類を多く用ゝ扱方症は人
参を昔使さりし事なり然きとを
今療治しと見 小元氣虚極と云
て人参を無て救まぬ事ありと云
るも人参を不相應なりと致さるこ
と也夫故古くも虚勞補と受さる死
と云ふ虚勞勞瘵の療治が葛可
久子茶神書に詳かり其書にも
独参湯を便て置さる也凡勞瘵は
人参を使へ殊の外功者入事と知へ
扱又勞瘵は咽痛声啞眠瘵生
大便溏腹腹痛脈細数に治し難し
と云ふ勞瘵と煩少く親り死と云ふ

子又勞瘵して死し鬼の勞瘵して死し
と云ふ弟の同く病て死し是と傳屍
病と云ふ也此内は悪さ虫と生さる其
り一家一門傳て死さる也其勞瘵は
代の虫の形が葛可久子茶神書と云
一卷物の書の中は葛可久子茶の取去
りも神書にあり其外の医書の勞
瘵門も其方法出て有り扱方瘵して
死せしむと野送つと云ふ時常也と并
り蓋しと云ふ者も扱方虫の竈井の
中も隠れ残して一家も移るといふ傳へ
たり如何様道理と云ふ人見れば角も
ある事あり

○氣病

魚ハ水子生レクハ氣子生レク氣病ハ諸
 病これより生レ虚氣アリ実氣アリ
 虚氣ハ四君六君益氣散脾湯のうい
 めし補小気散ハ諸病ハ諸病ハ分
 心氣飲六時湯沉香降氣木香調
 氣散のうい加減女子の諸症ハ
 正氣天香湯ハ主氣散加減もい
 如く一切の諸症ハ北蒼朮より白朮
 引ちめて宜くすすら古人の指し
 心得ハさなり

○心痛

尋常心痛とらハ皆胃脘痛なり

とや真心痛とらハ兩の乳のま中
 錐りて揉ぬく手足厥冷ハ脈沈ハ
 絶とこれ必死とる症ハ治法をさ
 事多ク扱胃脘痛の初発寒痛ハ
 らん姜桂湯ハ加味と又久ハ痛ハ
 て胃熱カハ清熱解胃湯ハ加味
 と又痰子瘀血と兼ての痛ハ枳
 縮二陳湯ハ加味と虫のいみぢ
 椒梅湯ハ加味と虫の症ハ痛ハ
 こりさち有て面白け唇青ハ也

○諸痛 腰脇背臂

腰常々痛ハ腎虚多ク補陰湯或ハ又
 養血湯ハ加減と又瘀血の腰痛ハ

まは日軽、夜重し當飯活血湯
の烏菜肉桂青皮牡丹と去木香沈
香苗香乳香牛膝とるゆかりとて
臍を閃て痛ハ調榮活絡湯と濕痛
ゆくと滲濕湯に加減と又臍のゆら
ゆらと腹肝湯右の臍ゆらと推氣散
左右をふ痛ハ柴胡芍薬湯に加味す
惣して臍の痛ハ皆肝經のゆまゆら
肩尖骨痛て頸のまるとは通氣防風
湯又臂のゆまゆら木湯に加味と若ハ
寒邪ゆら痛ハ五積散と風毒腫
ひハ烏菜煖氣散に加減と

○痛風 凡毒腫 鶴膝風

ぼうと痛風ハ目くらたはら痛
と増其痛節々よ遷て甚痛は白
虎歴節凡と痛腫と風毒腫
と下足痛て膝より下の瘦細と鶴膝
凡とゆまゆら痛風ハ女子に治し易
男子に治し難し女子の痛風ハ四物湯に
酒製の黄柏葳灵仙独活とる腫下
とあは牛膝腫れは獨活よりも羌活
と一匙丹溪の法をて余も切々効と取
し也大低痛風ハ羌活湯ゆらハ疎經
活血湯独活寄生湯に加味とる通
用ゆら若手足腫て痛ハ吴仙除通飲
と用又凡寒の邪発熱惡寒とて敗

毒散トクサンは加減カケンも用もち又鶴膝ツルノヒ凡たゞ四物湯シモノトウは黄芪ワウキ人參ジンセン白朮ハクジツ附子ブシ牛膝ウシノヒゲ杜仲トウジュウ防風フウフウ羌活キヤウカツ活カツのくわいを加味カカミとた或ある五積散イセキサンは松マツの節ノ杉シラカシのくわいとた用もち

脚カク氣キは乾濕ケンシツの名ナあり足腫アシスワムて痛イタムと濕脚シツカク氣キとた瘦細スエガヒアハて痛イタムと乾脚ケンカク氣キとた凡たゞ寒濕カンシツ熱ネツのくわいとた用もち生ナるくわい也なり大法ダイホフ脚カク氣キの初ハジメ大便秘結ダイベニケツセハ先マツ羌活キヤウカツ活カツ導滯湯ドウシツトウと用もち大便ダイベと通スと濕熱シツネツの症シメありくわい當飲トウイン拈痛湯ニテントウ又凡毒オノノクをくわい寒熱カンネツ赤腫セクシュ痛火ツツカの如ごとくくわい敗毒散バイトクサンは蒼朮ソウジツ木酒キシウ子蒸シとた大

黄ワウとた或ある虛寒キョカン濕シツのくわい積散セキサンは温ユヅルびくわい一いつ又血虛ケツキョ血熱ケツネツのくわい四物湯シモノトウは黄芩ワウジン紅花コウカとた又麻痺マヒハ身痺シノヒより多おほハ氣虛キキョ子屬シヨクと加味カカミ益氣湯イセキトウは加減カケンと若手ニガテの十指ジュウシヨウありくわい面目麻痺メノマヒセくわい補中益氣湯ボチュウイセキトウは木香キョウキョウ麥門マクモン羌活キヤウカツ防風フウフウ香附キヤウブ烏朮ウジツとた又婦人平足麻痺フジンヘイソクマヒとた氣鬱キウツり閉結ヘイケツ舒經湯シュキョウトウは加減カケンと木キとた強ツヨクつくわいとた是濕痰瘀血シツタンウツクあり双合湯シュウカクトウと用もちの不仁フジン人肌ヒノやくわい痛イタムも痒カサも寒サムも熱アツと覺オモえくわい也なり氣血キケツの不ふ順じゆんとた八物湯ハクモノトウ大補湯ダイボトウ補中益氣湯ボチュウイセキトウ桂附ケイブと加味カカミと

○痿躄、足之てんてん、れと、教、
養、米、湯、加、味、と

○消渴 俗にわが、このやま

消渴の病、上中下消、その品の、
消、肺、熱、多、咽、渴、して、終、湯、水、好、
食、い、と、多、大、小、便、常、の、如、
湯、中、消、胃、熱、多、食、物、と、い、
食、と、唯、多、く、食、身、瘦、大、
便、結、小、便、赤、黄、多、通、人、
參、白、虎、湯、下、消、腎、熱、多、咽、
小便、濁、油、の、如、精、泄、前、陰、強、
男女、多、と、昼、夜、色、慾、の、情、
兆、と、滋、陰、降、火、湯、と、六、味、地、

ついで用又三消ととも通用の某ハ
黄連地黄湯又一法ハ三消と小四
物湯と本薬ふりて上消の症ハ參
五味麥門天花粉を加中消の症ハ知
母石膏滑石寒水石を加下消の
症ハ知母黄柏五味と久熟地黄と
倍と

○膈症 付 噎 翻胃 噦

噎、飲食と飲こまんとして、
は、り、噎、て、飲、し、を、不、是、胸、膈、の、
液、を、と、ま、り、症、多、り、膈、咽、別、義、を、
く、飲、こ、み、て、鳩、尾、を、透、こ、り、腹、
まで、落、つ、と、吐、及、と、胃、口、

の液ひくもなる症あり及胃の咽と
 鳩尾も別義あり通し嘔きく落つて
 て吐及もさる甚しき朝の食と
 暮より暮の食と明朝吐て然も
 其食物の色も変と其も吐とのを
 先脾胃の極虚ふして救めしと也
 先膈噎の初発は安胃湯順気和中湯
 かと通用の劑あり又老人の血枯痰
 火升正氣鬱結し者ハ當級養血
 湯あり若年少人の胃の血燥は潤
 と大便硬く秘結せし生津補血湯也
 其翻胃は成て胃の氣を補して温り
 するは至聖前膈噎及胃ハと也

鹿角の四君子湯血虚あるは四物湯
 と本方より加味してなるは膈噎及
 胃ハとと大便堅く細く鹿の糞の
 如く木栗子粒の如くを出て治法血
 痰とともや大便と通しとさすは
 又ロトリ白き涕の如くある痰と多
 く吐者ハ治し難しと知へ

- 諸の血症 吐血 衄血 咳血
- 咯血 唾血 漏血 便血 膀胱
- 藏毒 痰血

ちよと血ハ寒うして止アとさる熱
 てハ妄に流れて外へ泄つる也故に一切の
 血の出るハ皆熱火と取て療治とす

事多し其熱熾り虚熱実熱の二あり
有又血症は脈細なり大悪し
身重なり苦なり悪し鮮し真赤
あり血と出ると悪し黒く紫さす
塊ありは瘀血なり悪し大瀉あり
やう小真赤あり血は止てり黒く紫さ
かこまりあり急なり事多し救急ハ
鮮血して後黒血よりありありと
て止る者あり又血の下り出ると多
く苦なりと少くも上り出ると悪
なり其中鼻血は多く出ると苦なり
と救急治ハ吐血咳血衄血咯血唾血
と小先犀角地黄湯は通用也

又吐血の症は血と噴き鼻より流
らるると鼻衄は治せり也先痰と吐
て後鼻血と吐く清肺湯先血と吐て
は痰と出ると滋陰降火湯なり
吐血ふつと急者ハ先独参湯を用て
救本茶と用若脾胃の虚なりハ補中
益気湯加味絞腸湯は加減して
あり鼻血は清血湯は加味して咳
痰の中は血と雜ハ先清咳湯あり
其外ハ前ノ虚勞門ノ茶とくく
阿膠交頤ハ加て止ハ熱して
咳血痰血吐血ハ恐ハ病候也
咯血ハ吐血と切ハ心して少なり有

吐血といふ者、胸中よりくもみあけて血と
 吐逆、とこいふは、咯血といふ、肺よりこ
 み上ると不音血と略といふ、咯血で
 其血小米の如く細く碎かざるりるる
 血なり、清咯湯。又あさやうなる善血
 と唾と共に出ると唾血といふ、清唾湯。
 扱とるゝの血症とまりて、後ハ先補榮
 湯、人参養榮湯、健脾湯、かゝるを調
 かこふ、下ノ小便ハ血つゝ、清腸湯
 の大便ハ血つゝ、先清肺湯、若脾脈
 の虚なり、補中益気湯、加味とて
 下ノ下部の血とこいふ、先阿膠槐花
 地榆側柏、かゝる扱大便前ハ出る血

二十
 五

と腸胃といふ大便のわたり出る血と、驚
 毒といふ

○眩暈

眩暈も種々あり、痰の逆上より、
 とい先清暈化痰湯、若気虚して
 湿痰と兼ハ六君子湯、黄芩川芎天
 麻桔梗、當皈白芷とく、或ハ補中益
 気湯、半夏茯苓天麻とく、若益
 虚して痰火と兼ハ四物湯、大棗陳皮
 黄芩山栀、茯苓天麻、耳聾とく、或ハ
 風痰、二陳湯、羌活防風、桔梗、瓜
 蒌、白木、かゝる又眩暈して頭ヤ
 つゝ空中に居如く、覺ゆる、半夏白朮

指

天麻湯と用わらひ元氣虚極して眩暈手足令脈も沈細なり參附湯は炮姜大子用へ

○健忘 并怔忡驚悸

けんわつ びやうていこうきん

けんわつ びやうていこうきん

物おとすきこころ

健忘は版脾湯と主劑として加減

或は六味丸と兼用 言又痰心數

と塞て成もあつた痰劑は石菖蒲

遠志酸棗仁かと兼用○又怔忡はまの

四物安神湯朱砂安神散かと兼用

そ痰火あり二陳湯は麥門冬

山椒おとすゆのむさど物おとすきこころ
こを驚悸とし先養血安神湯を
痰火あり温膽湯よりけんを

○虚煩 俗云ひものつれ

けんわん 俗云ひものつれ

けんわん 俗云ひものつれ

虚煩はかり大病の後より加味温

胆湯の加減の唯寐し心脾の不

足より加味版脾湯又補中益気湯

は遠志酸棗仁と兼用を酸棗仁

は能炒まろくして用きこころ寐し

るを生も使し睡とさるを故に寐し

そは病人ありて炒て入

○汗の症

汗の症

汗の症

瀉と自汗盗汗とをわり自汗と
 瀉とをわり身とつらひし働させを厚
 着させられぬものなり自然と汗出
 るといふ是先肺気の虚うして虚
 の薄故なり盗汗ハ陰虚より出て
 自汗とるを症おきとハ盗汗の出
 る小軽症ハ希なり概一切の汗乃
 冷やリ多し悪温のあつて苦い守
 こそ又汗のうらと粘らぬ軽粘
 る重し又冷汗流るるて粒々として
 流るる絶汗とて死症なり大抵自汗
 盗汗諸症ハ相兼て煩るの也自汗
 盗汗とつら病いられなり其諸症ハ

瀉と煩る木病の主薬の中自汗あり
 黄芩ハ参りて如く盗汗ハ本薬
 子當飯芍薬地黄等加味と若盗汗
 あり煩る當飯六黄湯又自汗あり
 ありり参芪湯なり又心汗とて胸中
 あり汗ありて他所より者あり茯苓補
 心湯子加減と

○遺精 有 遺溺 俗に云ふ

遺精ハ先清心湯子加減と其外清心
 蓮子飲水火分消飲補中益気湯飯脾
 湯四物湯十全大補湯等小加味と○遺
 尿失禁とて覚て小便多し子参
 芪湯ハ味凡ち一附子肉桂等とハ唯

か丁又小便頻数とて小便すこしくまて
うと難くも右と治法なり

○大便閉

大便閉結とて大便結して通じ難く
とて是は潤腸湯に加味をあらわし四
物湯に加味を惣して大便秘結は皆裏
の燥を故より外より密道とて三

○癩癩 俗子よクチカキ

狂乱 俗子よ氣らる

邪崇 俗子よツキモノ

癩癩ハ世にクツチカキといふ小兒もハ
驚風といふ大人てハ癩癩といふ大法ハ
癩症ハ切々瘡る者ハ治しやとて二服

三服に一度なりて癩癩を間遠るハ
治し難し治法ハ先加味二陳湯清心柳胆

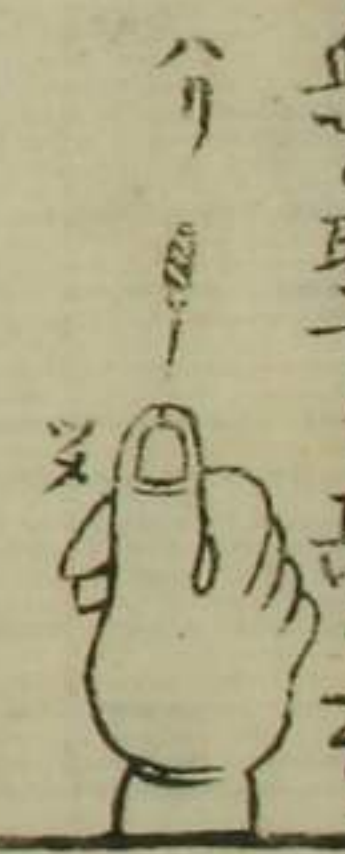
湯に加味を灸治ハ膏肓譫語臍俞
肝俞龜尾より○又狂乱といふ俗子よ氣

違又ハ乱気あらふといふ俗子よ是ハ
養血清心湯清心化痰湯に加味を若

實熱実火ハ黄連解毒湯防风通聖
散に加味を婦人産後血その初より

道遥散に生地黃遠志菴朮紅花桃
仁とてゆめ也○邪崇ハ鬼崇をといふ
皆其人の精心血気の弱きつら生じ其
脈多しとて大に又乍小となり平に
数候は遲中在ひ乱て定らとて

の人まゝ鬼哭の穴を灸し又手足の爪と
肉との間子鍼して血を取一其の
切れ如し



○痞

痞て不食ともいふ香砂養胃湯の用
用多り又痞て内熱あり夜寐をさ
解爵和中湯と用ゆ其外ハ脾胃乃
弱多しハ解散香砂六君湯か
り又神中益氣湯て下る痞も
その如し

○脱肛

脱肛ハ參茸湯子加減と又神中益
氣湯子乾姜肉桂とらと升麻と倍

を百會の穴を灸して可

○眼目

眼ハ惣て肝腎の預り多り充肝のつ
さよりとる故に一切の眼病ハ肝経と
取て療治をも也然とも眼ハ五藏
のつりて五輪のつり司とる部分有
大皆小皆の赤と所と血輪と名づけ
心の主より大皆赤と心の実熱也
小皆赤と心の虚熱多り瞳子と水輪
として腎の匠とより也白仁とハ
輪として肺を主とる上下の胞
と肉輪として脾胃是とほりとも一
切の眼病ハ通用ハ加味逍遥散子加

味とく一又凡寒の眼病に敗毒散子
 加減とく一〇赤筋大管より出て烏
 睛を犯すと心邪を肝へ下する也小管
 より出て黒眼より迂る心の虚熱あり
 洗肝明目散子加味とく〇庭鳥の鶏冠
 や蜆の肉の如くする内腎あるハ脾胃の
 熱酒毒あり浮肺湯の腎水虚して
 内障とあり黒花の如くする物や又
 ハ蠅の翅の如くする物目よりらくと
 見ゆるハ滋腎明目湯〇目疔ハ脾胃
 の熱ありハ正散〇天行赤眼ハ洗肝湯
 〇丹目子没薬散〇偷針目子退赤散
 〇羣毛倒睫子細辛湯〇塵埃まるとハ珠

の糸目子入るハ修肝散〇雀目子ハ
 神腎明目丸〇通睛ハ五七犀角飲
 〇疱瘡眼子入るハ紅化散〇小兒の疳
 目子除熱飲〇内障子升麻湯〇外障
 子耳菊花湯〇おとと大人小兒眼病の
 療治にぬくあり今爰子ハ其大匠ホの
 一方つ拳子のみ詳くあり事ハ奥子と
 こそそのなり

〇口中 齒唇 咽喉
 喉子 骨硬

胃熱して唇裂まると口中に瘡出ると
 ハ銀の腫しは清胃散當飯連翹飲
 加減涼膈散とく一凡毒ありハ独活散〇

出齒は定痛散○舌腫痛は清熱如
聖湯○又走馬牙疳と云俗は齒
をさり牙根より唇まで腮まで腐
の入急症あり芦薈消疳飲清胃丹
麻湯と云らぬ此症小兒は喉の咽腫
痛は実火なり清涼散と云凡熱あり
牛蒡子湯又絞火あり瓜萎根実湯
加味と云熱一咽のつと云はます
桔梗甘草荆芥と兼服と云は耳
枯湯と云或連翹山豆根と云は喉
痺は通閉散○咽は真鳥一切の骨
多ちよ縮砂一味と煎服又口中
は會居てり其膏水とありて痛と

かち口中の病はくありと云は
其大薬と拳のの詳なる事ハ奥
ありと

○耳の病

耳ハ腎のつと云也故に腎虚して耳
聾耳又耳乃鳴ハ滋腎通耳湯と云
の耳は滋陰地黄湯も腎経の凡
熱して耳腫痛は荆芥連翹湯又
虚火をさして盛子升て耳病と云
とハ通眼利気湯あり板惣して耳の鳴
ハやうて聾と云はと知下

○鼻の病 付 面の病

清濁

二二二

凡寒みく鼻より赤く清涼の
出るは通竅湯又凡熱より物の香と
ぬは廉沢通気散又鱉鼻子清血四
物湯あるは當飯活血湯も鼻淵
そし淫淨のそと壅ハ荊芥連翹湯
ありちよも鼻淵ハ辛夷をつひてり
鼻より出るハ荊芥凡鼻の乾ハ
葛根鼻子瘡より小黄艾を主と
と○又物心して上熱より面は瘡を生
じると清上防風湯を加減す

○虫の症 寸白

虫を虫より致と諸病あり其候ハ
面あるは白く或ハ黄く唇くれあり

ハ眼腫鼻の下かと青黒さハ虫あり
治法ハ辛苦さふらり耳をぬり悪言
あり大法虫ハ楨榔木香苦楝根川
椒を主として用むんを虫ハ楸子
カトも其功とそれより小兒の疳虫
ハ史君子蕪荑仁カトも功あり

○痔 付漏あり

痔の病も種々ありて治法もさやく
勿れ大法疣痔をかりと痒子秦芫
蕤活湯血の射出るは四物湯子連翹
地榆側柏とらゆ又癰疔より破
るは當飯連翹湯も大便の時痛
つるは秦芫防風湯も也さこことして

瀉とありて膿血をくし出るよりしてハ
十全大補湯神中益氣湯おとよ加
味とて一瀉ハ皆虚子属とん也

○瘰癧

瘰癧ハワヤクハ氣鬱り生じ故に漏
人子多し又瘰癧と病入先瘰癧と
生じ者ありこ分りて一初瘰癧惡
寒発熱して傷寒かゝぬ如くあらも
有あり其生じてもくち皮ひと急下
塊々として滯り發箇々連つて塊や
頸のまわり生じて色も変り守痛
も痒もあき者なり又つらつて破れ
膿血の出るを瘰癧漏とらして是

ハ愈りて者あり大法ハ鬱り生じ
初瘰癧ハ柳氣内消散柴胡通經湯ス
十六味流氣飲若虚人かしく益氣養
榮湯婦人かしく味通散おとよ加味
を己瀉とありてハ氣血を補ひ行じ
毒を消やうかしくハ參黃芪當歸川
芎香附貝母升麻連翹のちあり也

○又疫班

疫班ハ大法先升麻葛根湯に加減して
二毒汗を去るを今も二毒汗とれ班
爛とありて死に極班の色紫と黒と
ハ大悪症なり班症ハ惟胃熱血熱と涼
升麻牛房子のちありて毒と解と

一〇又丹毒ハ小兒ノ多クあり世ニ
早草トシテ大人也之有るハ死後
ト出るも身ヲ発熱シ咽渴シ周身
癩風ノことク赤黒ク色ツキテ頭
トありとも是ニ三焦ノ火毒アリ黃連
解毒湯又ハ防風通聖散ヲ加味セ

○瘰癧 甘下痢 便毒

楊梅瘡 骨痛

臙瘡

かちも瘰癧ハ大ニ高く腫テ底淺ク瘰癧ハ
平チテ底深ク瘰癧ハ瘰癧より輕ク瘰癧ハ
くさリ重ク瘰癧ハ初発ニ灸シテ
其熱毒ヲ散ルル上ノ策トす

瘰癧ハ多ク潰破シ膿ニ毫ノ熱毒

と用ヘラズ只熱毒トシテ之ニ己ニ潰ヤ

サモシハ二毫ノ冷茶ト用ヘラズ只

濕神トシテ其初ニ惡寒 發熱頭痛

セハ荆芥 薄荷 連翹 黃芩 薄荷

金銀花 連翹 薄荷 連翹 黃芩 薄荷

ラテ膿ツクニ或ハ潰破シ生肉ニ牽

クシテ托裏散千金内托散ヲ用ヘラズ

潰破テクハ内托トシテ參黃芪白朮

當歸川芎肉桂附子ノ溫補テクシテ

チルニ事アリ四君子六君子補中益氣

十全大補湯分トシテ加味トシテ内托ヲ

分レテ次第ニ腐テ死ニ至ラズ者アリ

能く外律と互に以てあはせて療治
 して一扱又癩疽子五善七惡といふ事
 あり若し善の中子三ツ善事ありら
 せん吉七惡の中四ツ惡事ありら
 命なり○但癩疽の善惡療治の
 品よくありといふを爰に大藥と學
 ばまのうらふ奥にあり○下疳瘡ハ
 消疔敗毒散子加減と○便毒ハ龍胆
 浮腫湯子加減と○楊梅瘡ハ消凡敗
 毒散子加減を針灸と○神仙五宝
 丹又骨らうき子ハ搜風解毒湯子加
 減と○又腫瘡子ハ先荆防敗毒散
 子蒼朮連翹酒子炒黃柏木通子

とと加少腎經の處分れた六味丸
 一と

○疥癬

疥瘡ハ痛さと痒さと二色ありと
 又とをいつれ疥麻和氣飲當散飲
 子加減と針灸と○活血四物湯子加
 減と

○婦人諸病

婦人諸病 經水 產前
 産後 嘔産 帶下 惡阻
 乳病
 婦人の經水と調ゆる瓜蒌とと經水順
 れ諸病生せと若し經水不順分れこ
 ばより諸病かると知る若し若氣乃

若くはよりなり 經水キョウスイのゆるゆるとくか
 らと調気養血湯テウキヤウケツトウを加減カケンして
 若くは經水キョウスイあるいは早く或は遅く又少く
 く又多く来らるゝ經驗調經湯ケンケンテウキョウトウ加
 味カミとそゝ又經水キョウスイ久しく来らるゝ通經テウキョウ
 調氣湯テウキトウ牡丹皮湯フタンヒトウ加味カミと若くは
 少来ショライつゝ通經テウキョウと思オモはるゝ通經湯テウキョウトウ
 かつ手テはく下ゲとふ西物調經湯サイモノテウキョウトウ也
 ○又帶下タイゲも氣血キケツの弱ヨクより成ナリと見
 てもゆるまマ加減カケン八物湯ハツモノトウ加味カミと虚
 寒クワン多タく五積散ゴシヨクサン濕痰シツタン多タく加味カミニ
 陳湯チントウの多タくは加減カケンと其外ソノソノあり
 道遥散テウヤウサンとゆるゝ氣虚キキョも六君子

湯トウ補中益氣湯ホチュウエキトウ加減カケンとの若くは
 二三日も通トウせしめて懐胎ケイタイの病ヤマトを知チり
 子小驗胎散シコケンタイサンと候コトはゆるゝ○こゝそ
 平産ヘイサンとせし思オモはるゝ安胎散アンタイサン産後サンゴ
 とそゝ又母ハハの親オヤ虚キョ弱ヨクありて子コ孫ソとせし
 子コ芽メ吸補中湯キョボチュウトウのそゝ又惡阻アクソムもく不
 食シヤク又マタ食シヤクと吐ヘし調胃湯テウイトウ加減カケンと
 ○惣ソウして産前サンゼンの諸病シヨヘイも紫蘇和氣シソワキ
 飲インありといへ當飲トウイン順血散ジュンケツサン仙金湯センキントウの加
 減カケンの法ホウと考カウて治チはるゝ○産前サンゼンのあや
 まりて倒オボレらるゝひかりて候コトは佛手散ブツシュサンと
 用ヨウ惣ソウして産前サンゼンの療治リョウヂも妊ニ娠ニ禁キン茶チャ忌イ
 の菜サイと懐胎ケイタイの女子コノメ用ヨウひるゝ菜味サイミ

切り夫と能吟味して使へし禁忌なく
より奥までこと〇扱常は惟用ゆる
んや葉あり催生湯催生散勿く或
附子乾姜と用又催生飲子附子乾
姜肉桂冬葵子と用扱難産の煎
湯より大低五積散より牛膝冬葵子と
る用〇若胞衣下よりハ川芎當歸枳
殼沢蘭木通肉桂附子人參と用よ
あるは牛膝冬葵子と用ゆる
〇扱産後の諸病より芎歸調血飲
金湯の加減の法に従うて療治せし
〇扱小産して血よりとる神氣養
血湯より暖痛を補血定痛湯子

加味〇乳をれ物より天花散金銀
花を煎刺當歸尾貝母白芷桐瓜萎
仁車中の節穿山甲土土と用ゆる
酒より煎一少と或は乳核とて
それくを塊を生して痛をのし
あるは潰やれをみ十六味流気飲
よりゆをのちを婦人の諸病をせん
産後あるは産子臨むその治法を
くありと難くあり只其大脈と奉る
の事詳くある事ハちくあり

〇小兒諸病 痘瘡 麻疹
驚風 疳

小兒の初生より取連湯五香湯あり

報痘三日起脹三日貫膿二日収盛
 三日落痂三日さくし事あれども
 此日つらふ拘り難し○初病は熱の
 の見とけくさる時ハ升麻葛根湯加
 味敗毒散を加減して用若氣弱して
 出らうい難ハ人参透肌散と又疮癢
 細小惣身一面子赤く地界と分よ
 大事の症多し神功散を加味を
 又痘出んとする時又とてよ出て熱退
 くと只ひらくと粒のさるゝなり多し消
 毒飲と用若又血氣虚一痘毒内入
 ありハ凡邪多し犯され毒気内入
 て出らうい難し参芪内托散と又

七日の間に平は黒色を要せ
 死回生湯と入る事一思程
 起脹を以し脹を膿ものゝと保元
 湯ありハ参芪内托散又参芪四
 聖散を加減を思して疮癢中を
 成色白けハ虚寒多し温補を
 かん一大酬の人参やうと救うこと心
 得一若まの院ハ収盛痂ちらての後
 余毒ありて熱一腹痛をふハ十
 葉子湯を加減して又疮癢の後余
 毒よりて種々と煩ハ仙方活命湯
 活命解毒湯湯胃散と入てこれ
 加減一用へ

麻疹

麻疹の序病も痘瘡と異なり事々
その内麻疹高赤く中指之て咽の
くわささ證とと瘡治も痘瘡の
病とを別し事あり己より出てくれば
解毒湯浮白消毒飲加味金沸中
散と入て加減し用也麻疹の後の
餘毒を煩ふ茶連玄參湯十仙
湯かくと入る加味して用

○急慢驚風

驚風は急慢の別あり急驚風は
突りて勢はよ々れを及て治しや
と慢驚風は虚をいふる急

西村正壽堂書

驚風はよ々れ共よりて病おとく
て治し難しとん大法急驚風ハ牙を
くいとら口は痰の涎を流し上驚し
身及張て手足搐搦しらと弾熱さ
久し口の急熱く頬赤く唇をわわ
りて脈浮洪数なり其初急は加味
敗毒散なり扱ハ南極毒星湯かう活
湯鎮驚散参末茶湯をと加減
して用也又慢驚風ハ脾胃虚よりかこ
る故に治し難し大位醒脾散釣藤飲
子補脾益真湯加味和中湯烏沈湯か
とを加味し用ふれとと慢驚風を生
るに希なる事あり十人七八人死と

○疳病

ちよと小児の疳病と大人の虚勞と
 一ノ事ありと虞天氏の医学正傳
 見へたり疳病五藏の症あり肝疳
 頭より眼とらひ白睛より物
 りりて身より青筋出一身やせ又血を
 下を肝疳湯は加味と○心疳は面黄
 頬赤く身熱あり安神丸○肺疳は
 咳出て口鼻より痰と生し鼻とらひ
 爪と咬寒熱と○脾疳は身黄と腹
 大子面を黒く鼻の下に瘡と生し土
 と食ことと好と発熱し咽とらひ大便
 ちのやと大蕪荑湯○腎疳は

体至極瘦て身より細なる疳性
 湿り多し地より酢と瓜好心六味地黄
 丸の扱通用消疳湯消疳散也
 其中小便ちり濁らえ消疳湯を扱
 つく消疳散なり疳眼とらひを
 開きたり生熟地黄湯も疳積
 あり消疳退熱湯は加減せよ
 肥兒丸諸疳に兼用ニテも也

○小児の諸病

小児のちりこえり合とありい中
 疳はあり四物湯六味地黄丸を
 一○疳疾は浄府湯消疳湯に加
 減とらひ元氣弱く脾胃つらむを

抑肝扶脾湯は加味を小児の感
冒を熱ありふ懼々散の咳より浮白
散の中と久用○夏蒸と小児の患
やくも也柴胡湯當飯飲より吐浮
を驚風のをよくて調気飲の食
傷は香砂平胃散消食散より又
啓脾丸と兼りちみ○吐逆吐乳より人參
散定吐飲○泄瀉より參苓白朮散益
黄散錢氏白朮散より考へんて
用よ○痢病より清熱化滯湯○夜啼
より六神散○喉痺より魁危湯○停
耳は小兒の積と小兒陽散大湯○滯
順より通心飲より虚寒より温

辟九り○丹毒より麻葛根湯犀
角消毒飲大連鞠湯より久て是
上加減と一のから小児の痘疹麻
疹水痘驚風疳積多の脈あり療
治さるるくありとくをくくくの大
薬と記を○まろ懸病より竜胆湯
○まろ小児の吐泄泄は痢病食傷凡
寒暑湿痰飲咳嗽わくのまろし
ゆかり大人と治法つる事あり
業より文服と小服との違ひあり
り
○方組以呂波寄
以○異功散脾胃と調へ氣と補

多し不食^{多し} 嘔^吐あり 腹滿^腹 泄瀉^瀉
 を治^す 人参^{人參} 白朮^{白朮} 茯苓^{茯苓} 陳皮^{陳皮}
 甘草^{甘草} 二ト 生姜^{生姜} 棗^棗 入て用^用
 ○胃^胃 苓^苓 湯^湯 脾胃^{脾胃} 和^和 せ 腹^腹 の 痛^痛
 水^水 穀^穀 の 化^化 せ 腹^腹 鳴^鳴 て 瀉^瀉
 飲^飲 物^物 食^食 物^物 の 浮^浮 腫^腫 を 治^す
 蒼^蒼 朮^朮 厚^厚 朴^朴 陳^陳 皮^皮 白^白 朮^朮 楮^楮 苓^苓
 沢^沢 瀉^瀉 茯苓^{茯苓} 肉^肉 桂^桂 車^車 州^州 行^行
 生^生 姜^姜 棗^棗 入^入 用^用 ○ 水^水
 の 如^如 浮^浮 腫^腫 滑^滑 石^石 と 同^同 ○ 暴^暴 下^下
 痢^痢 と 病^病 て 赤^赤 白^白 あ^あ り 腹^腹 痛^痛
 裏^裏 急^急 後^後 重^重 々^々 々^々 々^々 肉^肉 桂^桂 と
 却^却 て 木^木 香^香 檳^檳 榔^榔 子^子 黃^黃 連^連

けい^{けい} 〇 浮^浮 腫^腫 子^子 升^升 麻^麻 と 同^同 ○ 濕^濕 浮^浮
 腫^腫 防^防 風^風 升^升 麻^麻 と 同^同 ○ 食^食 の 不^不 化^化
 子^子 神^神 曲^曲 麥^麥 牙^牙 山^山 查^查 子^子 と 同^同 ○ 氣^氣
 虚^虚 子^子 人^人 參^參 白^白 朮^朮 と 同^同
 ○ 胃^胃 風^風 湯^湯 凡^凡 冷^冷 と 同^同 冷^冷 下^下 方^方 凡^凡
 子^子 泄^泄 腹^腹 や 脇^脇 痛^痛 腹^腹 鳴^鳴
 〇 汁^汁 の 如^如 き 水^水 と 浮^浮 腫^腫 〇 瘧^瘧 疾^疾 血^血
 〇 當^當 歸^歸 川^川 芎^芎 白^白 芍^芍 藥^藥 人^人 參^參 白^白 朮^朮
 茯苓^{茯苓} 肉^肉 桂^桂 一^一 服^服 子^子 粟^粟 一^一 斗^斗
 入^入 て 用^用

○身氣散中凡して腰や腿に三折
足の伸屈ありし半身ふくを眼口
ゆるむと治る但中風中気は風薬と
用一効あり者もこれを用てり

白木 烏朮 大麻 人參 沈香

白芷 青皮 紫蘆 木瓜 甘草

生姜末と入せ用○心のいそあ

半夏 茯苓 陳皮 木香 羌活

とらへてちりり

○茵陳山苓散 湿熱少く身黄ん

ゆと治る 茵陳 山梔子 赤茯苓

猪苓 沢瀉 蒼朮 枳實 黃連

厚朴 滑石 灯心一くち

入せ用○寒熱往來して候は
寒けら又熱のさとし柴胡と

らゆ○小候赤らふ黄柏とらゆ

○し痛子菜北服子とらゆ○酒

と飲人ぶらふ瓜蒌仁 葛根 砂

仁とらへて滑石と云

○茵陳大黃湯 黄疸して大便秘

結の者と治る 茵陳 大黃 枳實

山梔子 厚朴 滑石 甘草

灯心一くち入り入せ用

○茵陳五苓散 湿熱少く身くら

悉く黄んを治る 茵陳 三

白木 茯苓 猪苓 沢瀉

藜蘆 山梔子 滑石 下肉桂
車草 灯心 入々用

呂

蘆薈消痔飲 走馬牙疳
牙牀唇唇 腮 牙疳 疔
治を 芦薈 銀柴胡 胡黃連 玄
參 牛蒡子 黃連 桔梗 山梔子
羚羊角 石膏 薄荷 升麻
甘草 三下 淡竹葉 入々用

波

半夏白朮天麻湯 痰氣さつ
のりて頭痛眩暈して頭さうら
る空の中子居り如きと治す

陳皮 半夏 白朮 天麻 麥牙
神曲 黃芪 人參 茯苓 蒼朮
沢瀉 乾姜 黃柏 杏仁 少くも

○八解散脾胃とこのへ凡令と除
食と吐浮と鎮々四時の感
胃頭痛憎寒て外感内傷と
兼る者と治す元來六君子湯子
霍香厚朴とらへる方があてりて
より湿熱あり 人參 白朮 茯苓
霍香 半夏 厚朴 陳皮 甘草
生姜 棗と入てきんじやくと

○八物湯 血氣の兩虚とをさかふ
ものゆへ四君子湯四物湯と合さる

多物氣を補ふは四君子の
血をたふすは四物ありは血
の二つを補ふは八宝ありは必
と用て加減を

人参 白朮 當歸 茯苓 川芎
芍薬 熟地黄 甘草 生姜 大枣
入て煎しす

○八正散 心熱日て大便結し小便
赤く溢りて通し難きを治し
熱淋血淋を治しあるは酒の
色慾を過し小便せんとし
痛をか小便せし跡に痒を治
し又目赤より 大黄 瞿麥

木通 滑石 篇蓄 山梔子

車前子 甘草 灯心と入せん用

○八味順氣散 中凡そ氣虚して
滞り痰をさくら盛るを治す

白朮 茯苓 青皮 白芷 陳皮

烏薬 人参 車前子 生姜と入

と加へ生姜と倍
○敗毒散 凡そ傷ら終て汗を
悪寒発熱あり頭痛あり

身にしる者は是と用て茶散と

人参 獨活 羌活 前胡 柴胡
枳殼 茯苓 川芎 桔梗 甘草

野姜を入せん一々を但人參ハ
 よつこの配劑ハ入りて使可
 くと心の中は熱を蘊て口ウク
 黄芩とらふの咳出て痰あり
 ハ半夏杏仁とらゆの凡眼子荆
 芥防凡當般尾赤芍薬とらふ
 茯苓と去の酒毒よそ發熱咽
 渴葛根黄芩とらふの癘の
 頭痛ありて身痛は蒼朮葛根
 栝椰子とらゆの凡熱濕毒めて
 腰いひ續断天麻薄荷木瓜
 とらゆの凡熱大腸は入て下血を
 るよ新白皮烏梅薄荷と加ゆ

鼻血あくる麥門冬とらゆ
 酒毒ハ黄連とらふの凡熱
 皮膚痒子小蟬退とらふの凡熱
 して身の内赤く腫る子木瓜蒼朮
 とらふの六便結せえ大黃とらゆ
 疫痢發熱口ウク身いひま
 黄連と陳倉米とて米倉子入て
 年経る大粒の米一つまみとて
 七服とこれと倉稟散と名づく
 の噤口痢とて痢病と煩人曾て
 一粒も食もまず適食とれ吐く
 ぬして菜も食も受さる陳倉米
 蓮肉とらゆの痢病の愈てのら

手足のしびれ木瓜椹椰子とくくゆ
 の臂痛て冷手とくくゆ遣くくゆ
 五積散と合方ありて文加散と名
 づく但木瓜牛膝とくくゆのとく
 の瘡毒まで腫痛あるは瘡疽癰
 背乳癰まゝの膿瘡ありて寒熱を
 ありて頭痛傷寒に似たる症
 一は荊芥防風連翹忍冬とくくゆ
 これを煎所敗毒散と多うくくゆ
 の驚風の初発に発熱し上竅して
 手足ひくくゆ又は疱瘡の初病まで
 手足播擲おとよ天麻全蝎白蚕
 蚕地膚皮とくくゆ

○防風通聖散中凡一切の風熱まで
 大便結し便ありくあり或は頭面
 の瘡と生し又は眼目赤くくゆ又あり
 一の厲病ありは狂乱を治まぢや
 と此方凡熱の毒と去の主劑あり
 防風川芎當歸連翹薄荷
 芍薬大黃芒硝麻黄荊芥
 白朮山梔子石膏桔梗黄芩
 滑石

仁

○二陳湯一切の湿痰より発るの諸
 症と治む半夏二陳皮
 茯苓甘草耳草カト生姜と入煎

〇痰より発する頭痛子川芎
 葉本升麻細辛薄荷蔓荊
 〇痰より腰膝腫て
 〇痰より黄栢木通防己牛膝
 木瓜〇痰より腹痛はくへ
 白木神曲枳殼桔梗砂仁麥芽
 〇痰より胸脇のよて声の
 〇痰より青皮山梔子川芎
 白芥子〇痰より大酒をて吐と
 出痰と吐子砂仁烏梅と加
 〇痰の中子血あり黄芩芍薬
 〇痰より食滯をて痰あり
 山查子神曲香附子枳實

黄連〇痰より浮腫
 白朮蒼朮砂仁山茱車前子
 木通厚朴取州〇痰より
 〇人參養胃湯肺癰とて脾
 〇痰より瘰癧と結を辛夏厚朴
 陳皮干霍香草菓人參
 茯苓六ト蒼朮一ト烏梅三ト
 甘草二ト生姜末入て七ト用
 〇面春より當飯川芎あり〇熱
 〇汗あり子蒼朮霍香と去て
 黄芩白朮〇痰より嘔あり
 草菓厚朴蒼朮と去て砂仁

的松ツツジ山菜ヤマナ炒ヒキす米コメ一撮ひとつかと入いれて
 用もち○内うち煎せんさうんさん多おほる半夏はんげとす
 黄芩ワウジンとすゆ○暑あつの時ときは半夏はんげ
 霍香カクキョウと去いり香薷キョウニョ白扁豆はくへんとうと
 入いれゆ○脈う子こ力ちから弱よわく熱あつつと
 入いれ黄芩ワウジン黄連ワウレン柴胡サイコとすゆ
 ○人ひと参さん截せつ瘧さつ飲いん 虚こ人ひとの瘧さつと截せつ
 並ならび一切いっけつの瘧さつと截せつへ
 烏梅ウメ桂枝ケイジ甘草カンサウ人参じんじん白朮はくじく
 茯苓フクカク厚朴コウハク當歸トウキ青皮セイヒ
 黄芩ワウジン知母チモ常山ジョウサン草薢ソウバク
 鼈甲ヘウケツ 此こゝ虫むし胡こ 生薑ショウキョウ末まと入いれ
 せし一夜いちや表あはす出いる夜露よるろと

うけり発はつ日にちの五更ごせい子こ服はくと又またその
 渣ぜと日にち中ちゆうにせん用もち
 ○人ひと参さん養やう榮えい湯たう 気き血けつも虚こ
 しく顔かほ色いろあけ物もの忘わすれ自汗じかん盜たう
 汗あせありて咳せきあり発熱はつねつして寐ねこ
 とを好このみ自痰じたんと吐く口中くちゆうくらくと
 して治ちやうを是こゝ十全じゅうぜん大補湯たいほたうの川芎せんきゆう
 と去いり陳皮ちんぴ遠志えんし五味子ごみしとすゆ
 その外ほかに人参じんじん 黄芩ワウジン 白朮はくじく
 茯苓フクカク 白芍薬はくしやくやく 當歸トウキ 陳皮ちんぴ
 遠志えんし 五味子ごみし 桂心けいしん 熟地黄じやくじちやう
 取とり草くさ 生薑ショウキョウ 末まと入いれん用もち
 ○骨蒸こつせう 骨蒸こつせうの熱あつは内桂うちけいとす

地骨皮 秦艽 鼈甲 芍薬 阿膠 茯苓 薏苡仁 砂仁 胡椒 丁香 木香 香附子 橘梗 荊芥 山豆根 二木湯 上部の湿痰経絡 白朮 天南星 茯苓 陳皮 香附子 酒製黄芩 葶藶散 羌活 半夏 蒼朮 甘草

生薑と入せん 人参透肌散 氣弱して 瘰癧 瘡出ると 難く皮層の間にあり 隠ると 治す 人参 白朮 茯苓 當歸 芍薬 木通 蟬退 糯米 甘草 凡一服を但し 米と去て 紅花とす 小兒脾胃虚して 吐乳し 食と久し者 治す 人参 白朮 半夏 乾姜 桑白皮 陳皮 甘草 〇人参白虎湯 傷寒又 消渴

かつりきそののがかり傷寒の汗
 出して後子熱邪胃子入て咽を
 渴し身熱しあひい汗ありて熱
 解とあひい赤子斑ふと出るを
 治し又消滑して舌あは裂咽
 大子あはくと治し石膏 知母
 人參 糯米 甘草 せん一用〇
 一方子五味子 山梔子 麥門冬
 あり〇浮せん蒼朮とせんて佳
 〇人參 白虎湯 暑気あはり
 頰を治し夏の暑子中子
 舌燥し舌白子粟粒の如く
 あはるその出るを治し

人參 白朮 茯苓 陳皮 石膏
 知母 山梔子 白朮豆 芍薬
 香薷 麥門冬 蓮肉 烏梅
 甘草 せん一服〇小便遺尿
 黄柏とせんゆの胸の煩あはるは
 辰砂 酸枣仁とせんゆの腹痛吐
 あり海石とせん石膏とせん
 〇人參 道遥散 傷寒い後
 早く房事とせん復しを治
 し 人參 白朮 白芍薬 當歸
 柴胡 茯苓 せん一用〇心煩に
 麥門冬 五味子とせん〇命門の相
 火元より精を下は泄え 知母

黄栢牡蛎とらふ○ひつつらふ
黄連とらふ枳实とらふ○ひつ麻とらふ
竹茹とらふ○ひつ

○二香散とらふ外とらふ風寒暑湿とらふ子犯
子内とらふ、生とらふる物とらふや生とらふる志とらふるを
冷とらふる者とらふを小傷とらふらさぬに治とらふ

香需とらふ白扁豆とらふ黄連とらふ藿香とらふ
大腹皮とらふ半夏とらふ陈皮とらふ桔梗とらふ
紫菀とらふ茯苓とらふ蒼朮とらふ白芷とらふ
耳草とらふ生薑とらふ枣とらふ入とらふん一用

保

○牡丹皮湯とらふ室女とらふかと經水とらふ通とらふせ
と咳とらふ出て発熱とらふとと治とらふ

當歸とらふ白芍藥とらふ川芎とらふ生地黃とらふ

牡丹皮とらふ白朮とらふ香附子とらふ柴胡とらふ

黄芩とらふ耳草とらふ入とらふん一用

○補陰湯とらふ胃虚とらふと腰とらふ痛とらふと治とらふ

と人参とらふ白芍藥とらふ生地黃とらふ

熟地黄とらふ陳皮とらふ茴香とらふ破胡紙とらふ

牛膝とらふ當歸とらふ茯苓とらふ杜仲とらふ知母とらふ

黄栢とらふ耳草とらふ入とらふん一用

○痛殊外とらふつらふ芍藥とらふ生地黃とらふ

陳皮とらふと去とらふて乳香とらふ砂仁とらふ沈香とらふ

とらふゆとらふ○芍藥とらふ入とらふん一用

かまとらふして蜜とらふ丸とらふと守とらふ

○補氣養血湯とらふ婦人小産とらふと

氣虚血乏りるを治
人参 黄芪 白朮 當歸 川芎
白芍薬 艾葉 阿膠 青皮
香附子 砂仁 炙甘草
せんしん

○補血定痛湯 小産の瘀血
して心腹の疼痛を治す
當歸 芍薬 熟地黄 川芎
玄胡索 紅花 桃仁 香附子
青皮 沢蘭 牡丹皮 せんして
服せんとしんは痛めて重便と
酒とらう之を湿めて用
○保元湯 痲瘡の治す水り

さるを治す 黄芪 三々 人参 二々
取草 一々 生姜 一入煎用 ○起脹
時分は水を煮て小穿山甲と炒
てさるの血の不足は水りて
見へて丁香肉桂 當歸 川芎と加
○頭の分は水を煮て小川芎 ○心
の分は水りて小桔梗 ○腰膝乃
分は水りて小牛膝 ○西の手は
水りて小桂枝とらして
○補脾益真湯 小兒實つて虚
して乳とありて大便青く慢驚風
とありて直視手足冷と治す ○
まのい変蒸しありて客忤と治す

木香 當歸 黃芪 人參 丁香
 訶子 陳皮 厚朴 肉豆蔻
 草葉 茯苓 白朮 肉桂 半夏
 附子 金蝎 耳草 生姜 入
 丸一服之○渴之附子肉豆蔻
 丁子と去て人參白朮と倍と一
 ○腹瀉せし丁子訶子と倍と○腹の
 痛し厚朴 前胡 枳殼とくゆ
 ○暖し附子肉桂 草葉 肉豆蔻
 と去て前胡 五味子とくゆ○足
 ひやらし厚朴 附子 丁子と倍と
 ○補腎明目丸 とくゆの内障
 せし雀目と治と

川芎 當歸 熟地黄 耳菊花
 山茱 知母 石菖蒲 黃蘗
 青瑤 遠志 白茯苓 巴戟天
 五味子 芍藥 桑螵蛸 菴藟子
 兔絲子 青箱子 密蒙花
 枸杞子 肉蓯蓉 石交明
 細末一練蜜と丸一●是れと
 ありて塩湯と服と
 ○補榮湯 とくゆれ血症とく
 血と静と血とくゆ後とれと用
 て内と調ゆ一 當歸 白芍藥
 熟地黄 陳皮 生地黃 人參
 麥門冬 茯苓 山梔子 烏梅

取草 加のちを煎し服す

○補中益氣湯 脾胃とを養ひ肺と氣と益おとす一切の元氣不足

の諸症に加減して用

黄芩 一人参 白朮 當歸

陳皮 升麻 升麻 升麻 升麻

生姜 炙甘草 人参 用〇虚寒に

附子 乾姜 芍薬 官桂

〇加減の法は其症に従てしるべき

邊

〇平胃散 脾胃のそとを平

〇寒湿と去 蒼朮 厚朴 陳皮

甘草 生姜 炙甘草 人参

〇食滯の泄瀉腹痛は茯苓

木香 芍薬 神曲

瘧疾 柴胡 芍薬 〇冷湿は肉桂

〇小便の猪苓 茯苓 澤瀉

〇加〇湿痰は半夏 茯苓 加

〇雨湿の身 猪苓 澤瀉

羌活 独活 〇不食は砂仁 霍

香 〇香

〇驚甲飲 傷寒と不壞症

〇驚甲 犀角 前胡

生地黃 黄芩 枳殼 烏梅

足一用

散

○獨活寄生湯 腎氣虚し冷
 濕し犯し腰背拘急筋ひき骨
 痛あり風中冷ゆきて足膝
 冷て痺あり痿あり痛こ又ハ
 引了足重くして歩行難きもの
 症と治し又白虎歴節風あり
 痛風と治し 獨活 桑寄生
 杜仲 秦艽 細辛 桂心 川芎
 白芍薬 茯苓 人参 當歸
 防風 熟地黄 甘草 生姜三片
 せん一用

○獨活散 風毒あり程々々々
 齒々腫了むと治し

獨活 羌活 川芎 防風 荆芥
 細辛 薄荷 生地黄
 せん一用 先口中含てのら服す

知

○鎮驚散 手足の手足い
 くう痰咳あり喘ありて熱しを
 治し 天南星 防風 蟾蜍
 薄荷 甘草 生姜 桑葉と入煎
 用。此方ハ急驚風の主劑
 なり初発の時先敗毒散と用
 て此方ハ天麻 白強蚕 地骨皮

とらへ用て奇効あり
○猪苓湯 熱めりて小便す

せりて治す 猪苓 澤瀉
滑石 枳殼 木通 黄芩 牛膝

車前子 瞿麥 篇蓄 莖葉麥門
耳草 燈心と入せん用

○洗香降気湯 陰陽よくゆる
少下気升降せし胸膈心腹の

脹痛と治す
香附子 沈香 砂仁 耳草

せんしやと
○定痛散 虫牙のつと治す
當歸 細辛 生地黃 乾姜 白芷

連翹 黃連 山椒 苦參 桔梗
烏梅 せんしや口中よくと後

服す
○定吐散 小兒乳とあまし食と吐

て諸業とくしやと治す
半夏 乾姜 肉桂 せんしや用

利

○理中湯 寒気よむとれ口と
噤手足強と直し厥冷と温と

治す是と中寒の症と入此方虚
寒とあしむの劑あり

人参 白朮 乾姜 甘草
生姜 枣と入せんしやの寒瀉

子肉桂 陳皮 藿香 茯苓 良姜
烏梅 燈心 中 芍藥 〇寒 〇寒

〇中湯と号
〇竜胆浮肝湯 肝経の湿熱

〇便毒を生しりし下疳と
病もの治と

龍膽草 車前子 生地黄
木通 當歸尾 山梔子 黄芩

沢浮 耳草 〇六君子湯 脾胃虚して湿痰

〇六君子湯 脾胃虚して湿痰
〇若と治す此茶ハも脾胃

胃の元氣と補人の劑なり

人参 白朮 茯苓 陳皮 半夏
耳草 生姜 〇六君子湯 諸の毒と治むの惣

〇脾胃の虚又ハ〇虚をの諸症
その病子從ひて加減と

〇六君子湯 諸の毒と治むの惣
司とて毒症と云見しハ此方

山梔子 香附子 縮砂仁 川芎
赤茯苓 蒼朮 半夏 陳皮

耳艸 生姜と入せん用〇回春
子貝母 紫菀 枳殼 連翹

神曲あり

〇理中安蛇湯 傷寒子蛇と吐症

有り胃気虚寒一手足冷る者
 有虫蛔の如く一塊と
 数條も出て苦黄火と雜て
 吐是病入好て生冷と食ふ者也
 食一畢て其虫と爲る多り早
 く治せよ心と貫て人と殺す
 人参 白朮 茯苓 烏梅 干姜
 せんーりらゆ

○竜胆湯 耳の病と司と苦
 多り怒て肝火と動一石の耳と
 く多りと治と
 黄連 黄芩 山梔子 當歸
 陳皮 天南星 竜胆草

香附子 玄参 靑黛 木香
 乾姜 せんー服と

○竜胆湯 妊婦の乳と飲て煩
 と魅病といふ俗子是とらとつり
 と名つ此方より

川原紫胡 竜胆草 黄芩
 鈎藤鈎皮 白芍薬 茯苓
 大黄 蟋蟀 耳草 せんー用て
 大便くるとととと

○京膈散 傷寒の表熱いす解と
 して半裏半表より此故と夜と
 寐とをと煩渴と口舌と瘡と生
 譫言とい大便結一黒言班一出

るを治す

連翹 山梔子 大黃 薄荷 黃芩

芒硝 甘草 杏仁 用〇口舌又

咽喉のやまの桔梗 荊芥と加少

〇六神散 小兒夜啼しして面靨

く口の息冷腹泄して乳とのまじり

と治す 人参 山茱 白朮 茯苓

白扁豆 耳草 生姜 枣と入煎

しをりぬ

〇麗沢通気散 肺經の凡熱子

よりて鼻よ物の毛と臭うを治

黃芪 羌活 獨活 防風 升麻

葛根 川椒 麻黃 白芷 甘草

生薬をらちと入せん

和

〇黃連竹茹湯 胃熱を吐す

心煩 口渴 舌赤と

黃連 山梔子 竹茹 人参 白朮

茯苓 陳皮 白芍薬 麥門冬

甘草 炒米一撮 烏梅と入用

〇桑葉と紫胡とくみ

〇黃芪益気湯 気虚く右の

頭いふ

黃芪 人参 白朮 當歸 陳皮

升麻 半夏 川芎 藜蘆 細辛

黃柏 生姜 枣と入せん

○黄芩 鳖甲湯 虚勞 子 心 悸 一 盗汗 出 食 少 咳 嗽 痰 血 出 寒 熱 往 來 治 之 治 瘧 疾 治 之

柴胡 天門冬 肉桂 人参 桔梗 紫苑 生地黄 生姜 大枣 入

○黄芩湯 消渴 少 水 飲 之 多 食 少 飲 之 治 之 黄芩 山梔子 桔梗 麥門冬

當歸 生地黄 葛根 人参 天花粉 白芍藥 烏梅 芍藥 用

○黄連 地黄湯 消渴 加 味 用 茯苓

黄芩 生地黄 天花粉 五味子 當歸 麥門冬 人参 葛根 車中 生姜 大枣 淡竹葉 入 之

○黄連解毒湯 一切 病 三 焦 熱 毒 治 之 滑 石 石膏 芍藥 用

○黄連解毒湯 一切 病 三 焦 熱 毒 治 之

黄連 黄芩 黄柏 山梔子 芍药

○口中子瘡出る不連翹 芍药 柴胡 芍药 〇狂乱 芍药

半夏 竹瀝 淡竹葉 生姜汁 芍药 〇婦人血熱して經水不行

身熱咽干 芍药 〇熱地黄 芍药 當歸 芍药 芍药

加 香薷飲 暑気の中 咽渴 口燥 芍药 吐き 浮腫

と治を 香薷 厚朴 白扁豆 黄連 但黄連ハ姜製と用て煎 服と〇凡と煎て手足をくち

くは姜活とらふ 暑気 〇水 〇水 〇水 〇水 〇水 〇水 〇水 〇水 〇水 〇水

脈虚 咽渴 自汗 人参 白朮 茯苓 陳皮 烏梅 白芍药 甘草 炒米 燈心草

〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散

食傷 凡寒 湿と兼て腹脹 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散

〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散

〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散

〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散 〇行氣 香薷散

者と治と 白豆蔻 砂仁
 葛花 木香 青皮 茯苓 陳皮
 猪苓 人参 白朮 神曲 沃浮
 乾姜 せん一服と

○香砂六君子湯 脾胃と補ひ
 食と消し痞と去りけ食と健
 ひこれ功能あり

人参 白朮 茯苓 陳皮 半夏
 砂仁 霍香 香附子 生姜 炙
 と入ん一用○茴香 木香 益智
 厚朴 白豆蔻 白

○香砂平胃散 食と過し煩
 とのと治と 砂仁 枳殼 木香

枳實 霍香 香附子 陳皮 蒼朮
 生姜と入煎し之を○肉食子傷
 らしと山査子 草菓と之入
 尋常の五穀と飽食し傷らる
 る小神曲 麥牙○生多物も冷
 するものもこれ方の菓子傷ら
 りしと乾姜 青皮○酒中らる
 るも黄連 葛根 烏梅○吐瀉も
 り茯苓 白朮 半夏と之入て枳
 実と之入

○加味四物湯 血虚し火熱のり
 て頭痛と之を治と
 當歸 川芎 黄柏 知母 甘黄苓

黄連 生地黃 蔓荊子 山梔子
とせんし用

○加味益氣湯 氣虛の麻痺

と治と 黄芩 人参 白朮 當歸

陳皮 柴胡 升麻 木香 香附子

青皮 川芎 桂枝 甘草 煎用

○加味解脾湯 心脾の氣虚て

寐つらきを治と

人参 白朮 茯苓 黄芩 當歸

遠志 木香 酸棗仁 柴胡 甘草

せんし用

○加味逍遙散 虚勞勞熱と

治し潮汗ありて咳嗽とを治

白朮 白茯苓 當歸 芍薬

柴胡 山梔子 牡丹皮 甘草

せんし服を○婦人の狂乱と

生地黃 蘇木 紅花 桃仁と加

へりらゆ

○加味二陳湯 一切の癰癤と治と

瓜蒌仁 桔梗 山梔子 半夏

黄芩 木香 辰砂 陳皮 天南星

白茯苓 甘草と入せんし服と

る時竹瀝姜汁とくして用

○加減八物湯 氣血不足るとりて

當歸 川芎 人参 白朮 白芍薬

生地黃 白芍薬

香附子 山茱 杜仲 烏梅 甘草

せん一用〇肥す人六半百夏〇瘦

す人子黄栢〇腹痛子玄胡索

とつとゆ

〇行湿補氣養血湯 氣血共

子虚しく腫脹と治と

人参 白朮 白茯苓 當歸

白芍薬 川芎 木通 陳皮

厚朴 大腹皮 蘿蔔子 木香

海金沙 蕪梗 せん一用と

〇加味温胆湯 病後ひひつれて

癖らうと又心胆虚しく物まか

とらうとやとつと治と

酸棗仁 遠志 五味子 熟地黄

白茯苓 人参 陳皮 半夏

枳実 淡竹茹 取草

生姜 枣 せん一用

〇取菊花湯 内障外障一切

の眼病と治と 菊花 升麻

旋覆花 川芎 大黄 石交明

石膏 羌活 地骨皮 木賊

黄芩 青箱子 防凡 荆芥

草交明 黄連 山梔子 取草

せん一用と

〇加味敗毒散 痘瘡の初病わと

かりの時と用 独活 羌活 煎胡

柴胡 枳殼 川芎 桔梗 荊芥
 薄荷 天麻 地骨皮 杏仁 用○
 小兒の急驚風子用るハ本方の
 敗毒散子地骨皮 全蝎 白姜蚕
 白附子 天麻と云々也

○加味和中湯 一切の慢驚風と治
 人参 白朮 茯苓 陳皮 半夏

全蝎 細辛 薄荷 甘草 入んを
 ○加味金沸草散 麻疹の初病子

かゝり痛痒て重きと治と
 荊芥 赤芍薬 半夏 麻黄前胡
 旋覆花 牛蒡子 浮萍 薄荷
 甘草 生姜 入ん一と云

○加減潤燥湯 中風を治すの薬
 身ふたて手足痲痺を治すの薬

一貫煎 一服喘急 目眩 筋骨
 痛 頭痛 心驚 治と是

血虚瘀血 痰火の盛る也
 白朮 茯苓 半夏 川芎 天麻
 天南星 桃仁 羌活 防风 薄荷

紅花 當歸 白芍薬 黄柏
 陳皮 酸棗仁 牛膝 黄芩
 生地黄 熟地黄 甘草 入んを

服し時作 瀝 姜汁を入んを
 ○手ふたての黄芩 薄荷を大
 二つひ足んを 牛膝 黄柏を

大まづついで

○加減除濕湯 中風を右の半
身うかると手足痺て筋骨に
ひと治を是と云ふ無湿痰あり

白芷 茯苓 當歸 赤芍薬

陳皮 半夏 杜若木 烏薬 枳殼

黄連 黄芩 羌活 人参 川芎

桔梗 防風 白朮 甘草 生姜

と入る用○足びひ牛膝防己

威灵仙と云ふ。身痛を姜黄を

と云ふ

○香薷散 感冒して頭がらみ

発熱し悪寒ありと治すこれ凡の

寒を去て気をうづる也

香附子 紫蘇 陳皮 耳中 生姜

芍薬 芍薬 芍薬 芍薬 芍薬

芷と云ふて芍薬香薷散と名

けく○寒熱往來は柴胡黄芩

○痰咳は桔梗五味子半夏○心

いひ延胡索烏薬茴香○寒

湿は不換金正気散と合方

とて用○寒邪あり身はひ

立積散と合方して用○凡濕乃

脚氣は木瓜栝櫚と云ふて積痛

散と名つ○小兒の寒邪と合良

瀝と兼て驚風と云ふは青皮

葛根とくして香葛湯とくはく
瘟瘧とく天行その瘧も又是
とくはく

○加味異功散 傷寒とて後子食
とくはく後とくはくを食後
の症

人参 白朮 茯苓 陳皮 紫胡
神曲 山梔子 枳殼 車中 内熱
作く 黄芩 肉食の食滞

山査子 五穀の食滞 麥牙と加
少一
○加味理中湯 乾霍乱とて心腹
とくはく脹絞痛と吐も浮もを脈

沈して絶えんとくはくを治す
藿香 厚朴 蒼朮 砂仁 木香
香附子 枳壳 陳皮 乾姜 肉桂
取草 入る用

○香砂養胃湯 脾胃そのゆる
と痛て不食とくを治す
人参 白朮 茯苓 陳皮 砂仁
香附子 木香 蒼朮 厚朴

白豆蔻 車中 生薑 芍薬
入て煎用 ○胃寒と乾姜 肉桂
○食滞と神曲 麥牙 泄瀉

下姜 烏梅とくはく
○加味涼膈散 三焦の火熱と

指

吃舌上瘡と生じると治す

連翹 黄芩 山梔子 黄连 桔梗

薄荷 當歸 芍薬 枳殼 生地

黄取用 せん一用

○紅花散 瘡瘡の目を入と治す

紅花 連翹 當歸 生地 黄 紫州

大黄 赤芍薬 耳草 作葉

灯心と入るへうと

○耳連湯 黄連 一 耳草 芥

と煎して小児くうて生じると

時その中用玉の諸の胎毒と除

こ瘡瘡をれそを軽く少くする

箱よつみちりのワとむり

○肝毒湯 肝藏より発する

瘡の症より頭より身と白

睛より白膜よりめくらと青筋 額より出

て瘦ると治す

地黄 神曲 地骨皮 川芎 枳壳

白茯苓 黄連 柴胡 七個用

○解毒和中湯 胸膈に久満て内

熱より瘡瘡よりく瘡瘡よりく瘡

赤茯苓 香附子 枳殼 山梔子

半夏 前胡 神曲 厚朴 黄連

紫菀子 陳皮 青皮 耳草

しつと入るへうと服す

○開結舒經湯 婦人氣不
已 手足麻痺と治す

紫菀 陳皮 香附子 烏朮

川芎 蒼朮 羌活 天南星

半夏 當歸 桂枝 車前

生姜と入る一服せんとす時子臨
て竹瀝 姜汁と入用

與

○抑氣內消散 多くの瘰癧

一切の瘰癧と治す 當歸 川芎

白芍薬 白朮 青皮 陳皮 半夏

桔梗 羌活 白芷 厚朴 獨活

防風 黃芩 烏朮 香附子

換換子 紫菀 葉 沈香 木香

人參 車前 せんしん 此薬

つまを心長く用ひて十餘劑と

服せしつゝと治す

○抑肝扶脾湯 小兒癆塊切し

消せしと元氣衰へ脾胃よく 肚脹

少くも青筋出奔熱とると治す

黃連 白朮 茯苓 竜膽 陳皮

白芥子 山査子 青皮 神曲 人參

胡黃連 柴胡 甘草 生姜 棗

と入煎一服と

太

○大承氣湯 傷寒裏熱とす

指

謔言一咽湯のど舌の々々此睡の々々
 已熱の干腹滿大便結して通せと
 脈沈實やう小用 大黃 厚朴
 枳實 芒硝 此茶せん一やう先枳實
 厚朴とせん一やう查と去し又大黃と入
 煎一查と去し芒硝と入煎と事
 一沸二沸う煮いめて服と大便
 通せ茶と止む

○桃仁承氣湯 傷寒と瘀血と
 小腹痛て大便通せと小便自利
 狂言し口を々々身黃とあるひ
 〇〇と其人狂乱の如きを治す
 大黃 桃仁 肉桂 取し

と入せん一用

○大連朝湯 小兒の丹毒と治す
 連朝 瞿麥 滑石 車前子 木通
 赤芍薬 牛房子 山梔子 當飯
 防風 黄芩 柴胡 荆芥 蟬退
 石膏 灯心 耳艸せん一用
 ○大秦芫湯 中風とて手足うが
 舌強と物のひきと治す
 秦芫 石膏 當飯 羌活 黄芩
 生地黃 熟地黄 川芎 白朮 白芷
 茯苓 独活 細辛 耳中し一用
 入せん一用

○當飯活血湯 瘀血とを腰痛と

昼ハクらく夜ハくを治す

紅花 香附子 枳殼 干姜 甘草

當歸 芍藥 川芎 桃仁 木香

沈香 茴香 乳香 牛膝 一合

入ん一服を○大便結一瘀血つこ

ひ○大黃と一合

○大補湯 氣血とも虚損の諸症

と治す 即十全大補湯あり之の

部子見一合

○當歸補血湯 風と血虚とを

かいら痛て尻は偏るのを治す

當歸 芍藥 川芎 生地黃

黃芩 香附子 防風 蔓荊子

柴胡 荆芥 薄荷 羌活 独活

○當歸拈痛湯 濕熱の脚氣

と治す 此症足腫しむろひ潰

て膿とかり又ハ身より痛之肩脊

おとると治す 羌活 獨活 當歸

知母 白朮 沢瀉 人參 苦參

升麻 葛根 防風 蒼朮 黃芩

茵陳 車前草 一服

○當歸養血湯 新しき老し

人の膈と病ハ血枯て痰火と氣と

二つかり升心とわけて降さる故

熟地黄 白芍藥 當歸

川芎 茯苓 貝母 瓜蒌仁 枳實

陳皮 厚朴 香附子 紫蘇子
沈香 蒲連 一々の棗と入て

せん一服とる子臨て竹瀝とる用

○當般六黃湯 盜汗と治るもの

主劑 當般 黃芪 黃柏

黃芩 黃連 生地黃 熟地黃

せん一用

○當歸連翹湯 痔漏と治る

當歸 連翹 防風 黃芩 荊芥

白芷 芍薬 生地黃 山梔子

白朮 人參 阿膠 地榆 甘草

烏梅 芍薬 入せん一服と

○田日熱よりく才痛口とせりゆ

風牙子入て痛つくるあは口の

臭子 川芎 羌活 枳殼 細辛と

之と 阿膠 地榆 人參 白朮

芍薬 烏梅と云

○當歸飲 疥癩の王方勿血

熱よりく疥と生しりくは痒く

あは痛又膿て發熱とる治

と 當歸 芍薬 川芎 生地黃

黃芪 防風 荊芥 白茯苓

何首烏 甘草 せん一やと

○當般飲 小兒の夏蒸し寒

熱とるを治る 當般 木香

肉桂 人參 甘草 芍薬

八七〇

○大蕪荑湯 小兒の疳積を治す

発熱、咽痛、大便そのものを治す

髪抜け、面色黒く、鼻の下に瘡

と生じ、土とろくを治す 黄柏

蕪荑、山梔子、黄連、防風

麻黄、羌活、柴胡、白朮、茯苓

當歸、甘草、芍薬、大枣

○導痰湯 中風痰さるる

て物より事ふくみ、舌と嚙まらる

と治す 半夏、天南星、枳実

茯苓、陳皮、甘草、芍薬、大枣

○此方、黄連、瓜蒌仁、桔梗

黄芩、人参、白朮、竹瀝、姜汁

とろく、清熱導痰湯と名付

て、熱ある者、用。清熱導痰湯

に當歸、木香とろく、て加減導

痰湯と名付

○退赤散 目瘡と治す

黄芩、黄連、白朮、當歸

赤芍薬、山梔子、桑白皮、木通

桔梗、連翹、芍薬、甘草

○托裏散 瘰癧とろく、気血の

虚より、生肉の起るを治す

人参、白朮、黄芪、當歸、熟地黄

茯苓、芍薬、甘草、芍薬、大枣

青箱

○當歸 順血散 產前後的諸症
 加減して用人参 沈香 二下
 當歸 芍薬 一 川芎 芍 白木
 下耳中 丑厘 一 下 入 七 用
 ○死胎よ 牡丹皮 ○産前よ 小兒
 通せ 生 濁猪苓 ○産前よ 血
 のり 生 濁猪苓 ○産前よ 血
 倍て 川芎 芍薬 と 減 ○産前よ
 咽より 血 濁猪苓 加減 上 とい
 ○産前よ の 嘔 子 香附子 ○産前よ
 吐 逆 子 當歸 沈香 と 倍 香
 香 と 濁猪苓 ○人 兒 子 身 沈香
 當歸 沈香 と まりて 牡丹皮 と 加

小 産 月 二 三 月 度 々 氣 二 三
 ○當歸 白朮 湯 傷寒 嘔 吐 本
 後 せ ころ 不 肩 刺 と 犯 して 小便
 痛 あり 腰 股 二 三 寸 手 足 二 三
 ら 二 三 寸 熱 あり 二 三 寸 治 二 三
 當歸 芍薬 附子 人参 白朮
 黄芩 桂枝 芍药 一 下 入 用
 ○達生散 産前 八月 九月 の
 問 二 三 寸 服 して 難産 の 二 三 寸 へ
 か 一 大 腹 皮 人 参 陳 皮 紫 菀
 當歸 芍薬 白朮 芍药 生 姜
 と 入 七 用 ○四 季 二 三 寸 加 減

あり春ハ少許防凡 夏ハ黄芩
黄連 五味子 秋ハ沢瀉 冬ハ
砂仁とくゆ。不食ハ砂仁 神曲
○多怒て咽うらと 麥門冬 黄
芩とくゆ

○大柴胡湯 傷寒、表いま解
せと裏まう急あり者ハこれ
用て下と下

柴胡 黄芩 半夏 芍薬 大黃
枳実 芍薬 一用ハ身痛ハこれ
と用へくと表いま解せと知
る

禮

梨仙除痛湯 冬く節
ひと治と 麻黄 赤芍 茺朮 防凡
荊芥 羌活 独活 白芷 蒼朮
葳靈仙 黄芩 枳实 桔梗 葛根
川芎 升麻 甘草 芍薬 一用○下
部ハ酒にて炒黄柏○婦人ハ
紅花○腫つとと 栝椰子 沢瀉
大腹皮 没薬とくゆ

曾

○倉廩散 疫痢 疔て血と滑
と雜とくゆ 發熱ハ口くく
身ハ心と治と
人參 独活 羌活 前胡 柴胡

音

百

枳殼 茯苓 川芎 桔梗 黃連

陳倉米 せりふ ちりちり入て煎用

○紫口痢は人参 蓮肉と之を

○疎經活血湯 痛風昼は軽く

夜はちきり龍の足より痛つて

こと治を 血虚子屬と

生地黃 蒼朮 牛膝 陳皮 桃仁

蘇君仙 川芎 漢防己 羌活

防風 竜胆 白芷 茯苓 當歸

白芍薬 甘草 一くく入て

そらゆ

○燕子降気湯 虚陽のりり攻

痰喘咳嗽し面あつく足ひゆると

紫菀子 半夏 肉桂 陳皮 當歸

前胡 厚朴 耳草 生姜 棗と入

せん服と○川芎 細辛 黄芩

桔梗とくくして大降気湯とす

津

○通心飲 小兒常は涎と流とを

治を是と滞願の症とがく猶

まゝ夜啼と治と木通 連翹

瞿麥 山梔子 黄芩 耳草

せんしよくと

○通関散 中風痰気せりつめて

夢中のこのと治と皂角子 一斗

生半夏 藜芦 五斗 細辛 苦参

三上細末にて鼻の中へ入嚏と
まねて治嚏と嚏せよ嚏と治嚏と

○通竅湯 凡寒嚏にて鼻嚏と嚏
声嚏濁嚏清嚏涕嚏と治嚏と

所凡嚏羌活嚏藁本嚏升麻嚏葛根嚏
川芎嚏蒼朮嚏白芷嚏麻黄嚏川椒嚏

細辛嚏草草嚏一々嚏入嚏一用嚏
○麻熱嚏わ嚏く嚏黄芩嚏

○通明利气湯 虚火嚏より嚏て
痰上嚏と塞嚏と耳鳴嚏と聞嚏へ嚏と

治嚏と蒼朮嚏白朮嚏香附子嚏黄芩嚏
生地黄嚏檳榔子嚏黄栢嚏山梔子嚏

玄参嚏木香嚏川芎嚏貝母嚏陳皮嚏

車草嚏生姜嚏と入嚏一竹瀝嚏と嚏

て服嚏と
○通氣防風湯 肩背嚏と嚏と

治嚏と藁本嚏川芎嚏防風嚏羌活嚏
獨活嚏蔓荊子嚏甘草嚏一用嚏

○通經湯 女人嚏經水嚏通嚏と嚏と治嚏
と是攻補嚏の二嚏と兼嚏と嚏劑嚏なり

常飯嚏川芎嚏芍薬嚏生地黄嚏大黄嚏
肉桂嚏厚朴嚏枳殼嚏枳實嚏黄芩嚏

蘇木嚏红花嚏烏梅嚏生姜嚏と嚏と
入嚏一嚏と嚏と嚏

大系

○内障湯 眼病嚏一切の内障嚏と治嚏

と遠志 独活 細辛 五味子

當歸 桂心 赤芍 羌活 五加皮 柴胡

熟地黄 黄柏 香附子 地骨 黄芩

甘草 人参 一服

○南極壽星湯 小兒の急驚凡

の諸症と治と 天南星 防風

蟾退 薄荷 白附子 耳中

とん 一用

字

○温脾丸 小兒の脾胃虚冷

て涎ととふと治と

半夏 白朮 ナツク 木香 白姜 蚕

陳皮 青皮 五苓 丁香 二々 細末

とて糊子 生姜の汁と押ませ丸

白湯 みて用

○烏朮順氣散 中凡骨節痛麻

手足痠て物りひ蹇物等と治

と此方とるる 氣道と順とるの

劑あり 烏朮 陳皮 乾姜 麻黄

白姜 蚕 川芎 白芷 枳殼 桔梗

甘草 生姜 棗入せん 一とる

身より麻痺と當歸 人参 白朮

麥明冬 〇汗白く 黄芩とる

麻黄と去 〇手足冷る 附子 肉桂

〇凡痰さるる 半夏 天南星

〇辟邪の 羌活 防風 桂枝

蒼朮 紫菀 橘 芍藥 芍藥

○烏苓通氣散 一切の疝氣と

治と 烏藥 香附子 山查子

當歸 白芍藥 陳皮 白茯苓

白木 枳榔子 玄胡索 沢瀉

木香 甘草 生姜 入ん一少と

○惡寒 一々 脈沈細 勿く 吳茱萸

○溫中湯 虚寒の腹痛と治と

良姜 益智 砂仁 木香 香附子

厚朴 陳皮 茴香 當歸 玄胡索

甘草 一々 入ん一服と

○温膽湯 痰火の物と治と

痰火と去氣虚と補とあり當歸

人參 白木 白茯苓 生地黃

酸棗仁 麥門冬 半夏 枳實

黃連 竹茹 山梔子 烏梅 甘草

一々 入ん一服と

一辰磁と少入り 立て服と

久

○九味清脾湯 瘡の惡寒と

熱と口苦く咽つと大便結

小便あり 澁つと脈弦数ありと

治と 青皮 厚朴 白木 黃芩

半夏 柴胡 茯苓 草菓 甘草

しやうじをいせんし用の久しき瘰癧の
常山〇体うらさよ人参〇汗の
麻黄〇汗の肉桂〇咽の
よ半夏と去て人参 天花粉
麥門冬とらじや

〇活命解毒湯 疱瘡の餘毒を
諸症を變へ煩いものと治す

防風 荆芥 生地黃 赤芍薬

當歸 連翹 牛房子 黃連

紫艸 蒼朮 薄荷 川芎

木通 甘草 せんしやく

〇活血四物湯 ところけ疥癩
久しき愈えんと治す

常服 川芎 芍薬 生地黃 桃仁

蘇木 紅花 蓮翹 黃連 防風

甘草 せんしやく

〇活血湯 瘀血の腹痛を定
て痛と治す

當歸尾 赤芍薬 紅花 桃仁

川芎 牡丹皮 延胡索 烏薬

枳殼 香附子 木香 肉桂 甘草

〇廣茂潰堅湯 熱腸して熱よて
脹満し腹は石の如く堅き積

ありて寐起す苦しみ二便を
喘息し身の内こたく腫を治す

厚朴 黄連 黄芩 益智 當歸
 草豆蔻 半夏 義木 升麻
 紅花 紫胡 吳茱萸 生甘草
 沢瀉 神曲 枳皮 陳皮 生姜
 と入せん 一りちゆ ○口うぐま 葛根
 ○九味 羌活湯 凡寒 子感傷 頭
 頂 勝脊 手足 強より 痛と治と
 まる 時夜の 症より かりと 晩子 発
 熱 してと 治と
 羌活 防風 蒼朮 川芎 白芷
 黄芩 生地黃 細辛 甘草
 姜棗 と入せん 服と ○一方 二の 柴
 胡 と入して 可なり

○瓜蒌 枳實湯 結 疝 疝 疝
 痛と 略とも 出ると 治
 一 支 日 中 前 の 食 積 の 痰 嗽 と 治 と
 瓜 蒌 仁 枳 實 枳 殼 枳 殼 貝 母
 陳 皮 黃 芩 山 梔 子 當 歸 砂 仁
 木 香 耳 中 一 ち ち 入 せん 用 と
 時 下 了 して 竹 瀝 姜 汁 と 入 用 ち
 ○ 二 三 実 痰 子 用 一 壺 痰 子 用
 事 多 け 終
 ○ 霍 香 正 氣 散 外 凡 寒 暑 湿
 子 感 一 内 飲 食 子 傷 九 内 傷 外 感
 相 兼 して 病 子 の と 治 と
 霍 香 大 腹 皮 白 芷 枳 殼 陳 皮

白木 厚朴 茯苓 半夏 紫菀
 甘草 姜棗と入る
 霍乱と轉筋と嘔吐と不食と
 痛と嘔吐と芍薬と寒痛と肉桂
 ○冷痛と干姜と痞と不食と
 香附子 砂仁 食滯と神曲麥
 牙 肉食してと二つふ山査子
 ○心下ぼく痞と枳實青皮
 ○乾霍乱と神曲 山査子 麥芽
 干姜肉桂と口と小便と
 せりふは五苓散と合方と
 ○廻陽救急湯 中寒と寒
 二ありし手足厥冷て肘膝より

上まで冷腹痛吐瀉口より白
 手汗と吐瀉と身戰慄
 顔の赤ひききと脈沈澱なり
 と治る 人参 白朮 茯苓 陳皮
 五味子 乾姜 肉桂 附子 半夏
 取草 一ヤクと入る
 ○化鐵湯 又真人化鐵湯とも
 名つ 積聚 癥瘕 痞癖と病
 て新病久病あり上下左右の
 日ころ多く押並て皆治る
 三稜 莪朮 青皮 陳皮 神麴
 山査子 香附子 枳實 厚朴
 黃連 當歸 川芎 桃仁 紅花

木香 枳實 子 耳 朝 三々々
ゆりちて入せん一用

也

○養血安神湯 血虚一火動
みりよ驚くまのを治と

白芍薬 當歸 川芎 柏子仁

苦連 陳皮 生地黃 白茯苓

酸棗仁 白朮 耳州 せん一服

○養血清心湯 癩狂とて俗
ふりくつ子カキと治と

人参 白朮 茯苓 遠志

酸棗仁 生地黃 石菖蒲

當歸 せん一用ゆ

○養血湯 腰股の筋骨のりて
治と 生地黃 當歸 川芎 茯苓

秦艽 肉桂 杜仲 牛膝 防風

土茯苓 耳草 せん一酒とこ

くくして用ゆ

末

蔓荊子散 上熱とて耳の内
より膿とかりとて治と

蔓荊子 升麻 木通 赤芍薬

麥門冬 生地黃 前胡 菊花

赤茯苓 素白皮 耳草

とをりて入せん一用と

○麻黃湯 傷寒とて頭痛

麻黄

麻黄

惡寒發熱身痛之汗多
脈浮數ありと治す

麻黄 二 桂枝 一 芍薬 二 甘草 一
杏仁 一 入るる

証

○玄白散 痢病の初発裏急
後重一腹やみ膿やみ血と治す
と下を治す実症にて仕盛

あつて用ゆ 大黄 生地黄

赤芍薬 當歸尾 檳榔子

枳殼 牽牛子 但赤痢は

黒牽牛子とりし白痢は白

を用以赤白痢とし血と滑

れきり下りし黒い白と

交つて我木半連己上九味と

せん一用

○荆防敗毒散 ところく此瘡毒

腫やとと大頭瘡と治す

人參 獨活 羌活 前胡 柴胡

枳殼 茯苓 川芎 桔梗 連翹

薄荷 荆芥 防風 白芍薬

銀花ととて人參と去

○荆芥連翹湯 凡熱と取

腫やとと治す 荆芥 連翹

防風 當歸 川芎 白芍薬

柴胡 枳殼 黄芩 山梔子

白芷 桔梗 取 擘 瓦 一 用 也

○鼻より清涕の絶え流るる

鼻淵と名は、此症より生地黃

とくして用べし

○驗胎散 婦人經水滞りて懐

胎々血塊りと疑ふと試ひ乃

於り川芎一味極細末して

一錢艾葉のどん汁にて空腹

服して一匙時して腹の内を

動し胎が孕ると動され胎は

ありと

○經驗調經湯 經水ある時

後ある時ハ前より少く又

く例は違て定るべきを治す

熟地黄 白芍薬 當歸 川芎

香附子 呉茱萸 黄芩 耳叶

紫荊皮 肉苳蓉 大腹皮

一ヤウラと入せん一服と

○啓脾丸 小児の食傷よりんて

吐瀉腹痛と治し又疳と治す

人参 白朮 茯苓 陳皮 山茱

蓮肉 沢瀉 細末して蜜を丸

一用也

不

○附子理中湯 中風の虚寒

の症と治す附子 人参 干姜

白朮 車前草 芍薬 茯苓 白朮 厚朴 陳皮
せん一服を○青皮陳皮とくくして
治中湯とつけ○陳皮茯苓と
くくして補中湯とくくして虚寒の池
浮と治と

○不換金正氣散 四時不正の氣
を春は次第に温め夏は温め秋は温め冬は温め
寒氣つら夏は次第に暑め秋は暑め冬は暑め
寒氣とくくして是等の常より
寒熱の往来あり
又ハ霍乱吐浮腹痛赤白痢
旅に出る水のかかりり中ら

厚朴 陳皮
霍香 半夏 蒼朮 車前草 姜
薬と入る用
○茯苓補心湯 陰虚熱痰咳
出て汗多胸痞吐血一壺血して
顔色を白くして治と

熟地黄 白芍薬 紫菀 陳皮
白茯苓 當歸 枳殼 半夏
川芎 葛根 桔梗 前胡 木香
甘草 人参 茯苓 白朮 厚朴 陳皮 沢瀉 白朮
○分消湯 水腫脹満と治と
蒼朮 厚朴 陳皮 沢瀉 白朮
赤茯苓 猪苓 枳實 大腹皮

香附子 砂仁 木香 生姜 灯心
 と入せん用。寒い肉桂。挑り
 黄連。腰より上の腫。霍香。○
 腰より下の腫。牛膝。黄柏。加
 白朮と云

○分心。飲一切の気。胸より
 胸。脹張。小便。咳
 嗽。不食。口中。渴。苦。手
 足。倦。怠。して。汗。多。と。治。と

紫菀 青皮 陳皮 大腹皮
 桑白皮 羌活 茯苓 半夏
 芍薬 木通 肉桂 甘草
 灯心と入せん服と

○佛手散 一名 佛手湯 産後
 其用。諸症。加減。通

用。當歸 川芎 芍薬 用

○一方。益母草あり。産後。ハ

人参 紅花。加。て。氣。を。補。い。瘀

血。を。除。く。神。効。あり。芍。薬。調。榮

湯。と。云。く。○児。枕。痛。延。胡。索

香附子 桃仁 莪朮 加。味。と

○茯苓 半夏 湯 水寒 胃滯

吐逆。を。治。と

茯苓 半夏 乾姜 厚朴 陳皮

砂仁 藿香 蒼朮 烏梅

干姜 甘草 入。服

古

○五苓散 中暑よりうりこ小便も通せしめし咽と渴を治す

沢泻 白朮 赤茯苓 猪苓 肉桂 姜 棗と入せん一用

○五積散 風湿寒よりうりこ頭痛

一身疼痛 項背拘急 惡寒 発熱 吐逆 腹脹 嘔吐 又内生冷 傷食

内外相兼て病あり婦人乃經水そのゆるす腰腹ゆるみ又難産と患ふ用

蒼朮 麻黄 枳殼 陳皮 桔梗 厚朴 干姜 當歸 川芎 芍薬

白朮 肉桂 半夏 茯苓 甘草 生姜と入煎一服と〇三子常子

そちゆるし麻黄と云て巻括す代てはし

○五淋散 一切の淋病を治す

最熱淋 言 赤芍薬 山梔子 赤茯苓 當歸 黄芩 耳州

せん一用〇一方は沢泻 木通 生地 黄車前子 滑石 白り膏

淋子草 薺 〇氣淋子青皮 〇勞淋子人參 〇熱淋子黄連と

すめ

○牛蒡子連湯 大頭瘡病と

牛蒡子 連翘

大頭瘡病と

治をせよ江戶抜箱等是ハ
上部の熱アリ連喬牛房子
玄參大黃荆芥防風桔梗
羌活石膏黃芩黃連甘草
しんじんと入せん用

○牛房子湯 凡抗て咽腫痛
りし咽瘡と生とと治と
牛房子 玄參 犀角 升麻
草薢 黃芩 木香 桔梗
耳中せん一服と○痰下瓜萎
貝母○野火上柴胡 吳茱萸
黃連○腎火上當歸生地黃
知母とくし

○五香連翹湯 瘰癧結核一切
の惡瘡無名の腫毒と治と

大黃連喬射干升麻 桑寄生
独活木通乳香 青皮 木香
麝香 甘草 せん一用ゆ大便

よ惡物と下さし煎湯と止

○五拗湯 風寒よ感冒一鼻小
さり声重く嘔咳一喘と治
と麻黃杏仁桔梗 荆芥
耳中しんじんと入煎一服と

○五七犀角湯 青盲と治と
犀角人參 茯苓 遠志 菴朮
黃芩 射香 甘草 せん一用

○五香湯 小兒の胎毒と云
子包湯子振出し用

丁香 木香 沉香 乳香 一湯

射香 三下 一が子木香と云 霍香

連喬と云 〇又ハ乳香射香と云

黄連 青皮 升麻 甘草 とうとて

小兒子常と云 ちゆもろ 〇梅

子五香湯ハ護后湯と書る 且

其方 秘と云も家傳の秘わり此

よハ世間通用の方と記とのみ

○五宝丹 楊梅瘡 其外 元名の悪

瘡少と新久く愈さると治と

鍾乳粉 三下 辰砂 三下 琥珀 竜腦

五香散 球ニリキ 細末して 毎服五

厘 別子 飛白麩 二下 半 炒過して

合して 一服と云 毎一料と云 十二

貼と云 一日ハ玉茯苓一帖と煎

十二碗と云 清晨ハ一碗と以て 菜

一貼と入攪勻へ服 其日ハ一帖

の玉茯苓の煎湯と服 冬と

如此と云 事 十二日ハ玉茯苓十

二帖と云 五宝丹十二帖と服 一

と此間ハ茶酒酢魚鳥房事と

いひ 〇今乃世の人切やく 玉茯苓と

服 〇今乃世の一切の青葉といふハ

大ウ誤アリ

○調中益氣湯 氣血兩虚
かいらの左右を痛と治と

黄芪 人参 蒼朮 當歸 陳皮
柴胡 升麻 黃柏 蔓荊子
細辛 川芎 せん一用

○調氣養血湯 氣とその血
と補ひ婦人の諸病産前産後
の諸病と治と

熟地黄 白芍薬 當歸 川芎
香附子 烏薬 砂仁 甘草
せん一用

○調榮滋絡湯 腰と閃瘀血

ろこり腰のつみ大便通せざる

治と 當歸 桃仁 紅花 大黃
牛膝 川芎 赤芍薬 生地黃
羌活 桂枝 せん一用

○調胃湯 婦人悪阻を飲
食と吐とを治と

白朮 茯苓 陳皮 半夏 砂仁
香附子 藿香 木香 益智
厚朴 白豆蔻 炒る當歸
炒る白芍薬 せん一用

入せん服と但半夏は生姜湯
と浸し泡と少くも蘓香油と攪
まを炒過し用き胎とを

と是ハ妊娠ハ人子ニ忌メテ
以テ之ヲ妊娠禁忌ノ菜味ナリ
奥子ニ忌ムコトナリ

○釣藤飲子 小兒吐瀉して脾胃
虚一慢驚風と発熱を治す

釣藤 鈎子 蟬脱 天麻 防風

全蝎 人參 麝香 川芎 麻黄

白強蚕 耳州 芝一用 ○虚寒

又附子と云ふ

○調気飲 小兒愛蒸し吐瀉し

驚風と云ふんを治す

人參 木香 香附子 陳皮

藿香 耳州 芍薬 芩朮

少くも

○調胃承気湯 傷寒大陽陽明

の症より悪寒を去りて悪熱

邪熱中焦ありて腹滿大便秘

結し狂言し吐瀉を治す

大黄 芒硝 甘草

先大黄甘草をせん查と云ふ

二つ芒硝と入一おこして服す

○安胃湯 膈噎翻胃の症を
食と吐く一納らざるを治す

人參 砂仁 藿香 黄連

蓮肉 陳皮 山茱 當歸

茯苓 白朮 半夏 干姜
生薑 烏梅 棗 入せん一用

左

○紫苓湯 惡寒、発熱、往来ありと治す

沢瀉 白朮 赤茯苓 猪苓

肉桂 柴胡 黄芩 人参

半夏 甘草 一やちりありと入

せん一服と

○柴胡芍薬湯 肝火さるうて
胸脇の脇ひみろくしと治す

木香 縮砂 香附子 當歸

竜胆 柴胡 川芎 白芍薬

青皮 枳殼 取草 ちまろくと
入せん一やちり

○犀角地黄湯 一切の吐血、咳

血、衄血、咯血、唾血とく血とんき

咳て血と吐鼻血と見ありと唾

血まうつとくともこの類と治す

當歸 赤芍薬 犀角 生地黃

牡丹皮 黄芩 黄連 せん一服

○細辛湯 拳毛倒睫と治す

防凡 知母 羌活 子 大黃 細辛

羚羊角 桔梗 黒参 せん一用

○催生飲 産婦のこやちり用

當歸 川芎 大腹皮 枳壳

百七

百七

白芷 せん一服と

○催生湯 産まじ腰腹の

暖水切りて猶産かざれと治と

桃仁 赤芍薬 牡丹皮

白茯苓 肉桂 せん一用

○催生散 難産まじ胞衣の

ありまを治と

白芷 伏竜肝 百草霜

滑石 甘草

五味と細末して 當酸一錢川芎

七分とせん一重便とて入服と

○柴胡湯 小児の智恵やと

して啼ふと治と

人参 夾門冬 酒に浸黒く

程炒して竜膽 防風 柴胡

甘草 せん一用

○犀角解毒湯 麻疹出て

大小便子血とくして又吐血衄血

あり二便通一かく麻疹赤

く痛細密よく咽くくと治と

まじ丹毒と治と

犀角 牡丹皮 赤芍薬 黄芩

生地黄 黄連 黄栢 山梔子

せん一少くと

○犀角消毒飲 丹毒熱さく

狂咽くれ痛一身赤く血と

治と 荊芥 黄芩 防凡

犀角 牛房子 車中 せん用

○柴胡芍薬湯 壊症の傷寒の

熱さしと大便心よりと小便赤く

咽くんとし不食とと治し

人参 黄芩 芍薬 知母

交門冬 生地黄 枳壳

甘草 せん一服と

○蒼朮白虎湯 傷寒陽明の症

大便溲とと治と

蒼朮 石膏 知母 甘草

せん一りらゆ

○倉廩散 疫痢と治と但この

薬が前曾の部より

○散邪湯 癰の初病寒熱頭

痛し身より汗あきと治と

羌活 紫蘇 荊芥 川芎

白芷 麻黄 白芍薬

防凡 甘草 せん一

服と○痰子陳皮○湿子艾君木

○食滯子香附子ととゆ

○柴胡芍薬湯 夜々いころ陰

癰子これと用て昼子引出して後

人参 截癰飲ととと

紅化 柴胡 桔梗 當歸 川芎

芍薬 人参 白朮 茯苓 陳皮

厚朴 葛根 車前 烏梅

一々うと入せん一用

○紫胡芍散湯 肝火さうりりて

脇のしと治と

香附子 當歸 柴胡 木香

砂仁 川芎 白芍薬 青皮

竜胆 枳壳 取中

右ヤん一少と

○散火湯 腹さうら痛さう

まう止て脈数さうら熱痛あり

黄連 芍薬 山梔子 枳壳

陳皮 厚朴 香附子 川芎

木香 縮砂 茴香 甘草

せん一をらゆのり其のそと甚し

く延胡索 乳香とさゆ

○雙合湯 濕痰瘀血て麻

木ととと治と

桃仁 紅花 白芥子 當歸

川芎 陳皮 白芍薬 半夏

茯苓 生地黄 甘草

さううと入せん一竹瀝とととて

服と

○三和散 三焦の気のそとを

和し心腹いさみ大便秘結一症を

脚の腰痛大便通せさうらとと

川芎 羌活 紫菀 木瓜

大腹皮 沈香 陳皮 白木

栝椰子 木香 杏仁 丁香 胡椒 一

方 砂仁 生薑 燈心 丁香 胡椒

○柴平湯 積塊の熱を屬を

ふまの飯治を

柴胡 黃芩 半夏 蒼朮

厚朴 陳皮 青皮 枳殼

神曲 山楂子 三稜 枳朮

甘草 姜棗と入る用

○柴胡通經湯 瘰癧馬刀

○柴胡と頂のかつら子有て石の如

く堅くして潰さると治す

柴胡 連翹 當歸尾 黃連

黃芩 牛蒡子 三稜

桔梗 紅花 生耳少

とんしと食後服と

○三拗湯 風寒を犯して鼻

塞して声を出さず音出を咳嗽

痰多く胸滿喘息を治す

生甘草 麻黃節 杏仁

但麻黃も節と去と杏仁も皮と

夫とと去とて各等分生薑

と入る用○些荊芥桔梗と

らとて五拗湯とす

○搜風解毒湯 楊梅瘡之

愈と筋痛疼しむと治す

土茯苓 二兩 金銀花 薏苡仁
防風 木通 木賊 白鮮皮 木瓜
皂莢子 卅水 大茶碗 二盃
煎 一日小三服 湯 一盃 〇 氣の
虚 八人 參 七分 〇 血虚 子 當 歸 七
分 〇 湯 〇

〇 枳 實 二 陳 湯 痰 の け り と ち て
心 痛 腰 脊 よ こ へ て 嘔 噦 と ち と
治 〇

枳 實 縮 砂 半 夏 陳 皮
香 附 子 草 豆 蔻 干 姜
厚 朴 茵 香 玄 胡 索

木香 牛草

生 姜 と 入 れ 〇 竹 瀝 と 〇 湯 〇 服 〇
〇 枳 縮 二 陳 湯 関 格 の 症 と 〇
上 吐 〇 食 〇 下 〇 小 便 通 〇 〇
と 治 〇

枳 實 茯 苓 貝 母 陳 皮
紫 菀 子 瓜 蒂 仁 香 附 子
厚 朴 砂 仁 川 芎 木 香
沈 香 車 前 子

〇 羌 活 湯 痛 風 と 治 〇
〇 羌 活 湯 痛 風 と 治 〇

羌 活 蒼 朮 黃 芩 當 歸
芍 藥 茯 苓 香 附 子 半 夏

陳皮 木香 車草

一々くを入せん一用の風のり

防凡の熱痰の痛瓜蒌根

枳実 竹瀝の血虚生地黄の上

のり威靈仙 白芷の下のり

黄芩 牛膝の痛くらくく

乳香の奔熱柴胡の小便を

る木通の臂の痛桂枝を加

歸脾湯 心脾の気虚

その忘きを治す

人參 白朮 茯苓 黄芪

當歸 遠志 酸棗 仁

木香 耳中 一々くくく入

一服と柴胡山梔子とく

て加味飲脾湯とあつ

○羌活導滯湯 脚氣の初発

身より悉く手足の骨節腫

り大小便秘澁とく老此湯

とあつて後子當歸拈痛湯とて

邪氣と散と

羌活 独活 當歸 防己

枳実 酒炒大黄

右六味一服と

○羌活勝湿湯 湿りて身

内りしを治す

羌活 独活 藁本 防己

川芎 蔓荊子 取草

しつと入る用。腰のつらみハ
防己の酒洗うとす。の身より
覺る黄柏蒼朮とすゆ
○芍薬補中湯 婦人の血氣
虚弱して懐妊しむも月満を
しつ小産あること治す

黄芩 人参 白朮 當歸

川芎 白芍薬 干姜

阿膠 五味子 杜仲 木香

取草 せんしつとす

○芍薬活湯 急驚風と及腹

目視 牙関 禁急と治す

人参 黄芩 杏仁 石膏

麻黄 肉桂 川芎 葛根

升麻 當歸 独活 耳中

しつと入る用

○姜桂湯 胃脘痛と胸の

水落のつらみ然も寒は属して初

て発と治す

乾姜 良姜 肉桂 藿香

蒼朮 厚朴 陳皮 耳中

木香 茴香 枳壳 砂仁

香附子 しつと入る用

下。痛くするしつと入る乳香。手足

冷て脈沈伏せん附子とすして

良藥と云

美

蜜導法 蜜と湯煎してい
ろを煉つら冷水の中へ入ると塊
るを多心は燃てとと尖ら此
と肛門の竅へ刺ころ置これい
たして虚いふる老人かの大
便秘結とを通とるの法あり
○又あるは皂角の末ととゆわ
けり

之

十味香薷飲 伏暑とて真夏の
暑気よりあつたれ身とと困

神昏から重くして吐瀉とる

と治と

人参 白朮 黄芩 茯苓

陳皮 木瓜 香薷 厚朴

白藹豆 耳叶 杏仁 芍薬

○凡邪あるは黄芩と去て羌活

ととる

○芍薬湯 痢病赤白ととる

裏急より後重ありて積滯を

と去とるものと治と

芍薬 黄連 黄芩 當歸

大黄 枳榔子 木香 肉桂

耳草 七介 ちらゆ 回春子

大黃肉桂と去て枳壳とろくゆ

○血とろくゆと黄栢とろくゆ

○四苓散 湿症と小便より引

るれがかり五苓散の肉桂とろく

四苓散とろくゆ 湿症の熱り

この是れ

○生津補血湯 年少人膈症

と患血燥て大便秘結とろくゆ

治と

枳実 陳皮 黄連 貝母

紫葳子 縮砂 沈香

當歸 白芍薬 熟地黄

生地黄 茯苓 己上十二味

生薬と入せん竹瀝とろくゆと

若菜と受と吐くとき時々

一口含ちろくゆて吞下す

も咽入胃子通る時効あり

○四物安神湯 心血虚して怔

仲と治と

熟地黄 生地黄 白芍薬

當歸 人参 白朮 茯苓

酸棗仁 黄連 山梔子

麥門冬 竹茹 烏梅

炒米一撮と入せん辰

砂とまやうと煎湯子搥くゆ

用○又兼て辰砂安神丸と服

とと

○瀉肺湯 脾肺の熱よく白睛
子鶏冠の如く蜆の肉の如き血肉
の如きものを生じると治す

桑白皮 地骨皮 黄芩

桔梗 甘草 杏仁 芍薬

○参芪益元湯 注夏病と治

人参 麦門冬 五味子

黄柏 知母 陳皮 甘草

茯苓 熟地黄 當歸

白芍薬 芍薬 烏梅 二つ

炒米一つを入る用

○滲湿湯 一切の湿症と治す

湿を腹脹満とる者と治す

陳皮 猪苓 沢瀉 砂仁

香附子 川芎 厚朴

白朮 茯苓 蒼朮

車中 生姜 燈心と煎て

○除湿羌活湯 湿を身と

羌活 防風 芥子

柴胡 藁本 蒼朮

甘草 杏仁 用

○小柴胡湯 傷寒少陽の症

半表半裏寒熱往來胸滿

脇ひきみ心いさね嘔吐一頭痛一耳
聾大便結とるを治とらと一
切寒熱往來の主方あり

柴胡 黄芩 人参
半夏 甘草

ちりりおのりて入せん服と

小續命湯 中風外邪あり

て頭痛一身熱一脊強と

治と 麻黄 人参 黄芩

川芎 杏仁 防己 桂枝

防风 附子 甘草

しちりりて入せん一用

○参桂湯 感冒とて頭痛

一発熱一咳嗽一痞滿痰喘と
るちの症と治と

紫菀 陳皮 茯苓

枳殼 半夏 葛根

桔梗 前胡 木香

甘草 生姜 入せん一用と

○升麻葛根湯 傷寒の頭痛

時疫とて憎寒は熱して身の

内して鼻乾と治一又痘疹い

ちと弁せと痘の凡つと疑似時

初病の内よ用ゆとれとも痘疹

とてとらて用へらと

升麻 葛根 芍薬 甘草

ちりくをいん用○咳ま新白
 皮の上焦の熱子黄芩薄荷○
 咽痛子荆芥桔梗○丹毒子紫
 胡山栀子黄芩木通とらゆ
 ○十神湯 傷寒時疫も棄
 熱惡寒頭痛一身了々汗るさ
 之のを治と

麻黄 葛根 升麻

川芎 赤芍药 紫葳

陳皮 香附子 白芷

甘草 ちりくをいん用

○十全大補湯 氣血兩虚と

大よちりくのがり

熟地黄 白芍药 當歸

川芎 人参 白茯苓

白朮 黄芪 肉桂 甘草

生姜 棗と入る用

○小承気湯 腸寒六七日大

便通せと潮熱とて時と違と

同し時か熱と 譫語の腹脹

こらて悶喘と治と

大黄 厚朴 枳実

とん服し大便通せん茶とらひ

○正氣天香湯 婦人一切の氣

痛胸赤子痞動氣ありて腹中

子塊あり経水そのわくを或は眩

量あり嘔吐し寒熱ありのときありと治
香附子 紫菀 陳皮

干姜 烏朮 車草

○四逆湯 手足ひんやりあり腰痛
吐瀉とらと治と

人参 乾姜 附子 車草

○参苓白朮散 脾胃虚の泄
浮と治と

人参 白朮 茯苓 陳皮

藿香 干姜 山茱 蓮肉

砂仁 訶子 肉豆蔻 車草

しんじゆの心と入る用

○升陽散火湯 ちんじゆ火散

湯とら 冷茶と過し冷る物
と食して火熱冷る子散とらと

内子散とらと治と

升麻 葛根 独活

羌活 芍薬 人参

防風 柴胡 生甘草

炙甘草 姜棗と入る用

○浮白散 凡寒とありとらと咳

喘と治と 桑白皮 地骨皮

車州 生姜と入る用 服とらと

芥子 人参 五味子 青皮 陳皮

茯苓 粳米とらとて東垣加減

浮白散とらと虚症のくしと咳と

治を陳皮知母細辛黄芩
 桔梗青皮とらえて加減浮白散
 としつ熱の咳喘と治を
 ○順氣和中湯 膈噎翻胃
 て心腹さしむ悪心痰水と吐
 と治を

塩まで炒陳皮 醋を炒香附
 子生姜の汁を炒山梔茯苓
 半夏 礞石 枳实 神曲 白朮
 甘草 姜汁を浸炒黄連
 して入せん用る時竹瀝蜜
 便生姜汁とらえ服を
 ○浄府湯 小兒の癖疾を治

熱憎寒口干小便赤く大
 便なり腹脹不食身黄瘦
 白と治を

柴胡 茯苓 猪苓
 三棱 莪术 山查子
 沢泻 黄芩 白朮
 半夏 人参 胡黄連
 甘草 芍药 枳实
 ○生熟地黄湯 小兒疳と病て
 目開くと治を
 川芎 赤茯苓 枳殼
 杏仁 黄連 半夏
 天麻 地骨皮 生地黄

熟地黄 取草

生薑 黑豆と入せん一用

○ 参末 紫苓湯 急驚風と治

人参 白朮 茯苓

陳皮 釣藤鉤子 紫胡

升麻 山梔子 取草

○ 浮白 消毒散 麻疹と効

熱一痛痒 覺えなう 其症と

一輕こよ用

素白皮 地骨皮 牛房子

荊芥 桔梗 浮萍

○ 神功散 抱瘡と惣身

取草 せん一用

赤く血をとりて抱瘡の界より

とと或は吐血一血血と出吐

浮かとする症とありしともの

多く治し難し箇様の病人

此方と與ゆ

人参 黄芪 芍薬

紫草 生地黃 紅花

牛蒡子 前胡 耳中

せん一用と。浮きと。紫草

と去す

○ 参芪四聖散 抱瘡六七日

よりりても起脹と膿あけと痒

し中瘡よめと治す

當歸 芍藥 川芎
 黃芪 白朮 茯苓
 紫菀 防風 木通
 糯米 せん一用〇とく 溼せ

と紫芍と去一

〇參芪内托散 痲瘡よ血気

虚して出たりひ難く或は凡寒

ありひ穢すき子犯されて出

そらひ難さと治と

黄芪 當歸 人参
 川芎 防風 桔梗
 厚朴 白朮 木香
 肉桂 取少 糯米

せん一服を

〇十六味流気飲 婦人の乳岩

ありひ穢すき子犯されて出

治と

當歸 川芎 芍藥
 白朮 肉桂 人参
 黄芪 木香 烏朮
 厚朴 枳殼 煨榔子
 紫菀 枳凡 桔梗
 取少 せん一用ゆ〇乳の

まの青皮橘葉とらゆ

〇紫菀和気飲 婦人の産

まの諸症と治を

蓮肉 燈心と入せん一服を

○噤口痢子黄連炒米とらるる

○參歸養榮湯 瘡を截て後

これを以てて血氣を調へるなり

と一

當皈 熟地黄 白芍薬

人參 白茯苓 陳皮

砂仁 厚朴 山薬

蓮肉 甘草 せん一服を

○滋陰降火湯 陰虛火動と

治と

當皈 芍薬 熟地黄

天門冬 麥門冬 生地黄

白朮 陳皮 黄柏

知母 甘草 生姜 棗

と入煎し作瀝重便姜汁と

らるる服と○骨蒸の熱と地骨

皮柴胡とらるる○虚熱よりと

らるる黒く炒乾姜とらるる

○滋陰至寶湯 虚勞一勞熱

よりりて咳嗽一惡寒をわゆる小

柴胡散とらるる一志をわゆる若

是を効るる此がとらるる由也

先大低の虚勞より汗ありまは此方

より汗るるは茯苓補心湯

と用いし是は表裏の利あり

白朮 茯苓 當歸
芍藥 柴胡 陳皮

貝母 薄荷 香附子

地骨皮 麥門冬 甘草

○秦艽扶羸湯 虛勞骨蒸

之勞嗽一寒熱而声啞自汗

四肢怠惰と治す

秦艽 鱉甲 人參

當歸 半夏 紫苑

柴胡 地骨皮 烏梅

甘草 芍藥 人参

せんーとらん入

○四君子湯 脾胃虚の諸

症は此方が加味して用

人参 白朮 茯苓

甘草 生姜と入せんーとらん

○此方は陳皮とらえて異功散と

す○異功散は半夏とらえて六

君子湯と名づく

○滲濕湯 一切の湿症を腹脹

満るもの治す

陳皮 沢瀉 猪苓

香附子 川藟 厚朴

縮砂 白朮 蒼朮

甘草 せんーとらん入

○参芪湯 自汗とろを治す

人参 白朮 黄芩

茯苓 當歸 熟地黄

甘草 酒炒芍药 白芍药

酸棗仁 牡蠣 陳皮

烏梅 芡实ニツ 小麥の批

一つをみ入せん一服と

○参芪湯 氣虚少らと小

便多しと治と

人参 黄芩 茯苓

當歸 熟地黄 白朮

陳皮 升麻 益智

肉桂 甘草 芍药

と入せん一用○虚寒子附子と加ゆ

○参芪湯 脱肛と治と

人参 黄芪 周麻

當歸 生地黄 白朮

芍药 茯苓 陳皮

甘草 桔梗 姜棗と入

せん一用○虚寒子附子と加ゆ

○潤腸湯 大便の秘結と治と

杏仁 枳殼 厚朴

黄芩 大黄 甘草

せん一服と○氣虚子人参郁李

仁○血虚子當歸熟地黄○と

煎子木香枳椇子○凡關子姜

滋郁李仁○聖藥子紫研之加
○滋腎明目湯 腎虛
眼病と効と治を

生地黃 熟地黄 蔓刺子
山梔子 白芍薬 人参
桔梗 黄連 白芷
菊花 當歸 川芎
耳中 細茶 灯心

○修肝散 塵埃 珠乃
糸ふの目子入すと治を
所凡 羌活 當歸
生地黃 黄芩 山梔子

○除熱飲 小兒の肝癰
取ガビん一服と之し

アも目とくふ又大人もも肝
心の二経と勞傷し身は短
アも人或は婦人の淫乱し肝心
と傷ハ眼赤く涙ア開く
痛て頭より人涙出て着明と
治を

黄連 黄芩 黄蘗 黄芩
玄参 所凡 知母
連香 竜膽 柴胡
蔓刺子 桔梗 芒刺子

せん一用〇熱ふかりしるる大黃
朴硝とくろふ

〇滋腎通耳湯 腎虚して耳
なり聞へる此を治す

黄柏 黄芩 知母

生地黃 芍薬 當歸

川芎 柴胡 白芷

香附子 せん一服を

〇滋陰地黄湯 右の耳のと

とこいを慾過て火の動しと

なり此方よりく

熟地黄 芍薬 當歸

川芎 山茱萸 山茱

牡丹皮 遠志 茯苓

知母 黄柏 沢瀉

せん一用しるるゆゆ

〇秦芫羌活湯 牡痔の二瘻

と治し漏と治す

秦芫 羌活 黄芩

防凡 升麻 麻黄

柴胡 藜蘆 細辛

紅北花 耳中 せん一く

〇秦芫防凡湯 痔漏子て大

便の時より治す

秦芫 防凡 當歸

白木 沢瀉 黄柏

升麻 陳皮 紫胡
升麻 桃仁 紅花

せん一用を

○升麻和氣飲 疥癬

癩て寒熱一張囊をくろくま

と治と

升麻 葛根 白芷

蒼朮 當歸 半夏

干姜 芍薬 陳皮

桔梗 茯苓 枳壳

大黃 甘草

せん一用を

○椒梅湯 虫く腹のり

治と

烏梅 秦椒 檳榔子

枳實 木香 香附子

縮砂仁 肉桂 厚朴

川練子 干姜 甘草

せん一用を

惠

益黄散 小兒脾胃虚寒

吐瀉を治と

檳皮 青皮 訶子

下子 甘草 せん一服と

一子木香 砂仁 厚朴

○益元散 胃腕子積熱

瘡を治す

木香 砂仁 枳殼

肉桂 耳少 烏茶

香附子 青皮 厚朴

陳皮 川芎 蒼朮

しんじゆをいせんと服す

○没薬散 打目突目目尻

のめくひと治す

大黃 芒硝 麒麟竭

没薬

細末して食後茶少て服す

世

○千金内按散 瘡疽へす

成固ちん疑され此茶を散す

瘡疽己は疑てハ此茶を少て服す

とかく此茶の能ハ悪肉と去生肉と

生じゆの功あり

人参 厚朴 桔梗

黄芩 當故 川芎

防風 白芷 桂枝

金銀花 甘草

せんし服す

○千金湯 婦人の産前産

後の諸症は加減の法と以て治

せんし事あり

當故 川芎 芍薬

胎前 車前子 乾姜 木通 大便秘
 結腫 胎前子 木通 大便秘
 難產 子車前子 乾姜 木通 大便秘
 の子衝のり 又胎動とて腰の
 子動さ痛子厚朴 茯苓 車前子
 産後 子腰腹痛子厚朴 延胡
 索と加ゆ
 仙方活命湯 痘の後との

餘毒 身痒 腫 疔 疔
 治す

- 白芷 防風 沒薬
- 赤芍薬 當歸 皂角子
- 穿山甲 天竺粉 乳香
- 貝母 陳皮 耳草

清熱化滯湯 小兒の痢
 病と治す

- 白芍薬 黃連 但黃連
- 吳茱萸と浸し 水に漬炒
- て用の 陳皮 茯苓
- 枳殼 黃芩 生薑と入

せん一用〇血痢とせせし赤痢
 當飯地榆〇白痢とせせし人
 滑膜子厚朴枳殼〇赤痢とせ
 血とせせし子當歸川芎後重
 とせ度敷多く痢子ゆく升麻〇
 痢子の黑豆乃汁の如く多し茶
 木白木防風とせ白
 〇清暑益氣湯 六月土用の
 時分の強く暑湿よりしれ手
 足困倦多し心気さやく立居し
 煩く身熱し氣高し心のぞれ
 りしを治す

人参 白朮 陳皮

神曲 沢浮 黄芩
 蒼朮 車前 升麻
 麥門冬 當飯 黄柏
 五味子 青皮 乾姜
 せん一服を注夏病のしひ也
 〇生脈散 老人もこの虚弱者
 人の暑氣下りり暴子司らるる
 作て息絶んとするを治る勞役
 の人もこの虚弱者怯弱人をハ
 夏の内つ〇一服しせり
 人参 五味子 麥門冬
 せん一服と又粉かりて白湯とせ
 ころらゆもこ

○潔熱除濕湯 くらくの黄
疸と治す

黄連 黄芩 山梔子

茵陳 猪苓 沢瀉

蒼朮 青皮 竜胆

せん一服を二穀疸をも五穀と

食し過して疸とあるま三稜莪

朮陳皮砂仁神曲の大便秘

結せん大黃の酒疸をも酒と過

し疸とあるま此薬に葛根と

くらく

○清上泻火湯 熱症の頭痛

と治す冬の嚴寒にも炭火子

對する方々と頭痛といふもの可

當歸 蔓荊工 蒼朮

羌活 柴胡 川芎

生地黄 黄連 荊芥

升麻 細辛 甘草

生薬本 防凡 黄芩

黄柏 知母 炙甘草

黄芩 紅花 せん一用

○川芎茶調散 風症の頭

痛す頭をやく目昏沈鼻よ

り声濁るなどの症に用

荊芥 川芎 薄荷

香附子 羌活 炙甘草

白芷 一斤 防凡 七分

細末して 煎後子茶として服す

○選奇湯 凡熱痰の態を

肩後骨に引くを治す

羌活 半夏 防凡

夏に生甘草 冬に炙甘草 春と

夏と秋に酒製の黄芩とらへ

とんり用

○清熱解毒湯 小の了み

く治せと 爵熱らるる用

山梔子 枳壳 川芎

黄連 香附子 黑炒乾姜

陳皮 蒼朮 乾姜

○清肺湯 先痰と吐て後

血と吐い積熱なり此湯より

茯苓 陳皮 當歸

生地黄 芍薬 天門冬

麥門冬 黄芩 山梔子

耳草 何縷 桑白皮

紫苑 烏梅 桑葉と入

せん一服と〇喘に紫菀子を加

一〇天門冬と去

○清肺湯 大便下血して湿熱

に属する者治す

當歸 地榆 黄芩

山梔子 黄柏 白芍药 侧柏叶 阿膠 槐角 川芎 生地黄

せん一用 ○腸風子 荆芥とせん

○清腸湯 小便子血と治す

當歸 生地黄 山梔子

黄連 芍药 黄柏

瞿麥 赤茯苓 扁蓄

木通 知母 麥門冬

耳草 烏梅 灯心

右十五味せん一服と

○清咳湯 咳血と咳て痰

吐子血の患ゆと治す

當歸 白芍药 桃仁

貝母 白朮 青皮

桔梗 牡丹皮 黄芩

山梔子 耳少せん一用中

○潮熱子柴胡 赤茯苓

○清血湯 鼻血と治す

當歸 芍药 生地黄

香附子 山梔子 黄芩

黄連 赤芍药 桔梗

側柏叶 藕節 耳少

せん一童便とせん一服と

○清壅湯 唾血とて唾一血の交て出ると治す

- 知母 貝母 桔梗
- 熟地黄 玄参 遠志
- 天门冬 麦门冬
- 黒く炒す 乾姜

○清咯湯 咯血い腎より出ると血のそろくと堅くとろろを咯い

- 陳皮 半夏 茯苓
- 知母 貝母 生地黃
- 山梔子 桔梗 杏仁

阿膠 桑白皮 桂枝

○清心蓮子飲 白濁とて小便の後つ白濁物

と出り婦人の帯下ありや又ハ淋病と治しあるは遺精とて

覺へて夢中子淫精のこころふとの症子用ゆ○此茶心神と養ひ精を固く陰火と清く

- 蓮肉 人参 黄芩
- 麥門冬 赤茯苓 猪苓
- 沢瀉 車前子 黄芩

黄芪 耳中 せん一服と

○腎熱より黄柏 知母とらゆ

○清心化痰湯 せんくの狂

氣を治す

天南星 半夏 陳皮

白茯苓 黄芩 黄連

當歸 生地黃 川芎

人參 酸棗仁 石菖蒲

取草 生姜 せん一用

○清心抑胆湯 癲癇と治

麥門冬 川芎 人參

遠志 當歸 芍薬

白木 茯苓 陳皮

半夏 枳実 竹茹

石菖蒲 香附子 黄連

耳中 せん一服と

○清暈化痰湯 眩暈と治

陳皮 半夏 茯苓

川芎 白芷 羌活

枳実 天南星 防凡

細辛 黄芩 耳中

せん一服と ○氣虚より人參白

朮とらゆ ○血虚より當歸川芎

○熱より黄連とらゆ

○洗肝明目散 一切風熱の

眼病と治す

當歸尾 川芎 黃連

赤芍藥 石膏 黃芩

生地黄 連翹 防風

山梔子 荊芥 薄荷

蔓荊子 羌活 菊花

草沒明 桔梗 白茯苓

歌草 皂角 白芍藥

○洗肝散 芍藥 白芍藥

赤く腫るるを治す

大黃 山梔子 防風

薄荷 當歸 川芎

羌活 歌草 皂角

○清胃散 胃熱を上下

の赤く腫るるを治す

當歸 生地黄 牡丹皮

細茶 升麻 細辛

黃連 大黃 黃芩

皂角 服す

○清胃湯 胃火を上下を治す

腫るるを治す

山梔子 連翹 牡丹皮

黃芩 升麻 白芍藥

桔梗 藿香 黃連

生地黄 石膏 歌草

皂角 服す

○清胃湯 疔瘡の後牙

疔瘡の腫れを治す
升麻 當歸 黃連
牡丹皮 芍藥 甘草 薄荷 用

○清胃升麻湯 小兒の疔

腫れを流し膿を走馬
升麻 川芎 半夏
白朮 白芍藥 葛根

疔瘡と治す
石膏 甘草 芍藥 用

○清涼散 三焦の火熱を
口舌の瘡と生じると治す

連翹 黃芩 山梔子
桔梗 黃連 薄荷
當歸 枳殼 芍藥
生地黃 甘草 芍藥 用

○清熱如聖湯 舌の下腫れ

破るれん黄色を痰出て復や
破るれん腫れを治す

枳壳 荊芥 薄荷
天花粉 山梔子 黃連
牛蒡子 連翹 紫胡
甘草 芍藥 用

○清上防風湯 凡熱の毒を

頭や面を瘡と生じると治す

防風 羌活 獨活 川芎 白朮 芍藥 甘草 薄荷 用

○清上防風湯 凡熱の毒を

頭や面を瘡と生じると治す

防凡 荊芥 山旋子
 黃連 薄荷 枳壳
 連翹 白芷 桔梗
 川芎 黃芩 耳聾
 〇清血四物湯 血熱を酒
 查鼻と鼻尖赤く印を治
 當飯 川芎 白芍薬
 酒子て洗う生地黄
 黄芩 紅花 茯苓
 陳皮 耳草 〇んく用
 〇時五靈脂の末を酒を加へ用
 〇んく用

〇清肺湯 小兒の肺癆を咳
 嗽し鼻を赤く鼻甲と咬寒熱
 〇んく用

桑白皮 紫菀 前胡
 黄芩 當飯 麥門冬
 連翹 防凡 赤茯苓
 桔梗 生地黄 耳聾

〇〇〇 〇んく用
 〇〇〇 大人小兒を治す
 喉痺を治す

桔梗 荊芥 玄参
 山豆根 防凡 升麻
 牛蒡子 竹葉 取中

せんいりりも

○錢氏白朮散

小兒吐瀉也

チリチリして驚風しとありちりり病
後子身の津よとくしてコクも
咽うとと治す

人參

白朮

茯苓

藿香

木香

葛根

甘草

せんいりりも

○小兒常子吐瀉して驚風と

ぢんじんととらふ山茱白朮

豆肉豆蔻の慢驚風ととらふ

癸らん細辛 天麻 全蝎とく

コク

○惺々散

小兒の感冒咳嗽

くそ発熱とと治す

人參

白朮

茯苓

桔梗

細辛

甘草

薄荷

瓜萎仁

せんいりり用ゆ

但一尋常子用らふ人參と云

○消癖湯

小兒の癖疾子

て發熱し口くさ小便のとと

治す

人參

白朮

茯苓

半夏

柴胡

黄芩

猪苓

沢瀉

三稜

麥門冬

義木

山査子

胡黃連 せんしやくと

○消食散 小児の食傷を治す

腹のふみ食物をふせよ 面色黄子

して白睛くらむらむら治す

山査子 神麴 砂仁

麥芽 白朮 陳皮

青皮 甘草 生姜

せんしやくと

○消痔湯 小児痔を治す

熱く面色黄子して腹大に脹す

筋出次第子瘦ると治す

胡黃連 神麴 黃連

青皮 砂仁 人参

白朮 茯苓 陳皮

甘草 姜 棗と煎用

○消毒飲 疔瘡出ると

見へて出難く又い出ると

熱いまま退くと雲頭と赤くの

ミありて鮮ふくと急き是と

せんしやくと

牛蒡子 荊芥 防风

甘草 黄芩 犀角と煎用

消毒飲とよ能熱毒と担毒と

解と○虚熱よ地骨皮○熱と

り多ふ黄芩紫葳○六神子

百七十三
躑躅退○氣虚子人參白朮○血
虚子當歸川芎とらる由

○消疳敗毒散 下疳瘡子

独活 防风 連翹

荆芥 黄連 蒼朮

知母 黄柏 龜胆

赤芍藥 赤茯苓

木通 紫胡 耳中脂

燈心と入る服をの便毒実

熱大黃とらる由

○消風敗毒散 楊梅瘡の

とらる由を治す

當歸尾 川芎 升麻

赤芍藥 葛根 黄芩

生地黄 黄連 黄柏

金銀花 連翹 防风

羌活 蟬脫 耳中脂

とらる由のあらはれ大黃とらる由

○逍遙散 婦人の虚勞寒熱

頭痛咽のり月経のゆると

おとしの諸症と治す此があらと

ら肝脾血分とらる由のあり

白朮 茯苓 當歸

芍藥 柴胡 甘草

生姜と入る服を○此二方子杜

丹皮 山梔子 芍薬 加味 逍遥散
散と多々

須

○水火令清飲 小便白く能
濁ありと治す

益智 草薢 石菖

赤茯苓 車前子

猪苓 沢瀉 白朮

陳皮 枳壳 麻黄

甘草 せん一服と○あり

○酒半分して煎じるとあり○

大抵、麻黄と去て升麻とを

一から下

○推拿散 肝邪肺子入て石

の腸いしむと治す

姜黄 枳殼 桂心

右三味、生姜を入らん一服と

○一が陳皮半量とあり

以上の諸方、分量を記す

事、蓋古方の分量ありと

いへも病の浅深、病因の輕

重よりりて時のちんごころ

促ひて其分量も異ふべ

しある故、丸丹の外、煎

薬の方、劑子ハ、其業

品の量を注て量目と畧と

○妊娠禁忌の薬にて孕する女の産前子薬を用いる事ある時分ら此薬味と除てはふる事考のより此子記と

- | | | | |
|-----|-----|-----|----|
| 木通 | 烏頭 | 附子 | 肉桂 |
| 天南星 | 半夏 | 巴豆 | 大戟 |
| 芫花 | 藜芦 | 薏苡仁 | |
| 牛膝 | 皂莢 | 牽牛子 | |
| 厚朴 | 桃仁 | 牡丹皮 | |
| 茅根 | 乾漆 | 瞿麥 | |
| 三稜 | 紅花 | 蘇木 | |
| 夾竹桃 | 冬葵子 | 常山 | |
| 代赭石 | 牛黄 | 麝香 | |



○婦人懐胎の内慎食と云ふことの類

- 鯉 鱸 蟹 龜 姜
 雀 馬刀 兎 諸の畜の内
 そらぐくの石菜

日用醫療指南大成終

于時享保十一 正月吉日

文政五壬午五月校正

大坂心齋橋博愛町

伊丹屋善兵衛板

